

都城工業高等専門学校	建築学科	開講年度	平成28年度(2016年度)
学科到達目標			
建築学科の目的 (1) 建築の企画、設計及び施工において責任能力を有し、環境への影響に配慮できる人材を養成する。 (2) 建築の伝統を発展的に継承し、建築分野における最新技術を応用できる人材を養成する。 学習・教育目標とサブ目標(低学年) 学習・教育到達目標(高学年) 1.あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成(A)あらゆる可能性を追求できる豊かな創造性を有する技術者の育成 1-1. 社会の要求あるいは学術的関心に基づいたアイデアを検証することができる基礎技術を身につけていること(A1)社会の要求あるいは学術的関心に基づいたアイデアを提案し、その検証・改善が継続的にできること。 1-2. 専門技術に関する創造的構想を具現化するための基礎技術を身につけていること(A2)専門技術に関する創造的な構想を、デザイン化するためのトレーニングを通じて、具体的な成果としてまとめられること。 2.科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する(B)科学と工学の知識を駆使して技術的問題を解決し、新規生産技術をデザインできる優れた知性を有する 技術者の育成技術者の育成 2-1. 工学の専門科目の基礎となる数学、自然科学および情報科学の理論を理解し説明できること(B1)解析・線形代数などの数学、量子論などの応用物理および情報通信技術に関し、基礎工学および応用的 2-2. 技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解し説明できることな専門工学を学ぶのに必要な理論を理解して説明や応用ができること。 2-3. 工学に関する問題点を理解し、適切に対処できること(B2)技術的諸問題を解決するための基礎工学の知識を理解して説明や応用ができること。 2-4. 性能、安全性、環境への影響、経済性または審美性などを配慮できること(B3)工学に関する問題点を見出し、その解決方法を提案できること。 (B4)性能、安全性、経済性、審美性または環境への影響などを考慮して新規生産技術をデザインできること。 3.世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成(C)世界の歴史・文化および倫理を常に考え国際社会に貢献できる高度な社会性を有する技術者の育成 3-1. 日本の内外の歴史や文化に関するさまざまな事柄を認識できること(C1)地球的視点から世界の歴史・文化および倫理を学び、生活様式や価値観の多様性を認識できること。 3-2. 社会のさまざまな価値観や規範を理解し、社会の構成員としての自覚を持っていること (C2)具体的な事例をもとに、技術者が負っている社会的責任を理解できること(技術者倫理)。 3-3. 言語等の表現手段によって他者と意思などを疎通させる能力を持っていること(C3)英語で書かれた専門分野の文献が読解できること。 (C4)日常的な話題について外国語でコミュニケーションができること。 4.自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力を有する技(C5)日本語で自分の意見や研究成果を論理的に記述し、その内容について口頭発表および討議ができること。 術者の育成 (D)自然・社会環境に関連する諸問題に積極的・計画的に取り組み、継続して推進する確かな実行力を有する技 4-1. 科学技術が自然・社会環境に影響を及ぼす諸問題を理解できること (D1)科学技術が地球の自然・社会環境に及ぼす諸問題を理解し、説明できること。 4-2. 関連する人々と協力して、自分の研究や実験課題に積極的・計画的に取り組むことができること(D2)自分の研究や実験課題に関して、自主的、継続的に最新の技術情報を収集し、妥当な結論を導けること。 4-3. 健康・安全を保持する基礎能力を身につけ、自然・社会環境に関する諸問題に積極的に取り組むことが (D3)実習や研究に関連する人と協力し、期限内に成果をまとめられること。 できること 学習・教育到達目標とJABEE基準1の(1)の対応関係 (a)地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 (b)技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解(技術者倫理) (c)数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力 (d)該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力(分野別要件) (d)(1)基礎工学の知識・能力 ①設計・システム系科目群、②情報・論理系科目群、③材料・バイオ系科目群、④力学系科目群、 ⑤社会技術系科目群の5群からなり、各群から少なくとも1科目、合計最低6科目についての知識と能力 (2)専門工学の知識・能力 (d)(2)a専門工学(工学(融合複合・新領域)関連分野)における専門工学の内容は申請高等教育機関が規定するものとする)の知識と能力 (d)(2)bいくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力 (d)(2)c工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決する能力 (d)(2)d(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力 (e)種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 (f)日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力			

(i) チームで仕事をするための能力

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q
一般	必修	国語	0001	履修単位	3	3																	望月 高明 松崎 賜				
一般	必修	総合社会Ⅰ	0002	履修単位	2	2																	藤永 伸				
一般	必修	基礎数学Ⅰ	0003	履修単位	4	4																	本田 淳史				
一般	必修	基礎数学Ⅱ	0004	履修単位	2	2																	黒木 藤夫				
一般	必修	物理	0005	履修単位	2	2																	田原 良信				
一般	必修	化学	0006	履修単位	4	4																	森 寛				
一般	必修	保健体育	0007	履修単位	3	3																	武田 誠司				
一般	必修	英語	0008	履修単位	3	3																	宮沢 幸				
一般	必修	オールラル英語	0009	履修単位	2	2																	西村 德行				
一般	必修	英作文	0010	履修単位	1	1																	崎山 強				
一般	必修	情報基礎Ⅰ	0011	履修単位	2	2																	中村 博文				
一般	選択	美術	0012	履修単位	1	2																	川畑 清美				
一般	選択	音楽	0013	履修単位	1	2																	今村 祐子				
専門	必修	建築設計演習	0014	履修単位	2	2																	小原 聡司				
専門	必修	建築デザイン基礎	0015	履修単位	1	2																	杉本 弘文				
専門	必修	建築デザイン演習	0016	履修単位	1	2																	林田 義伸				
専門	必修	建築構造Ⅰ	0017	履修単位	2	2																	大岡 優 浅野 浩平				
一般	必修	国語	0032	履修単位	2				2	2													内田 凉子				
一般	必修	総合社会Ⅱ	0033	履修単位	2				2	2													藤永 伸				
一般	必修	微分積分学Ⅰ	0034	履修単位	4				4	4													友安 一夫				
一般	必修	代数学	0035	履修単位	2				2	2													小塚 和人				
一般	必修	物理	0036	履修単位	3				3	3													森茂 龍一 恵下 斂				
一般	必修	総合理科	0037	履修単位	2				2	2													山下 宗邦				
一般	必修	保健体育	0038	履修単位	2				2	2													武田 誠司 松元 博子				
一般	必修	英語	0039	履修単位	3				3	3													飯尾 高明				
一般	必修	英文法	0040	履修単位	2				2	2													福田 佳奈子				
一般	必修	英会話	0041	履修単位	1				1	1													バット ランド ダンカン				
専門	必修	情報基礎Ⅱ	0042	履修単位	2				2	2													中村 博文				
専門	必修	建築設計演習	0043	履修単位	3				3	3													林田 義伸				
専門	必修	構造力学	0044	履修単位	2				2	2													加藤 巨邦				
専門	必修	コンピュータ援用学	0045	履修単位	2				2	2													中村 裕文				

専門	必修	建築構造Ⅱ	0046	履修単位	2	2 2																加藤 巨邦	
一般	必修	国語	0031	履修単位	2	2 2																松崎 賜	
一般	必修	総合社会Ⅲ	0032	履修単位	2	2 2																田村 理恵	
一般	必修	微分積分学Ⅱ	0033	履修単位	4	4 4																本田 淳史	
一般	必修	数学特論	0034	履修単位	2	2 2																藤崎 恒晏	
一般	必修	応用物理	0035	履修単位	2	2 2																森茂 龍一	
一般	必修	保健体育	0036	履修単位	2	2 2																永松 幸一, 松元 博子	
一般	必修	英語	0037	履修単位	3	3 3																福田 佳奈子	
一般	必修	英会話	0038	履修単位	1	1 1																バットランドカン	
一般	必修	日本語	0048	履修単位	2	2 2																田中 利砂子	
専門	必修	建築計画	0039	履修単位	2	2 2																中村 孝至	
専門	必修	建築設計演習	0040	履修単位	4	4 4																杉本 弘文, 石躍 健志	
専門	必修	建築CAD演習	0041	履修単位	2	2 2																中村 裕文	
専門	必修	日本建築史	0042	履修単位	1	2																林田 義伸	
専門	必修	構造力学	0043	履修単位	2	2 2																平田 光春	
専門	必修	材料力学	0044	履修単位	1	2																浅野 浩平	
専門	必修	建築材料	0045	履修単位	2	2 2																原田 志津男	
専門	必修	測量学	0046	履修単位	1	2																大岡 優	
専門	必修	建築学実験	0047	履修単位	2	2 2																原田 志津男, 大岡 優	
一般	必修	国語	0039	履修単位	2	2 2																望月 高明	
一般	選択	法学	0040	履修単位	2	2 2																青木 誠弘	
一般	選択	歴史学概論	0041	履修単位	2	2 2																田村 理恵	
一般	選択	社会学	0042	履修単位	2	2 2																藤永 伸, 梅津 順一郎	
一般	必修	微分方程式	0043	履修単位	2	2 2																向江 頼士	
一般	必修	応用数学	0044	履修単位	2	2 2																野町 俊文	
一般	必修	応用物理	0045	履修単位	2	2 2																若生 潤一	
一般	必修	保健体育	0046	履修単位	2	2 2																永松 幸一, 松元 博子, 瓜田 吉久	
一般	必修	英語	0047	履修単位	2	2 2																笹谷 浩一郎	
一般	選択	英語	0048	履修単位	2	2 2																崎山 強	
一般	選択	ドイツ語	0049	履修単位	2	2 2																飯尾 高明	
専門	必修	建築計画	0050	履修単位	2	2 2																杉本 弘文	
専門	必修	建築設計演習	0051	履修単位	6	6 6																中村 孝至, 杉本 弘文, 板越 政幸	
専門	必修	意匠CAD演習	0052	履修単位	1	2																中村 裕文	

専門	必修	西洋建築史	0053	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																	2						林田 義伸	
																2														
専門	必修	構造力学	0054	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																	2	2					板倉 和則	
																2	2													
専門	必修	鋼構造学	0055	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																	2	2					平田 光春	
																2	2													
専門	必修	RC構造学	0056	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																	2	2					浅野 浩平	
																2	2													
専門	必修	建築環境工学	0057	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																	2	2					小原 聡司, 中村 裕文, 杉本 弘文, 大岡 優, 浅野 浩平	
																2	2													
専門	必修	建築学研究	0058	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																		2					林田 義伸, 原 志加, 藤 巨邦, 小原 聡司, 中村 孝至	
																	2													
専門	選択	校外実習	0059	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																	2						大岡 優	
																2														
一般	選択	国際文化論Ⅰ	0043	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			飯尾 高明	
																		2	2											
一般	選択	国際文化論Ⅱ	0044	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			田村 理恵	
																		2	2											
一般	選択	哲学	0045	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			松崎 賜, 藤永 伸	
																		2	2											
一般	選択	産業財産権法	0046	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			新城 裕司	
																		2	2											
一般	必修	保健体育	0047	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																			2				永松 幸一, 松本 元博, 瓜田 吉久	
																		2												
一般	必修	英語	0048	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			笹谷 浩郎, 中村 裕文, 杉本 弘文, 大岡 優, 浅野 浩平	
																		2	2											
専門	必修	意匠CAD演習	0049	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																			2				中村 裕文	
																		2												
専門	必修	都市計画学	0050	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																			2				中村 裕文	
																		2												
専門	必修	地域計画学	0051	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																				2			中村 裕文, 浦田 健作, 亀田 明彦	
																			2											
専門	必修	建築実務概論	0052	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																			2				林田 義伸, 宇都 徳睦, 柴 巳洋, 瀬川 一郎, 橋口 芳弘	
																		2												
専門	必修	構造演習	0053	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			加藤 巨邦, 浅野 浩平	
																		2	2											
専門	必修	木質構造	0054	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			大岡 優	
																		2	2											
専門	必修	防災工学	0055	履修単位	1	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																				2			大岡 優	
																			2											
専門	必修	建築生産学	0056	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			原田 志津男	
																		2	2											
専門	必修	建築環境工学	0057	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			小原 聡司	
																		2	2											
専門	必修	建築設備	0058	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			平川 晃	
																		2	2											
専門	必修	建築法規	0059	履修単位	2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>																			2	2			中島 喜一郎	
																		2	2											

専門	必修	建築学実験	0060	履修単位	1															2			原田志津男 小原聡司 岡大優 浅野浩平	
専門	必修	建築経済	0061	履修単位	1															2			岩佐 貢	
専門	必修	卒業研究	0062	履修単位	10															10	10		林田義伸 原津加巨邦 藤原小聡司 中村孝至	
専門	選択	建築デザイン	0063	履修単位	1															2			中村 孝至	
専門	選択	耐震構造学	0064	履修単位	1															2			加藤 巨邦	
専門	選択	近代建築史	0065	履修単位	1															2			林田 義伸	
専門	選択	振動学	0066	履修単位	1															2			浅野 浩平	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	基礎数学 I
科目基礎情報						
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	新基礎数学, 新基礎数学問題集 (大日本図書)					
担当教員	本田 淳史					
到達目標						
(1) 文字式の展開, 因数分解, 分数式の計算が正確にできる. (2) 二次方程式をはじめとする方程式, 不等式を解くことができる. (3) 二次関数, 分数関数, べき関数, 無理関数を理解し, グラフをかくことができる. (4) 指数・対数の計算ができ, 指数関数・対数関数のグラフをかくことができる. (5) 直線・円などの図形を方程式として理解し, それらの問題を解くことができる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文字式の展開, 因数分解, 分数式の計算が正確にでき, 応用問題を解くことができる.		文字式の展開, 因数分解, 分数式の計算が正確にできる.		一部の文字式の展開, 因数分解, 分数式の計算ができる.	
評価項目2	二次方程式をはじめとする方程式, 不等式を解くことができ, 応用問題を解くことができる.		二次方程式をはじめとする方程式, 不等式を解くことができる.		二次方程式をはじめとする方程式, 不等式を一部解くことができる.	
評価項目3	二次関数, 分数関数, べき関数, 無理関数を理解し, グラフをかくことができる. その応用で発展問題を解くことができる.		二次関数, 分数関数, べき関数, 無理関数を理解し, グラフをかくことができる.		二次関数, 分数関数, べき関数, 無理関数を一部理解し, グラフをかくことができる.	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1						
教育方法等						
概要	中学で学んだ数学の内容を受けて, その考え方や計算技能の習熟につとめながら, 上学年における数学講義や専門科目において必要とされる方程式, 関数の基本概念や簡単な図形の方程式に関して理解を深め, 事象を数学的に処理する能力を深める.					
授業の進め方・方法						
注意点	実力試験の結果も学年末最終成績に加味する. 長期休暇課題は必ず提出すること. 定期試験・実力試験は全学科共通試験で実施する. 問題集は各自授業に平行して行うこと.					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.(1) 整式の加法, 減法, 乗法		文字式の計算を素早く正確にできる.	
		2週	(2) 因数分解		因数分解の計算を素早く正確にできる.	
		3週	(3) 整式の除法, 因数定理, 組み立て除法		整式の除法と剰余の定理等を理解する.	
		4週	2.(1) 分数式の計算		分数式の計算を素早く正確にできる.	
		5週	(2) 実数, 平方根, 複素数		実数と複素数の基本的性質を理解する.	
		6週	3.(1) 2次方程式と解と係数の関係		解の公式と解と係数の関係を使いこなせる.	
		7週	前期中間試験			
		8週	3.(2) いろいろな方程式		いろいろな方程式が解ける.	
	2ndQ	9週	(3) 恒等式と等式の証明		恒等式の扱いと等式の証明が出来る.	
		10週	4.(1) 不等式の性質と不等式の解法 (2次不等式は2次関数の応用として扱い, 高次不等式は省略)		不等号の記号の理解と1次不等式が解ける.	
		11週	(2) 不等式の証明		不等式の証明ができる.	
		12週	(3) 集合と命題 (時間が押した場合は省略)		集合記号, 命題の真偽, 必要・十分条件を理解する.	
		13週	5.(1) 関数のグラフと2次関数のグラフ		2次関数のグラフが描ける.	
		14週	(2) 2次関数の最大, 最小		2次関数の最大値, 最小値を求められる.	
		15週	5.(3) 2次関数と2次方程式, 2次不等式		2次方程式, 不等式への応用を理解する.	
		16週				
後期	3rdQ	1週	6.(1) べき関数		偶関数, 奇関数を理解する.	
		2週	(2) 分数関数		分数関数のグラフが描ける.	
		3週	(3) 無理関数		無理関数のグラフが描ける.	
		4週	(4) 逆関数		逆関数が求められる.	
		5週	7.(1) 累乗根と指数の拡張		累乗根や指数の計算を素早く正確にできる.	
		6週	(2) 指数関数		指数関数の性質を理解する.	
		7週	8.(1) 対数		対数の計算を素早く正確にできる.	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	8.(2) 対数関数		対数関数の性質を理解する.	
		10週	(3) 常用対数		常用対数による応用問題ができる.	

	11週	9.(1) 2点間の距離と内分点	2点間の距離と内分点の座標を求められる。
	12週	(2) 直線の方程式と2直線の関係	直線の方程式を自在に扱える。
	13週	10.(1) 円の方程式	円の方程式が自在に扱えるようになる。
	14週	(2) 楕円, 双曲線, 放物線の方程式	2次曲線の方程式から曲線のグラフを描ける。
	15週	(3) 2次曲線の接線	2次曲線のと直線の関係を式で記述できる。
	16週	(4) 不等式と領域	不等式の表す領域を図示できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
知識の基本的な理解	60	0	0	0	0	10	70
思考・推論・創造への適応力	20	0	0	0	0	5	25
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0	0	5	5

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	物理
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	物理基礎（数研出版）、リードLightノート物理基礎（数研出版）、物理（数研出版）、リードLightノート物理（数研出版） 注：教科書は2年使用、チャート式シリーズ 新物理基礎					
担当教員	田原 良信					
到達目標						
1) 身の回りの物体の運動を例として、位置、変位、速度、加速度などの運動の状態を量として表現する方法を身につける。 2) 物体にはたらく力についての法則を理解し、力の計算ができる。 3) 運動量、仕事、エネルギーなどの概念を理解し、これらの量の計算ができる。 4) 様々な量やの間に成り立つ法則を理解し、使いこなせるようにする。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		多くの物理量を含んだ問題を解くことができる。	物理量の意味をイメージでき、説明することができる。物理量を計算し、単位付きで表示することができる。		物理量の定義を一部は説明することができる。定義式を用いた特定の計算はできる。	
評価項目2		物理法則の数式を説明することができる。問題の解くことができる。	重要な物理法則が説明でき、その法則を用いて、物理量を計算することができる。		重要な物理法則の一部の説明はできる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1 学習・教育目標・サブ目標との対応 4-1						
教育方法等						
概要	自然界にある規則性や、様々な自然現象の起こるしくみを理解するための基礎を身に付けることを目的とする。					
授業の進め方・方法	講義内容の理解を深めるため、プリント等を用いた演習を行う。必要に応じて宿題を課す。予習が必要な部分は適宜指示をする。復習として問題集の問題に取り組むこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 1. 運動の表し方 (1) 速度		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	
		2週	(1) 速度		1. 運動の状態を表す速度、加速度という量について理解し、等速直線運動、等加速度直線運動に関する計算ができる。	
		3週	(2) 速度の合成・相対速度			
		4週	(3) 加速度			
		5週	(4) 有効数字		有効数字の考え方を理解し、測定値の計算結果を有効数字の桁を考えて表示できる。	
		6週	(5) 等加速度直線運動			
		7週	(5) 等加速度直線運動			
		8週	(5) 等加速度直線運動			
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		10週	(6) 落体の運動		1. (続き) 等加速度直線運動の応用として、落体の運動や水平投射・斜方投射に関する計算ができる。変位、速度、加速度、などの「ベクトル」の扱い方を身につけ、ベクトルの成分、ベクトルの和・差の計算ができる。	
		11週	(7) 平面上での速度の合成と分解			
		12週	(8) 水平投射・斜方投射			
		13週	実力試験			
		14週	2. 運動の法則 (1) 力と質量		2. 重力、弾性力などの、物体にはたらく基本的な力を理解する。力をベクトルとして表し、力の合成・分解および力の成分の計算ができる。	
		15週	(2) 力の合成・分解			
		16週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	(3) 力のつりあい		2. (続き) 力のつりあいに関する計算ができる。運動の3法則を理解し、直線運動に関する運動方程式を立てることができる。また、摩擦を含む直線運動にも応用でき、方程式を立てることができる。	
		2週	(3) 力のつりあい			
		3週	(4) 運動の3法則			
		4週	(4) 運動の3法則			
		5週	(5) 摩擦を受ける運動			
		6週	(5) 摩擦を受ける運動			

		7週	3. 運動量の保存 (1) 運動量と力積	3. 運動量と力積の関係を理解し、運動量の変化から力積を求められる。力積から平均の力を求められる。
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
	4thQ	9週	(2) 運動量保存の法則	3. (続き) 運動量保存の法則、はねかえり係数を用いた計算ができる。
		10週	(3) はねかえり係数	
		11週	4. 仕事と力学的エネルギー (1) 仕事と仕事率	4. 仕事やエネルギーという量について理解する。運動エネルギー、重力・弾性力による位置エネルギーを含めた力学的エネルギー保存の法則を使用できる。
		12週	(2) 運動エネルギー	
		13週	(3) 位置エネルギー	
		14週	(4) 力学的エネルギー保存の法則	
		15週	(5) いろいろな運動と力学的エネルギー	
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	その他	合計
総合評価割合	85	8	7	100
知識の基本的な理解	45	4	4	53
思考・推論・創造 への 適 応 力	40	4	3	47
汎用的技能	0	0	0	0
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0
総合的な学習経験 と創造的 思考力	0	0	0	0

都城工業高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	化学
科目基礎情報				
科目番号	0006	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	建築学科	対象学年	1	
開設期	通年	週時間数	4	
教科書/教材	新編化学基礎（東京書籍）問題集：ニューサポート（東京書籍）、スクエア最新図説化学（第一学習社）			
担当教員	森 寛			

到達目標

- 1) 周期表は原子番号1番から20番まで元素記号と名前を書くことができ、組成式が書け、その名前が書ける。
- 2) イオン結合、共有結合、金属結合が理解でき、物質をそれぞれに区分的ことができる。
- 3) 物質質量であるモルを理解でき、化学変化の量的な関係と気体反応の法則を計算できる。
- 4) 熱化学方程式、中和反応、酸化還元反応を理解し、それぞれの計算問題を解くことができる。
- 5) 無機物質、有機化合物のそれぞれの特徴を理解し、代表的な有機化合物の構造式と名前を書くことができる。
- 6) データ整理を行い、定められた形式で実験レポートを期日までに提出することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安(可)
評価項目1	周期表は原子番号1番から20番まで元素記号と名前を書くことができ、組成式が書け、その名前が書ける	周期表と組成式が8割程度書くことができる。	周期表と組成式が6割程度書くことができる。
評価項目2	イオン結合、共有結合、金属結合のそれぞれの特徴を書くことができ、物質をそれぞれに区分的ことができる。	イオン結合、共有結合、金属結合の違い説明することができ、代用的な物質をあげることができる。	イオン結合、共有結合、金属結合のそれぞれに物質をわけることが少しできる。
評価項目3	物質質量であるモルを理解でき、化学変化の量的な関係と気体反応の法則を計算でき、様々な実験や応用問題で使うことができる。	物質質量であるモルを理解でき、化学変化の量的な関係と気体反応の法則を使って、教科書の問題を解くことができる。	物質質量であるモルが理解できなく、教科書の問題を解くことが少しできる。。
評価項目4	熱化学方程式、中和反応、酸化還元反応を理解し、それぞれの計算問題を解くことができ、実験に応用できる。	熱化学方程式、中和反応、酸化還元反応を理解し、それぞれの教科書の計算問題を解くことができる。	熱化学方程式、中和反応、酸化還元反応の教科書の計算問題を解くことが少しできる。
評価項目5	無機物質、有機化合物のそれぞれの特徴を理解し、代表的な有機化合物の構造式と名前をすべて書くことができる。	無機物質、有機化合物のそれぞれの特徴を理解し、代表的な有機化合物の構造式と名前を8割ほど書くことができる。	無機物質、有機化合物のそれぞれの特徴を理解し、代表的な有機化合物の構造式と名前を5割ほど書くことができる。
評価項目6	表やグラフを正しく完成でき、「考察」を自分の言葉を用いて表現することができる。	データ整理を行い、定められた形式でレポートを期日までに完成させることができる。	実験レポートの実験方法や結果までは完成させることが少しできる。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1

教育方法等

概要	中学校で学んだ理科を基礎に、物質（イオン、分子、金属、無機物質、有機物質など）の性質や物質の化学変化（量的関係、反応熱、酸・塩基の中和反応、酸化還元反応）を知り、実験や身の回りの現象を注意深く観察し、新たな知識や考え方を身につけることを目標とする。
授業の進め方・方法	1) 実験レポートは提出期限日までに提出すること。 2) 授業中は静かに授業を受けること。 3) 電卓を持つてくること。
注意点	1) 問題集は必ず解いておくこと。 2) 特に復習に重点をおいて学習すること。

ポートフォリオ

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 物質の性質と分離、物質の成分	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 物質を混合物と純物質に分け、さらに純物質は化合物と単体に分けることができる。
		2週	物質の性質と分離、物質の成分	物質を混合物と純物質に分け、さらに純物質は化合物と単体に分けることができる。
		3週	実験①	物質の分離・精製についての実験を行う。
		4週	原子の構造、電子配置と周期表	原子の構造を知り、元素の周期表を原子番号1番の水素から20番のカルシウムまで覚える。
		5週	イオンとイオン結合	陽イオンと陰イオンの成り立ちが理解でき、イオン結合でできる物質の組成式とその名前が書ける。
		6週	金属と金属結合、分子と共有結合	金属結合と共有結合が解り、分子の結合の様子が理解できる
		7週	原子量・分子量と物質質量	物質質量であるモルを理解し、原子量と分子量がどのようにして決められたか理解できる。
		8週	実験②	アボガドロ定数の測定についての実験を行う。
	2ndQ	9週	前期中間試験	
		10週	試験答案の返却及び解説 溶液の濃度	試験問題の解説及びポートフォリオの記入 質量パーセント濃度とモル濃度計算ができる。
		11週	実験③	水の分析についての実験を行う。

後期		12週	化学変化の量的関係	化学変化を化学式を用いて式に表し、反応式の係数と物質量の関係が示されることを理解し、計算できる。
		13週	ボイル-シャルルの法則、気体の状態方程式	気体の状態方程式を使って、気体の圧力、容積、温度の関係の計算ができる。
		14週	実力試験 熱化学方程式	実力試験と試験問題の解説及びポートフォリオの記入 熱化学方程式が理解できる。
		15週	実験④	反応式の量的関係についての実験を行う。
		16週	酸と塩基	酸と塩基の物質の種類を知り、 試験問題の解説及びポートフォリオの記入 強酸・弱酸、強塩基・弱塩基に分類できる。
	3rdQ	1週	試験答案の返却及び解説 水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度や水酸化物イオン濃度からpHが計算できる。
		2週	中和反応と塩の生成	中和反応でできた塩の酸・塩基・中性の区別ができる。
		3週	中和反応の量的関係と中和滴定	中和反応の量的計算ができる。
		4週	実験⑤と発表	中和滴定についての実験を行う。水の分析の各班発表を行う。
		5週	酸化と還元	酸化と還元の定義を、酸素、水素、電子および酸化数で説明できる。酸化剤と還元剤を使って酸化還元反応を組み立てることができる。
		6週	酸化還元反応と応用	電池や電気分解も酸化還元反応であることを知り、各電極でのイオン反応式が書け、ファラデーの法則で計算ができる。
		7週	実験⑥	金属のイオン化傾向についての実験を行う。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	試験答案の返却及び解説 無機物質	試験問題の解説及びポートフォリオの記入 典型元素や遷移元素の性質や反応を理解する。
		10週	実験⑦ 実験⑧	塩素の化学についての実験を行う。 典型元素金属の性質についての実験を行う。
		11週	有機化合物の特徴と分類	有機化合物の分類と特徴を理解できる。
		12週	炭化水素	炭化水素のアルカン、アルケン、アルキンの分子式と構造式、構造異性体を書くことができる。
		13週	酸素を含む有機化合物	炭素、水素、酸素で構成された化合物について、特性や反応を構造と関連して理解する。ベンゼンの構造を知る。
		14週	組成式の決定と食品の三大栄養素	有機化合物の組成式と分子式の決め方を理解し、計算できる。食品の三大栄養素の特徴を理解し、分別できる。
		15週	実験⑨	アルコールとアルデヒドについての実験を行う。
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	レポート	合計	
総合評価割合		80	20	100	
知識の基本的な		75	10	85	
汎用的技能		0	5	5	
態度・志向性		5	5	10	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	保健体育
科目基礎情報						
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	現代高等保健体育（大修館書店），現代高等保健体育ノート（大修館書店）　アクティブスポーツ【総合版】（大修館書店）					
担当教員	武田 誠司					
到達目標						
1）保健および体育に関する知識を理解する。 2）運動やスポーツの合理的な実践や健康の増進および体力の向上に活用できる能力や態度を身に付ける。 3）各種の運動やスポーツの基礎的な技術や技能と審判法を習得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	保健および体育に関する知識を理解し、日常に活かすことができる。		保健および体育に関する知識を理解している。		保健および体育に関する知識を一部理解している。	
評価項目2	合理的な実践や健康および体力の向上を考えながら、運動やスポーツに取り組むことができる。		運動やスポーツに取り組むことができる。		運動やスポーツの見学はできる。	
評価項目3	運動やスポーツの基礎的な技術や技能などを理解し、それらを実際の活動に活かすことができる。		運動やスポーツの基礎的な技術や技能などを理解している。		運動やスポーツの基礎的な技術や技能などを一部理解している。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3 学習・教育目標・サブ目標との対応 4-3						
教育方法等						
概要	保健および体育に関する知識を理解し、運動やスポーツの合理的な実践や健康の増進および体力の向上に活用できる能力や態度を育てる。各種の運動やスポーツの特性について理解し、これらの基礎的な技術や技能と審判法を習得する。					
授業の進め方・方法	体育実技では指示された服装や用具（体操服・体育館シューズなど）、保健では指示された教科書およびノートを準備して授業に臨むこと。 日常的に自己の健康および安全に留意しておくこと。今までの運動やスポーツ経験をもとにして、授業で取り組む種目などを選択できるようにしておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容			週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明			
		2週	スポーツテスト			
		3週	球技（バレーボール）			
		4週	現代社会と健康 私たちの健康のすがた、生活習慣病とその予防についての学習			
		5週	球技（バレーボール）			
		6週	球技（バレーボール）			
		7週	球技（バレーボール）			
		8週	水泳（クロール・背泳ぎ）			
	2ndQ	9週	水泳（クロール・背泳ぎ）			
		10週	水泳（クロール・背泳ぎ）			
		11週	現代社会と健康 応急手当の意義とその基本、心肺蘇生法の原理についての学習			
		12週	球技（バレーボール）			
		13週	球技（バレーボール）			
		14週	球技（バレーボール）			
		15週	球技（バレーボール）			
		16週	前期末試験			
後期	3rdQ	1週	陸上競技（ハードル走・持久走）			
		2週	陸上競技（ハードル走・持久走）			
		3週	陸上競技（ハードル走・持久走）			
		4週	球技（選択種目制）			
		5週	現代社会と健康 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康、感染症・性感染症・エイズに関する学習			
		6週	球技（選択種目制）			
		7週	球技（選択種目制）			
		8週	陸上競技（持久走）			
	4thQ	9週	陸上競技（持久走）			
		10週	陸上競技（持久走）			

		11週	球技（選択種目制）	
		12週	球技（選択種目制）	
		13週	球技（選択種目制）	
		14週	現代社会と健康 欲求と適応機制、心身の相関とストレス、ストレスへの対処に関する学習	
		15週	現代社会と健康 自己実現、交通事故の現状と要因に関する学習	
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合					
	試験	レポート	成果品実技	その他	合計
総合評価割合	25	5	40	30	100
基礎的能力	15	0	10	0	25
思考・推論・創造への 適応力	10	0	0	0	10
態度・志向性	0	0	10	20	30
総合的な学習経験	0	5	20	10	35

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	My Way (Communication English I) (三省堂) My Way (Communication English I) Worbook Standard (三省堂) Word Meister 英単語・熟語3000 (第一学習社)					
担当教員	宮沢 幸					
到達目標						
1) 教科書のストーリーを、英語らしい発音で声に出して読めるようにする 2) 教科書で学習した重要語句と重要文法事項を正確に理解できる。 3) 英文多読を通して、簡単な英語の絵本程度は読めるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低到達レベルの目安(可)	
評価項目1	予習・復習に加え、自分なりの目標も決めて、英語学習を着実に進める習慣が身に付いている。		予習・復習を中心に、しっかりとした英語の学習習慣が身に付いている。		予習・復習に少しは取り組むことができる。	
評価項目2	教科書のストーリーで学んだ英語の重要語句・文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書のストーリーを、英語の重要語句・文法事項を含め、ほぼ理解できる。		教科書のストーリーの内容を少しは理解できる。	
評価項目3	教科書のストーリーを、CDの音声に合わせ、十分に英語らしい発音で声に出して読む練習ができる。		教科書のストーリーを、CDの音声に合わせ、英語として通じるレベルの発音で声に出して読む練習ができる。		教科書のストーリーを、CDの音声に合わせ、声に出して読む練習ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-1 学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3						
教育方法等						
概要	1) 教科書に収録されている様々な題材のストーリーの内容を学ぶことによって、正確な読解力を身に付け、重要語句や重要文法事項を習得する。					
授業の進め方・方法	1) 英語のプリント専用ファイルを準備し、きちんと整理しておくこと。 2) 指示された予習・課題、単語テストの勉強に真剣に取り組むこと。 3) 課題(ワークブック)の提出期限を守ること。 4) 多読に真剣に取り組むこと。 1) 予習(プリントの単語の意味調べ・ストーリーに目を通す)をすること。 2) 単語テストの勉強をすること。 3) 宿題の練習問題を解くこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	L.1 A Story about Names SV, SVO/SVC/SVO102を理解する。			
		2週	L.1 A Story about Names SV, SVO/SVC/SVO102を理解する。			
		3週	L.2 Shoes for a Dream SVOC, SVO(O=that節)/比較級・最上級を理解する。			
		4週	L.2 Shoes for a Dream SVOC, SVO(O=that節)/比較級・最上級を理解する。			
		5週	L.2 Shoes for a Dream SVOC, SVO(O=that節)/比較級・最上級を理解する。			
		6週	L.3 Green Roofs 現在進行形/現在完了形/過去完了形を理解する。			
		7週	L.3 Green Roofs 現在進行形/現在完了形/過去完了形を理解する。			
		8週	L.3 Green Roofs 現在進行形/現在完了形/過去完了形を理解する。			
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	L.4 Picture of Funny Moments 助動詞/受け身/助動詞のついた受け身を理解する。			
		11週	L.4 Picture of Funny Moments 助動詞/受け身/助動詞のついた受け身を理解する。			
		12週	L.4 Picture of Funny Moments 助動詞/受け身/助動詞のついた受け身を理解する。			
		13週	実力養成試験			
		14週	L.5 Letters in the World 動名詞/to不定詞の名詞的用法・副詞的用法/to不定詞の形容詞的方法/It is … to不定詞を理解する。			
		15週	L.5 Letters in the World 動名詞/to不定詞の名詞的用法・副詞的用法/to不定詞の形容詞的方法/It is … to不定詞を理解する。			

		16週	L.5 Letters in the World 動名詞/to不定詞の名詞的用法・副詞的用法/to不定詞の形容詞的方法/It is … to不定詞を理解する。	
後期	3rdQ	1週	L.6 Great Abilities of Pigeons 関係代名詞（主格・目的格・what）を理解する。	
		2週	L.6 Great Abilities of Pigeons SVO1O2(O2=how to～)を理解する。	
		3週	L.6 Great Abilities of Pigeons 関係代名詞（主格・目的格・what）を理解する。 英文多読	
		4週	L.7 The Power of Words 現在分詞の形容詞的用法/過去分詞の形容詞的用法を理解する。 英文多読	
		5週	L.7 The Power of Words 現在分詞の形容詞的用法/過去分詞の形容詞的用法を理解する。 英文多読	
		6週	L.7 The Power of Words 現在分詞の形容詞的用法/過去分詞の形容詞的用法を理解する。 英文多読	
		7週	L.7 The Power of Words 現在分詞の形容詞的用法/過去分詞の形容詞的用法を理解する。	
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	L.7 The Power of Words 現在分詞の形容詞的用法/過去分詞の形容詞的用法を理解する。	
		10週	L.7 The Power of Words 現在分詞の形容詞的用法/過去分詞の形容詞的用法を理解する。 英文多読	
		11週	L.7 The Power of Words 現在分詞の形容詞的用法/過去分詞の形容詞的用法を理解する。 英文多読	
		12週	L.7 The Power of Words 現在分詞の形容詞的用法/過去分詞の形容詞的用法を理解する。 英文多読	
		13週	L.8 A Mysterious Object from the Past 関係副詞(when・where・why)を理解する。	
		14週	L.8 A Mysterious Object from the Past 関係副詞(when・where・why)を理解する。	
		15週	L.8 A Mysterious Object from the Past 関係副詞(when・where・why)を理解する。	
		16週	L.8 A Mysterious Object from the Past 関係副詞(when・where・why)を理解する。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	その他	合計	
総合評価割合	75	10	15	100	
知識の基本的な理解	40	10	10	60	
思考・推論・創造への適応力	35	0	5	40	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	オーラル英語
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Hello there! (東京書籍)				
担当教員	西村 徳行				
到達目標					
1) 発音記号を読むことができる。 2) 日常生活でよく使用される英語表現を聴いて理解できる。 3) 日常生活でよく使用される英語表現を覚え、自ら使用できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	発音記号を見て正しく発音できる。 発音記号を見て正しく発音できる。 発音記号を見て正しく発音できる。		発音記号を見ておおむね正しく発音できる。		発音記号を見て、その一部については正しく発音できる。
評価項目2	ナチュラル・スピードよりやや遅いスピードで話される日常英会話表現を聴いて理解できる。		ナチュラル・スピードよりやや遅いスピードで話される日常英会話表現を聴いておおむね理解できる。		ナチュラル・スピードよりやや遅いスピードで話される日常英会話表現を聴いて、その一部は理解でき
評価項目3	日常生活でよく使用される英語表現を覚えており、正しい発音で利用できる。		日常生活でよく使用される英語表現をおおむね覚えており、正しい発音で利用できる。		日常生活でよく使用される英語表現について、その一部は覚えており、正しい発音で利用できる。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3					
教育方法等					
概要	カタカナ英語とは異なる英語特有の音声の基礎を学び、音声に慣れるとともに、発音記号を読めるようにする。さまざまなトレーニングを通じて簡単なコミュニケーション活動に必要な表現をできるだけ多く身につける。				
授業の進め方・方法	聴き取り、リピート練習、役割練習、書き取りなど様々なトレーニングを行う。間違いや失敗を恐れることなく積極的に授業に参加する態度が求められる。				
注意点	予習より復習（特にリスニングと音読）を重点的に行い、重要語句・表現を暗記すること。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 発音記号	発音記号を見て正しく発音できるようになる	
		2週	発音記号		
		3週	発音記号		
		4週	Lesson 1 Nice to Meet You	自分を紹介する 聞き返す 挨拶をする意味を尋ねる・説明する等の表現が聞き取れ、使えるようになる	
		5週	Lesson 1 Nice to Meet You		
		6週	Lesson 2 Hello, Friends!	許可を求める・与える 相手について尋ねる・答える リストアップする等の表現が聞き取れ、使えるようになる	
		7週	Lesson 2 Hello, Friends!		
		8週	Lesson 2 Hello, Friends!		
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説		
		10週	Lesson 3 My Favorite Music	意見を言う リストアップする等の表現が聞き取れ、使えるようになる	
		11週	Lesson 3 My Favorite Music		
		12週	Lesson 4 What Are You Crazy about?	リストアップする 興味・関心を伝える 誘う・誘いを断る等の表現が聞き取れ、使えるようになる	
		13週	Lesson 4 What Are You Crazy about?		
		14週	Lesson 4 What Are You Crazy about?		
		15週	Lesson 4 What Are You Crazy about? 試験答案の返却及び解説		
		16週			
後期	3rdQ	1週	Lesson 5 A Friendly Potluck Dinner	許可を求める 許可する（しない） 説明する等の表現が聞き取れ、使えるようになる	
		2週	Lesson 5 A Friendly Potluck Dinner		

		3週	Lesson 6 Are You All Right? Listen Up 3	同情する 事情を理解する 助言する等の表現が聞き取れ、使えるようになる
		4週	Lesson 6 Are You All Right? Listen Up 3	
		5週	Lesson 6 Are You All Right? Listen Up 3	
		6週	Lesson 7 Talking about Our Town	描写する等の表現が聞き取れ、使えるようになる
		7週	Lesson 7 Talking about Our Town	
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	
	4thQ	9週	Lesson 8 Traditional Culture Listen Up 4	予定を尋ねる・答える 習慣を尋ねる・説明する等の表現が聞き取れ、使えるようになる
		10週	Lesson 8 Traditional Culture Listen Up 4	
		11週	Lesson 8 Traditional Culture Listen Up 4	
		12週	Lesson 9 Equal Roles	感想・感情を述べる等の表現が聞き取れ、使えるようになる
		13週	Lesson 9 Equal Roles	
		14週	Lesson 10 Helping Each Other	推測する・主張する 描写する等の表現が聞き取れ、使えるようになる
		15週	Lesson 10 Helping Each Other	
		16週	試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	85	10	0	5	0	0	100
基礎的能力	85	10	0	5	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英作文
科目基礎情報						
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	Benchmark English Grammar in 25 Lessons (桐原書店), Benchmark English Grammar More Drills (桐原書店) Forest (桐原書店)					
担当教員	崎山 強					
到達目標						
1. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容を理解できる。 2. 教科書で学ぶ基本的な英文法の知識を応用できる。 3. 英文の意味を把握しながら、必要な情報を得ることのできる力を身につける。 4. 教科書で学習した語彙を英語で理解し、運用できるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書で学習した文法を適切に文脈の中で理解し、説明できる。		教科書で学習した文法を適切に文脈の中で理解できる。		教科書で学習した文法の一部は文脈の中で理解し、説明することができる。	
評価項目2	教科書で学習した文法知識を応用して、1 0 0 語程度の英作文ができるようになる。		教科書で学習した文法知識を応用して、1 文単位で簡単な英作文ができるようになる。		教科書で学習した文法知識を応用して、1 文単位で部分的に簡単な英作文ができるようになる。	
評価項目3	3 0 0 語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだし、要点をまとめることができる。		3 0 0 語程度の英文を速読し、必要な情報を探しだせる。		3 0 0 語程度の英文を速読し、一部の必要な情報を探しだせる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3						
教育方法等						
概要	英文法の理解を通じて英語基礎力を高める。 語学の4技能「聴く・読む・話す・書く」を総合的に伸ばすことを目的とする。					
授業の進め方・方法	1. ノートは、授業中きちんと書くこと。 2. 授業には必ず辞書（英英辞典を搭載した電子辞書）を持ってくること 1. 予習の段階で分からない単語は、調べておくこと。 2. 特に復習に重点をおき学習すること。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 序章 1		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 肯定文、否定文、疑問文を理解する	
		2週	序章 2		命令文、感嘆文を理解する	
		3週	第1章 動詞と時制 (1)		現在形、現在進行形の使い方を理解する	
		4週	第2章 動詞と時制 (2)		過去形、過去進行形の使い方を理解する	
		5週	第3章 動詞と時制 (3)		未来を表わす表現法を理解する	
		6週	第4章 完了形 (1)		完了形を使い方を理解する	
		7週	Plus 完了形		過去形と現在完了形の違いを理解する	
		8週	第5章 完了形 (2)		どんな時に過去完了形を使うのかを理解する	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		11週	第6章 助動詞 (1)		助動詞の基本的使い方を理解する	
		12週	第7章 助動詞 (2)		助動詞の発展的使い方を理解する	
		13週	Plus 助動詞		助動詞の慣用的表現法を理解する	
		14週	第8章 態 (1)		能動態と受動態の基本的用法を理解する	
		15週	第9章 態 (2)		進行形や完了形の受動態を理解する	
		16週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	Plus 態		注意すべき受動態の表現法を理解する	
		2週	第10章 不定詞 (1)		名詞的用法、形容詞的用法を理解する	
		3週	第11章 不定詞 (2)		様々な副詞的用法を理解する	
		4週	第12章 不定詞 (3)		原形不定詞の使い方を理解する	
		5週	Plus 不定詞 (1)		発展した不定詞の使い方を理解する	
		6週	Plus 不定詞 (1)		発展した不定詞の使い方を理解する	
		7週	Plus 不定詞 (2)		不定詞の注意すべき用法に理解を深める	
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		10週	第13章 動名詞		動名詞の基本的な働き、使い方を理解する	
		11週	Plus 動名詞 (1)		動名詞の慣用表現に理解を深める	
		12週	Plus 動名詞 (2)		目的語が動名詞と不定詞で意味が異なる動詞を理解	

		13週	第 1 4 章 分詞 (1)	現在分詞と過去分詞の基本的使い方を理解する		
		14週	第 1 5 章 分詞 (2)	SVO+ 分詞や have + O+分詞に理解を深める		
		15週	第 1 6 章 分詞 (3)	分詞構文の使い方を理解する		
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
			定期試験	合計		
総合評価割合			100	100		
知識の基本的な理解			50	50		
思考・推論・創造への適応力			50	50		
汎用的技能			0	0		
態度・志向性（人間力）			0	0		
総合的な学習経験と創造的思考力			0	0		

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	美術
科目基礎情報						
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	高等学校 美術 I（光村）、スケッチブック（F6）、木彫小箱					
担当教員	川畑 清美					
到達目標						
1）主題を基に自分なりの発想や構想を持ち、意欲的に表現することができる。 2）材料や用具の特性や技法について理解し、表現に生かすことができる。 4）絵画、彫刻、デザイン等の鑑賞の楽しさを味わうとともに、よさや美しさについて自己の感想を持つことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自分が伝えたいテーマが明確であり、アイデアスケッチを繰り返して、構成や配色による違いを考慮しながら、他者にテーマを伝えるための適切な表現方法を追及し、完成までの見通しを立てることができる。		自分が伝えたいテーマを持ち、アイデアスケッチを繰り返して、構成や配色による違いを考慮し、完成までの見通しを立てることができる。		自分が伝えたいテーマを持つことなく、ただアイデアスケッチを描いている。構成や配色による違いが一部は理解できる。	
評価項目2	材料の特性を理解し、その特性を最大限に生かすことができる。道具の特性や使用方法を理解し、的確に使うことができる。作品の完成度が高くテーマが伝わる仕上がりとなっている。		材料の特性を理解することができる。道具の特性や使用方法を理解することができる。作品の完成度はまずまずだが、更に改善の余地がある。		材料の特性を一部は理解できる。道具の特性や使用方法を一部は理解できる。作品は何をイメージしているのかわかりにくく、作業が荒い。未完成の状態で提出している。	
評価項目3	作品のよさや美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫を具体的に挙げながら、作品に対する自分の思いや考えを述べることができる。		作品のよさや美しさを感じ取り、作品に対する自分の思いや考えを述べることができる。		作品の配色や形の様子を述べることはできる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3						
教育方法等						
概要	美術の創作活動を通して、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身につけ、意図に応じて創意工夫し表現する能力を養成する。					
授業の進め方・方法	1）与えられた課題は最後まで取り組み、課題の提出期限日を守る。 2）定期試験は行わないため、課題を提出しなかった場合は不合格となる。 1）教科書に目を通しておく。 2）身近な生活の中にある造形（食器、文房具、インテリア、商品パッケージ、広告等）に興味を持ち、楽しむ。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 美術の概論 絵画・鉛筆デッサン		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 美術の意義を理解して、美術を学ぶ意欲や心構えを持つ。 鉛筆の扱い方や基礎技法を理解できる。対象を観察して形体の捉え方を理解し、陰影を描き分けたり、質感を表すことができる。	
		2週	幾何形体のデッサン 靴のデッサン		鉛筆の持ち方、明暗の調子のつけ方、立体的に影をつける方法 モチーフの形体の捉え方、タッチによる質感の描き分け	
		3週	靴のデッサン 暮らしを豊かにするデザイン なじむデザイン（身近な道具）		身の回りにある機能的で美しいデザインに関心を持ち、デザインの意味について理解できる。人になじむデザインを考え、提案することができる。	
		4週	なじむデザイン（身近な道具） 箸置き制作		身の回りにある道具を分析して人になじむデザインについて考える。	
		5週	箸置き制作		考察したことを基に機能的で美しい箸置きを紙で制作する。	
		6週	工芸・木彫小箱 アイデアスケッチ		）彫刻刀の安全な使い方、効果的な表現方法を身につけて、制作方法の手順について計画を立て、順序立てて作業することができる。木の持つ温かさや木目の美しさを理解し、作品に生かすことができる。 木彫工芸の作品の鑑賞、木の特性について理解しアイデアスケッチを描く	
		7週	彫り－色々な技法		彫刻刀の種類、彫りの種類と手順に付いて学び、制作する	
		8週	彫り－色々な技法		彫刻刀の種類、彫りの種類と手順に付いて学び、制作する	
	2ndQ	9週	彫り－色々な技法		彫刻刀の種類、彫りの種類と手順に付いて学び、制作する	

		10週	彫り一色々な技法 着色、仕上げ	彫刻刀の種類、彫りの種類と手順に付いて学び、制作する サンドペーパーで整えて、ニスで着色する。
		11週	テーマ別制作 志望するコース（絵画、デザイン、立体造形）を選び 自由なテーマで制作する アイデアスケッチ、制作計画表	選択したコースについて、表現したいテーマを設定し、制作の方法や手順について計画を立て、順序立てて作業することができる。得意な分野の能力を生かして自由に独創的な表現を追求できる。テーマを設定しアイデアスケッチを描く、制作計画表の作成
		12週	制作、自己の感想	計画表を基に制作する、制作を終えての自己評価、感想をまとめる
		13週	制作、自己の感想	計画表を基に制作する、制作を終えての自己評価、感想をまとめる
		14週	制作、自己の感想	計画表を基に制作する、制作を終えての自己評価、感想をまとめる
		15週	制作、自己の感想	計画表を基に制作する、制作を終えての自己評価、感想をまとめる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		成果品実技	その他	合計	
総合評価割合		70	30	100	
知識の基本的な理解		10	10	20	
思考・推論・創造への適応力		20	5	25	
汎用的技能		10	5	15	
態度・志向性（人間力）		10	10	20	
総合的な学習経験と創造的思考力		20	0	20	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	音楽	
科目基礎情報							
科目番号	0013		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	建築学科		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	音楽 I Tutti (教育出版)						
担当教員	今村 祐子						
到達目標							
1) 歌詞や曲調を味わいながら表現できる。 2) リコーダーの奏法を習熟し、人前で演奏できる。 3) 楽譜についての基本的な理論や音楽史を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	歌詞や曲調を暗譜で自己表現できる。		歌詞や曲調をほぼ理解して歌唱できる。		歌詞や曲調を覚えて、少しは表現できる。		
評価項目2	人前でリコーダーを上手に演奏することができる。		人前でリコーダーを曲の最後まで演奏することができる。		人前でリコーダーを演奏することが少しはできる。		
評価項目3	音楽の歴史や基本的な理論をより幅広い観点で理解できる。		音楽の歴史や基本的な理論を理解することができる。		音楽の歴史や基本的な理論について一部は理解することができる。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3							
教育方法等							
概要	音楽の幅広い活動を通して、さらに関心を深め、芸術的な事物を生涯愛好する心情を育てるとともに、その能力を伸ばし、理解を深め、豊かな感性を養う。						
授業の進め方・方法	5年間の高専生活で授業時数の少ない、貴重な時間として受講してほしい。 授業ではリコーダーを使用するので、楽器の忘れ物がないよう注意する。 任意の歌の練習を行うので、声が出せるよう体調に気を付けること。 諸課題については、自学自習し、資料などを用いて発表できるよう準備すること。						
注意点							
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 1. 歌唱 芸術歌曲	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 譜面上の事柄をある程度理解し、読譜力をつける。			
		2週	劇音楽 世界の歌	歌詞（言葉）や季節感を味わいながら、曲を表現できる。 原語（英語・独語・イタリア語）による歌唱を習得する。			
		3週	日本の歌				
		4週	2. 器楽（アルト・リコーダー） 呼吸法	アルト・リコーダーの奏法を習熟し、発表することにより、集中力・表現力及びその達成感を得る。			
		5週	基本的奏法	アルト・リコーダーの奏法を習熟し、発表することにより、集中力・表現力及びその達成感を得る。			
		6週	独奏曲	アルト・リコーダーの奏法を習熟し、発表することにより、集中力・表現力及びその達成感を得る。			
		7週	独奏曲	アルト・リコーダーの奏法を習熟し、発表することにより、集中力・表現力及びその達成感を得る。			
		8週	3. 楽典 楽譜についての基本的な理論	楽典の学習により、音楽の仕組み、諸要素を理解できたか確認する。			
	2ndQ	9週	4. 歌唱 斉唱				
		10週	二部合唱				
		11週	合唱の楽しみ				
		12週	合唱の楽しみ				
		13週	手話による歌				
		14週	5. 西洋音楽史 古代、中世、ルネサンス、バロック、 古典派、ロマン派、近代、現代	音楽史の学習や、楽曲の鑑賞を通して豊かな感性を磨き、より幅広い観点で音楽を理解できるようにする。 ・西洋音楽史に沿った各時代の特徴			
		15週	6. 鑑賞 日本の伝統音楽 民族音楽	郷土の伝統音楽、諸外国の音楽			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	小テスト		口頭発表	成果品実技	その他	合計	
総合評価割合	10		30	50	10	100	
知識の基本的な理解	10		0	0	0	10	

思考・推論・創造への 適応力	0	0	0	0	0
汎用的技能	0	0	20	0	20
態度・志向性（人間力 ）	0	0	30	10	40
総合的な学習経験と創 造的思考力	0	30	0	0	30

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築設計演習
科目基礎情報						
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	幸田 彰, 新版図学, 培風館					
担当教員	小原 聡司					
到達目標						
1)図学の基礎的な各種作図方法や用語をマスターすること。 2)建築製図作成上のルールを守って作図できること。 3)美しくメリハリのある図面が描けること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	作図方法や専門用語をよく理解・説明できる。またその考えに基づいた作図がほぼ完全にできる。		作図方法や専門用語をある程度理解・説明でき、その考えに基づいた作図が単独である程度できる。		最低限の作図方法や専門用語をある程度理解・説明できる。助言があればその考えに基づいた作図がある程度できる。	
評価項目2	建築図面としての図の読み取りや表現, 作図ルールを理解し, 自分でもそれらを駆使してほぼ完全な作図ができる。		建築図面としての図の読み取りや表現, 作図ルールをある程度理解し, 単独である程度の作図ができる。		建築図面としての図の読み取りや表現, 作図ルールを最低限理解し, 助言があれば自分でも作図ができる。	
評価項目3	線の目的に応じて太さや濃さ, 種類を完全に描き分け, 美しい図面を完成できる。		線の目的に応じて太さや濃さ, 種類をある程度描き分け, 図面を完成できる。		線の目的に応じて太さや濃さ, 種類を最低限描き分け, 助言があれば図面を完成できる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 1-2 学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2						
教育方法等						
概要	建築設計の基礎となる各種ドローイング技術をマスターし, 同時に図学による図形作図能力を養成する。					
授業の進め方・方法	2時間連続授業で, 前半は座学形式で定義や作図概念, 作図方法の説明及び例題を示す。後半は課題を与え, その作図を行う。時間内に終わらない場合は宿題となる。宿題は次回の授業始めに返却し, 解説する。人の作品をまねるだけでは力にならないので, 課題(宿題)はその回の内容を十分理解の上で取り組むこと。コンパスや傾斜定規など, 特殊な製図器具の扱いに習熟しておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 授業計画の説明 授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 2. 製図器具の使い方の説明,不良品チェック		製図用具の特性を理解し, 使用できる。	
		2週	3.図面用文字の練習(ひらがな・カタカナ・漢字・アルファベット・数字)の書き方 各種文字をレタリングして正確に書けること。		文字・寸法の記入を理解し, 実践できる。	
		3週	4.直線の描き方 製図器具を使用して正しくかつ美しい各種直線や曲線を描けること。		線の描き分けができる。	
		4週	5.点の投象 5-1 正投影図法の意味と正投象の作図練習 平画面・立画面の定義・座標系を理解し, 空間の点を正しく把握し, 図面上に表現できること。			
		5週	同上			
		6週	5-2 副投象の意味と作図練習 副投象の定義を理解し, 副立画面や副平画面上に点を投象できること。中間試験向けの復習小テスト。			
		7週	同上			
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説, 訂正作業, ポートフォリオの記入			
		10週	6.直線の投象 6-1 正投影図法の意味と正投象の作図練習 空間上の直線定義を正しく把握し, 正投象及び平面との交わりである跡を求められること。			
		11週	6-2 副投象(水平傾角・直立傾角) 副投象を用いて直線の実長や傾角を求められること。			
		12週	6-3 直線の実長, 指定位置の特定 副投象を用いて直線またはその延長上の指定位置を求められること。			
		13週	同上			
		14週	7.面の作図 7-1 各種平面の定義・名称・作図方法 各種平面の定義と特徴等を理解すること。			
		15週	前期末試験			
		16週	前期末試験の返却と解説, 訂正作業, ポートフォリオの記入			
後期	3rdQ	1週	7-2 水平傾角・直立傾角 副立画面等を用いて傾斜面の傾きを求められること。			
		2週	8.陰影 8-1 直線・平面の影 簡単な線や平面の陰影を描ける。			

		3週	8-2 直方体の影 簡単な立体(直方体)の陰影を描ける。	
		4週	8-3 単純な形状の物体の影 ブロック状の簡易な形状物体の陰影を描ける。	建築の各種図面の意味を理解し、描けること。図面の種類別の各種図の配置を理解している。
		5週	8-4 建物全体の影 その1 簡易な形状 簡易な形状の建物(オブジェ)の陰影を描ける。	陰影を使って立体的な発想とその表現ができる。
		6週	8-5 建物全体の影 その2 複雑な形状 やや複雑な形状の建物の陰影を描ける。	陰影を使って立体的な発想とその表現ができる。
		7週	同上	
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解説, 訂正作業, ポートフォリオの記入	
		10週	9.透視図法 9-1 建築の各図面の理解と透視図 簡易な建築図面(部屋の平面・展開図)を読み取れる。	建築の各種図面の意味を理解し、描けること。図面の種類別の各種図の配置を理解している。
		11週	9-2 1点透視図法 足線法の説明と作図演習	図面の尺度・縮尺について理解し、図面に反映できる。立体的な発想とその表現 (1点透視図)ができる。
		12週	同上(室内インテリアの作図)	
		13週	9-3 2点透視図法 2点透視図法の説明と作図演習 その1 簡易な形状	立体的な発想とその表現 (2点透視図)ができる。
		14週	同上 その2 複雑な形状	立体的な発想とその表現 (2点透視図)ができ、さらに陰影を使って立体的な発想とその表現ができる。
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験の返却と解説, 訂正作業, ポートフォリオ記入	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他(レポート)	合計
総合評価割合	67	0	0	0	0	33	100
知識の基本的な理解	10	0	0	0	0	11	21
思考・推論・創造への適応力	20	0	0	0	0	11	31
汎用的技能	37	0	0	0	0	11	48

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築デザイン基礎	
科目基礎情報							
科目番号	0015			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	建築概論（井上書院）						
担当教員	杉本 弘文						
到達目標							
1) 建築物の計画・設計・デザインに関する最低限必要な基本的な事項が説明できること。 2) 建築物の計画・設計・デザインに求められている基本的な条件を把握できること。 3) 著名な建築家のデザインの特徴や設計理念を理解し、説明できること。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		建築物のデザインに関する基礎的な知識を有し、各種建築物の計画・設計のポイントを説明できる。		建築物のデザインに関する基礎的な知識を概ね理解している。		建築物のデザインに関する最低限の知識を有している。	
評価項目2		建築の社会的役割や重要性を十分に理解し、自身の考えを踏まえた建築・都市の提案ができる。		建築の社会的役割や重要性を理解し、自身の考えを説明できる。		建築の社会的役割や重要性をおおよそ理解している。	
評価項目3		実在する建築物の計画・設計の要点を理解し、他人にも十分理解できるようプレゼンテーションできる。		実在する建築物の計画・設計の要点を理解し、その特徴を説明できる。		実在する建築物の計画・設計の要点をある程度理解し、その特徴を把握できる。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2							
教育方法等							
概要		建築のデザイン・設計・計画の基礎的な内容を知ること为目标とする					
授業の進め方・方法		1) 本講義はスペースデザイン・インテリアデザイン・コミュニティデザイン等につながる科目である。自らの作品づくり・提案に必要な創造（想像）力や思考力を養う機会とすること。 2) 建築デザインのプロセスやデザイン手法などの基礎的な事項を、パワーポイントを用いて事例を参照しながら学習するので、適宜メモやスケッチ等を用いて内容の理解に努めること 3) 計画手法と事例を抽象的ではなく具体的に説明するために、PPTや配布資料などによって著名な建築家や都市の設計例をできる限り多く紹介するので、授業での理解を手掛かりに受講者自らが意識的・自発的に建築空間を体験したり、建築家がデザインした設計例を学習すること。 4) 建築設計競技（コンペ）やコンテスト、資格試験（インテリアコーディネーター、カラーコーディネーター、福祉住環境コーディネーター等）にチャレンジするために、自宅学習など自主的に課題に取り組むことが望ましい。					
注意点							
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 建築デザインへのアプローチ （1）建築の分野とは何か①			建築の分野の広がりを理解する	
		2週	（1）建築の分野とは何か②			建築の分野の広がりを理解する	
		3週	（2）建築の原点としての住まい ①様々な住まいや集落のかたち-1			「住まう」ために必要な機能について理解する	
		4週	（2）建築の原点としての住まい ①様々な住まいや集落のかたち-2			「住まう」ために必要な機能について理解する	
		5週	（2）建築の原点としての住まい ②気候風土と住まい			気候風土と住まいの関連を理解する	
		6週	（3）建築の集合としての都市 ①古代の都市・中世の都市・現代の都市			古代から現代までの都市の変遷と成り立ちの概要を理解する	
		7週	（3）建築の集合としての都市 ②都市計画とまちづくり			都市計画やまちづくりの基礎を理解する	
		8週	中間試験 試験答案の返却及び解説				
	2ndQ	9週	2. 建築デザインのプロセス （1）建築家の仕事			建築の分野にはどのような仕事があるのか、建築ができるまでの流れを理解する	
		10週	（2）建築設計のプロセス ①STAGE1・2 営業・企画			建築設計のプロセスを理解する	
		11週	（2）建築設計のプロセス ②STAGE3 職種			建築設計のプロセスを理解する	
		12週	（2）建築設計のプロセス ③STAGE4 設計・管理業務			建築設計のプロセスを理解する	
		13週	（3）建築の基本用語と基本ルール			建築の基本用語と基本ルールについて理解する	
		14週	（4）自然との共生を考える			建築と環境共生について、関連を理解する	
		15週	（5）建築家とデザイン			代表的な建築家の作品やその設計趣旨について理解する	
		16週	期末試験 試験答案の返却及び解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	10	0	70
専門的能力	20	0	0	0	10	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築デザイン演習	
科目基礎情報							
科目番号	0016			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	特に使用しない。必要な資料は、授業中に配布する。						
担当教員	林田 義伸						
到達目標							
1) アラベスク文様に見られる平面デザインの分析を通して、複雑な幾何学紋様のデザイン原理について理解し、複雑な幾何学を応用する手法を修得する。 2) 簡単な建築図を作成しながら、縮尺表現された図との実際の建築空間の相互関連について理解する。 3) 二次元的図法により表現された建築を3次的に理解し、模型として表現する技法について修得する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		アラベスク文様に見られる幾何学紋様のデザイン原理について理解し、独自に幾何学模様を作成でき、美術作品として仕上げるができる。		アラベスク文様に見られる幾何学紋様のデザイン原理について理解し、独自に幾何学模様を作成できる。		基本的な幾何学模様を作成し、アラベスク文様に見られる幾何学紋様のデザイン原理について理解できる。	
評価項目2		人間の生活活動に対する提案を、簡単な建築設計案としてまとめ、家具や建築空間を、正確な縮尺で、二次元的に描くことができる。		簡単な建築の設計を行い、家具や建築空間を、正確な縮尺で、二次元的に描くことができる。		簡単な建築の設計を行い、縮尺を意識しながら、二次元的に描くことができる。	
評価項目3		二次元的図法により表現された建築の形態や家具などを、正確な縮尺の模型として製作することができる。更に、建築内部での人間の生活についてイメージ出来る表現ができること。		二次元的図法により表現された建築の形態や家具などを、正確な縮尺の模型として製作することができる。		二次元的図法により表現された建築の形態を模型として製作することができる。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2							
教育方法等							
概要	建築を構成する平面や立体の形態構成原理や、具体的な建築などを表現する手法について学習する。また、図などに表現されたものの具体的なイメージを構築する能力を育成する。						
授業の進め方・方法	テーマに沿った作品を作成しながら、建築デザインに必要な基礎的能力および知識を学習する。						
注意点	特になし。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	1. 平面デザインの基礎 幾何学的平面デザインの練習 (1)			正方形を基本とした簡単なアラベスク文様の作図演習	
		2週	1. 平面デザインの基礎 幾何学的平面デザインの練習 (2)			六角形を基本とした複雑なアラベスク文様の作図演習	
		3週	1. 平面デザインの基礎 幾何学的平面デザイン			アラベスク文様の基本的なデザインを行う。	
		4週	1. 平面デザインの基礎 幾何学的平面デザイン			基本的なアラベスク文様を配置し、作品としての形態を完成させる。	
		5週	1. 平面デザインの基礎 幾何学的平面デザインの着色			作成した文様の配色計画を行う。	
		6週	1. 平面デザインの基礎 幾何学的平面デザインの着色			作成した文様に着色し、作品として完成させる。	
		7週	2. 立体の認識と表現手法 縮尺図と実物との関連			簡単な建築の設計行う。	
		8週	2. 立体の認識と表現手法 縮尺図と実物との関連			設計した「簡単な建築」に配された各寸法を知る。	
	4thQ	9週	2. 立体の認識と表現手法 縮尺図と実物との関連			設計した「簡単な建築」を縮尺図面として作図する。	
		10週	2. 立体の認識と表現手法 建築の3次的表現手法 (模型)			設計した「簡単な建築」にある家具を作成する。	
		11週	2. 立体の認識と表現手法 建築の3次的表現手法 (模型)			設計した「簡単な建築」にある家具を作成する。	
		12週	2. 立体の認識と表現手法 建築の3次的表現手法 (模型)			設計した「簡単な建築」の本体を作成する。	
		13週	2. 立体の認識と表現手法 建築の3次的表現手法 (模型)			設計した「簡単な建築」の敷地を作成する。	
		14週	2. 立体の認識と表現手法 建築の3次的表現手法 (模型)			作成した各パーツを組み合わせ、作品として完成させる。	
		15週	2. 立体の認識と表現手法 建築設計説明図面の作成			作品を説明する図を描き、これを説明する文を付け、作品として完成させる。	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	0	0	0	0	30	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築構造 I
科目基礎情報						
科目番号	0017		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	大岡 優,浅野 浩平					
到達目標						
1. 木構造の特徴、骨組の構成、部材断面の大きさの目安、仕上げ、耐震計画を説明できること。 2. 必要壁量の算出および耐力壁の配置の検討が出来ること。						
3. 鉄筋コンクリート構造の特徴、骨組の構成、部材断面の大きさの目安、仕上げ、耐震計画を説明できること。						
4. 鉄筋コンクリート構造ラーメンの伏図、軸組図、断面詳細図、ラーメン配筋図、部材リストを正しく読めること。 5. 建築用語を正しく理解すること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	木構造・鉄筋コンクリート構造の特徴、使用材料、主体構造について説明出来、目安となる部材断面の大きさをあげることが出来る。		木構造・鉄筋コンクリート構造の特徴、使用材料、主体構造は説明できるが、目安となる部材断面の大きさをあげることができない。		木構造・鉄筋コンクリート構造の特徴、使用材料、主体構造について説明出来ない。	
評価項目2	木構造の必要壁量と耐力壁の配置バランスを正しく評価できる。		木構造の必要壁量の評価は正しくできるが、耐力壁の配置バランスを正しく評価できない。		木構造の必要壁量と耐力壁の配置バランスを全く評価できない。	
評価項目3	鉄筋コンクリート構造ラーメンの伏図、軸組図、断面詳細図、ラーメン配筋図、部材リストの全てのトレースを正しく行える。		鉄筋コンクリート構造ラーメンの伏図、軸組図、断面詳細図、部材リストの全てのトレースを正しく行えない。		鉄筋コンクリート構造ラーメンの伏図、軸組図、断面詳細図のトレースを正しく行えない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2						
教育方法等						
概要	木構造・鉄筋コンクリート構造の特徴、使用材料、基礎、主体構造および仕上げについて学ぶ。					
授業の進め方・方法	例題などを解く際に電卓を使用する。 教科書をよく読んで予習すること。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	木構造の特徴と構造形式 (1)		構造の長所と短所および構造形式について理解できる。	
		2週	木構造の特徴と構造形式 (2)		構造の長所と短所および構造形式について理解できる。	
		3週	木材 (1)		建築用木材の種類と特徴および木材の性質について理解できる。	
		4週	木材 (2)		建築用木材の種類と特徴および木材の性質について理解できる。	
		5週	木材の接合 (1)		接合の方法と接合上の注意点について理解できる。	
		6週	木材の接合 (2)		接合の方法と接合上の注意点について理解できる。	
		7週	基礎		基礎の役割および構成について学ぶ。また、耐力壁の必要壁量と配置計画について理解できる。	
		8週	軸組		軸組の役割および構成について理解できる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	小屋組		小屋組の役割と構成について理解できる。	
		11週	床組		床組の役割と構成について理解できる。	
		12週	開口部		開口部に求められる性能や構成について理解できる。	
		13週	外部仕上		屋根と外壁に求められる性能や構成について理解できる。	
		14週	内部仕上		床・内壁・天井に求められる性能や構成について理解できる。	
		15週	前期末試験			
		16週	試験答案の返却及び解説			
後期	3rdQ	1週	鉄筋コンクリート構造の特徴と構造形式		鉄筋コンクリート構造の長所と短所と構造形式について理解できる。	
		2週	コンクリートと鉄筋の性質 (1)		コンクリートの材料、要求される性能について理解できる。鉄筋の種類や規格について理解できる。	
		3週	コンクリートと鉄筋の性質 (2)		コンクリートの材料、要求される性能について理解できる。鉄筋の種類や規格について理解できる。	
		4週	基礎		基礎の形式と設計上の注意点について理解できる。	
		5週	主体構造 (1)		部材の構成、部材断面の大きさの目安、鉄筋の役割、組み方、技術基準、耐震計画について理解できる。	

		6週	主体構造（2）	部材の構成、部材断面の大きさの目安、鉄筋の役割、組み方、技術基準、耐震計画について理解できる。
		7週	主体構造（3）	部材の構成、部材断面の大きさの目安、鉄筋の役割、組み方、技術基準、耐震計画について理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	防水・仕上げ	要求される性能、使用される材料について理解できる。
		10週	防水・仕上げ	要求される性能、使用される材料について理解できる。
		11週	壁式鉄筋コンクリート構造	壁式鉄筋コンクリート構造の構造と構造形式について理解できる。
		12週	壁式プレキャストコンクリート構造	壁式プレキャストコンクリート構造の構造と構造形式について理解できる。
		13週	補強コンクリートブロック構造	補強コンクリートブロック構造の構造と構造形式について理解できる。
		14週	プレストレストコンクリート構造	プレストレストコンクリート構造の特徴と構造形式について理解できる。
		15週	学年末試験	
		16週	試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	60	0	0	0	0	10	70	
専門的能力	20	0	0	0	0	10	30	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国語
科目基礎情報					
科目番号	0032		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新編現代文B（東京書籍）、古典B（桐原書店）、新版三訂『新訂総合国語便覧』（第一学習社）、新常用漢字必携パーフェクトリア（尚文出版）				
担当教員	内田 凉子				
到達目標					
1. 論理的文章の読解を通して、要旨や筆者の主張を把握し、それについて自分なりに考察することができる。 2. 文学的作品の読解を通して、想像力や感性を磨き、心情を豊かにすることができる。 3. 古典に親しむための教養を身に付け、伝統的な言語文化に興味・関心を持つことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	論理の展開を十分に理解し、要旨を把握して、それに対する自分の意見を持つことができる。		読解に必要な知識・語彙力を備え、文意を理解することができる。		読解に必要な知識・語彙力のある程度備え、文意を少しは理解することができる。
評価項目2	優れた表現に着目するとともに、表現の奥に潜む筆者の意図を考えることができる。		場面や情景を想像し、人物の行動の意味や心情を理解することができる。		場面や情景を少しは想像でき、人物の行動の意味や心情について考えようとすることができる。
評価項目3	古典の面白さと意義を理解し、伝統的な言語文化に興味・関心を持つことができる。		古典を学ぶための基本事項を理解し、古典に親しむ素地を作ることができる。		古典を学ぶための基本事項を少しは理解し、古典に親しむ努力をすることができる。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-1 学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3					
教育方法等					
概要	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、物の見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し、言語文化への関心を深め、国語力の向上を図る態度や人間性を豊かにする態度を育てる。 古典においては、それぞれの時代背景や生き方に関心を持たせ、言葉の響きを味わいながら鑑賞する。				
授業の進め方・方法	1. 新しい単元に入る時は、必ず読んでおくこと。 2. 漢字テスト（20点満点）は毎回15点以上取れるようにすること。				
注意点	夏休み課題の読書感想文は、提出点（提出期限厳守）、内容点を成績に加味するので、必ず提出すること。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 随想『さくらさくらさくら』導入・通読	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 随想を読んで筆者の考え方や感じ方を的確に読み取る。	
		2週	第一段落、第二段落 読解	随想を読んで筆者の考え方や感じ方を的確に読み取る。	
		3週	第一段落、第二段落 読解 第三段落 読解・まとめ	随想を読んで筆者の考え方や感じ方を的確に読み取る。	
		4週	第三段落 読解・まとめ 小説『山月記』導入・通読	随想を読んで筆者の考え方や感じ方を的確に読み取る。 小説の初発の読後感をまとめる。	
		5週	『徒然草』より「これも仁和寺の法師」解説 『方丈記』より「行く河の流れ」 導入・通読	古典における随筆の導入として解説。 鴨長明の作品を鑑賞し、『方丈記』の基本主題「無常」について理解する。	
		6週	「行く河の流れ」 読解	鴨長明の作品を鑑賞し、『方丈記』の基本主題「無常」について理解する。	
		7週	「大火とつじ風」 導入・通読・読解	鴨長明の作品を鑑賞し、『方丈記』の基本主題「無常」について理解する。	
		8週	「大火とつじ風」 読解	鴨長明の作品を鑑賞し、『方丈記』の基本主題「無常」について理解する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	

後期		10週	小説『山月記』より 第一段落 解読	小説の主人公の性格や心理を読み取り、人間存在や自意識の問題について考える。
		11週	第二段落 解読	小説の主人公の性格や心理を読み取り、人間存在や自意識の問題について考える。
		12週	第三段落 解読 女手（平仮名）と平安時代の文学」解読	小説の主人公の性格や心理を読み取り、人間存在や自意識の問題について考える。 平安時代の貴族社会での平仮名の役割について理解する。
		13週	『枕草子』より「うつくしきもの」 導入・読解 「中納言参りたまひて」 読解	清少納言のものの見方、考え方や宮廷生活における立場などを読み取り作品を鑑賞する。
		14週	「中納言参りたまひて」 読解	清少納言のものの見方、考え方や宮廷生活における立場などを読み取り作品を鑑賞する。
		15週	「中納言参りたまひて」 読解「雪のいと高う降りたるを」 読解	清少納言のものの見方、考え方や宮廷生活における立場などを読み取り作品を鑑賞する。
		16週	「雪のいと高う降りたるを」 読解 試験答案の返却及び解説	清少納言のものの見方、考え方や宮廷生活における立場などを読み取り作品を鑑賞する。
	3rdQ	1週	小説『山月記』より 第三段落続き	引き続き主人公の心情を読み取り、人間とは何か、自分とは何かについてより考えを深め、主題に近づく。
		2週	第四段落 解読	引き続き主人公の心情を読み取り、人間とは何か、自分とは何かについてより考えを深め、主題に近づく。
		3週	第五段落 解読	引き続き主人公の心情を読み取り、人間とは何か、自分とは何かについてより考えを深め、主題に近づく。
		4週	第五段落 解読 第六段落 解読	引き続き主人公の心情を読み取り、人間とは何か、自分とは何かについてより考えを深め、主題に近づく。
		5週	『竹取物語』より「天の羽衣」 解読	物語文学の導入として、伝奇物語の紹介・解説。
		6週	「天の羽衣」 解読 『源氏物語』（桐壺）より「光源氏の誕生」 導入・通読	物語文学の導入として、伝奇物語の紹介・解説。 紫式部が描く王朝絵巻に興味を持ち、作中の人物像や心情を味わう。
		7週	第一段落 解読	紫式部が描く王朝絵巻に興味を持ち、作中の人物像や心情を味わう。
		8週	第二段落 解読 第三段落 解読	紫式部が描く王朝絵巻に興味を持ち、作中の人物像や心情を味わう。
	4thQ	9週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		10週	小説『山月記』より 第六段落 解読 続き 第七段落 解読、まとめ	主題をまとめ作品を鑑賞。
		11週	『詩歌』より 詩『竹』	詩二編、それぞれの詩の持つ語感を味わい、心情や主題を鑑賞する。
		12週	詩『永訣の朝』	詩二編、それぞれの詩の持つ語感を味わい、心情や主題を鑑賞する。

		13週	詩『永訣の朝』 『源氏物語』（桐壺）より「光源氏の誕生」 第三段落 解説 続き	詩二編、それぞれの詩の持つ語感を味わい、心情や主題を鑑賞する。 『源氏物語』の重要な登場人物（紫の上、藤壺）について紹介をしてまとめとする。
		14週	第四段落解説・まとめ	『源氏物語』の重要な登場人物（紫の上、藤壺）について紹介をしてまとめとする。
		15週	第四段落解説・まとめ	『源氏物語』の重要な登場人物（紫の上、藤壺）について紹介をしてまとめとする。
		16週	「若紫との出会い」 通読・解説 試験答案の返却及び解説	『源氏物語』の重要な登場人物（紫の上、藤壺）について紹介をしてまとめとする。 試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	20	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	微分積分学 I
科目基礎情報						
科目番号	0034		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	建築学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	新微分積分学I (大日本図書)					
担当教員	友安 一夫					
到達目標						
1)関数の極限の概念を理解し、いろいろな関数の極限計算ができる。 2)微分係数・導関数の定義および諸公式を理解し、いろいろな関数の微分係数・導関数を求められる。 3)微分法を用いて、いろいろな関数の接線・法線の方程式を求めたりグラフの概形を描くことができる。 4)不定積分・定積分の定義および諸公式を理解し、いろいろな関数の不定積分・定積分が求められる。 5)積分法を用いて、いろいろな図形の面積、体積、曲線の長さを求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低到達レベルの目安(可)	
評価項目1	関数の極限の概念を理解し、関数の極限を求める基本および応用的な計算ができる。		関数の極限の概念を十分に理解し、基本的な関数の極限計算ができる。		特定の関数の極限計算ができる	
評価項目2	微分係数・導関数の定義および諸公式を理解し、微分係数・導関数を求める基本および応用的な計算ができる。		微分係数・導関数の定義および諸公式を理解し、基本的な関数の微分係数・導関数を求めることができる。		特定の関数の微分係数・導関数は求められる。	
評価項目3	微分法を用いて、接線・法線の方程式を求めたりグラフの概形を描くための基本および応用的な計算ができる。		微分法を用いて、基本的な関数の接線・法線の方程式を求めたりグラフの概形を描くことができる。		微分法を用いて、特定の関数の接線・法線の方程式を求めたりグラフの概形を描くことはできる。	
評価項目4	不定積分・定積分の定義および諸公式を理解し、不定積分・定積分を求める基本および応用的な計算ができる。		不定積分・定積分の定義および諸公式を理解し、基本的な関数の不定積分・定積分を求めることができる。		特定の関数の不定積分・定積分は求められる。	
評価項目5	積分法を用いて、図形の面積、体積、曲線の長さを求める基本および応用的な計算ができる。		積分法を用いて、基本的な図形の面積、体積、長さを求めることができる。		積分法を用いて、特定の図形について面積、体積、曲線の長さを求めることはできる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1						
教育方法等						
概要	理工系の各分野で幅広く利用される微分法・積分法の基礎を学習する。					
授業の進め方・方法	1)1年生で学んだ方程式・不等式の解法、諸関数(2次関数、分数関数、無理関数、指数関数、対数関数、三角関数等)のグラフや基本性質についてよく復習しておくこと。 2)問題集や授業中に課せられる自宅学習用課題は各自授業に平行して行い基礎学力の向上に努めること。					
注意点	実力試験の結果も学年末最終成績に加味する。 長期休暇課題は必ず提出すること。 定期試験・実力試験は全学科共通試験で実施する。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	微分法 関数の極限		空白のまま 教務委員に	
		2週	微分係数と導関数			
		3週	導関数の性質			
		4週	三角関数、指数関数の導関数			
		5週	合成関数の導関数			
		6週	対数関数の導関数			
		7週	逆三角関数とその導関数、関数の連続			
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	微分法の応用 接線・法線			
		10週	関数の増減 (1)			
		11週	関数の増減 (2)			
		12週	極値とグラフの概形 (1)			
		13週	極値とグラフの概形 (2)			
		14週	不定形の極限			
		15週	高次導関数・曲線の凹凸			
		16週	媒介変数表示と微分法			
後期	3rdQ	1週	積分法 不定積分と定積分の定義			
		2週	微分積分法の基本定理、定積分の計算			
		3週	いろいろな不定積分の公式			
		4週	置換積分法			
		5週	部分積分法			
		6週	置換積分法・部分積分法の応用			

		7週	いろいろな関数の積分	
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	積分の応用 図形の面積・曲線の長さ	
		10週	立体の体積	
		11週	まとめと演習	
		12週	媒介変数表示による図形	
		13週	極座標による図形（１）	
		14週	極座標による図形（２）	
		15週	広義積分	
		16週	まとめと演習	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験試験・実力試験	その他	合計	
総合評価割合		80	20	100	
知識の基本的な理解		60	10	70	
適応力		20	5	25	
人間力		0	5	5	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	物理
科目基礎情報					
科目番号	0036		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	建築学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	物理（数研出版社）、リード物理基礎、リードα物理、配付プリント				
担当教員	森茂 龍一,恵下 敏				
到達目標					
1) アクティブラーニングを導入した授業を行うので事前に予習をすること。 2) 実験レポートは提出期限日までに提出すること。 3) 物理実験のレポートが不合格となった学生の再試験は実施しない。 1) 数学の三角関数、三角比、1次及び2次関数、ベクトル等については理解しておくこと。 2) 特に予習や復習に重点をおいて学習すること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	科学史については、自然科学の歴史的な観点を理解でき、説明できる。		科学史については、自然科学の歴史的な観点を理解できる。		科学史の一部は、理解し、説明することができる。
評価項目2	物理法則の数式を説明することができ、問題を解くことができる。		重要な物理法則が説明でき、その法則を用いて、物理量を計算することができる。		重要な物理法則の一部の説明はできる。
評価項目3	表やグラフを正しく完成でき、「考察」を自分の言葉を用いて表現することができる。		データ整理を行い、定められた形式でレポートを期日までに完成させることができる。		実験レポートの実験方法や結果までは完成させることができる。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1					
教育方法等					
概要	自然科学の基礎となる物理学の基本概念や原理に対する理解を深め工学を学ぶための基本的な考え方を養成する。				
授業の進め方・方法	1) アクティブラーニングを導入した授業を行うので事前に予習をすること。 2) 実験レポートは提出期限日までに提出すること。 3) 物理実験のレポートが不合格となった学生の再試験は実施しない。 1) 数学の三角関数、三角比、1次及び2次関数、ベクトル等については理解しておくこと。 2) 特に予習や復習に重点をおいて学習すること。				
注意点	物理実験のレポートが不合格となった学生の再試験は実施しない。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 1) 科学史	1) 宇宙創成から人類の誕生、古代ギリシャから近代物理までを学び物理学の理解を深める。	
		2週	1) 科学史		
		3週	1) 科学史		
		4週	2) 熱とエネルギー	2) 絶対温度、熱容量、比熱の計算をし、熱量保存則を理解する。	
		5週	温度、熱と熱平衡、熱と仕事	熱力学の基本法則やジュールの法則の基本気体の運動に関する法則を理解する	
		6週	ジュールの実験、熱の仕事等量	W = J Qの式を理解する。ジュール熱の測定の実験	
		7週	熱力学の第1、2法則、エネルギー	熱力学の法則や可逆・不可逆変化の理解する。	
		8週	ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式 気体の内部エネルギー、熱機関,大気圧	ボイル・シャルルの法則やP V = n R Tについての説明。 圧力、大気圧、トリチェリーの実験を理解する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説		
		10週	3) 波動 波の性質、定常波、干渉、波の式	3) 波の波長、周期、振動数、速さを理解する。 縦波横波の違い、波の重ね合わせ、独立性干渉	
		11週	波の反射と屈折、縦波と横波	波の反射、屈折を理解する。	
		12週	4) 音波	音の回折や干渉、ドップラー効果についての基本問題が解けるようにする	
		13週	音の速さ、反射、屈折、回折、干渉		
		14週	弦の固有振動、気柱の共鳴	気柱共鳴の実験を行う。	
		15週	ドップラー効果、定常波 ホイヘンスの原理、波の反射と屈折		
		16週	試験答案の返却及び解説		
後期	3rdQ	1週	5) 光波	光速度の測定や光の特徴を理解する。	
		2週	光速度、光の回折と干渉、レンズ	レンズ,ヤングのダブルスリットの実験	
		3週	光速度、光の回折と干渉、レンズ		
		4週	偏光、光の分散	偏光・光のスペクトル・光の回折を理解する	
		5週	偏光、光の分散		
		6週	6) 流体の力学、圧力、パスカルの原理	気体や液体について圧力、浮力、揚力などの流体に働く力についての理解を深める。	

		7週	ベルヌーイの法則、粘性、R e 数	
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	
	4thQ	9週	7) 実験 実験の説明	実験を通して物理の理解を深める。
		10週	(1) 固体の比熱の測定	実験終了後は実験報告書を作成し提出する。
		11週	(2) 振り子の等時性	有効数字を考慮してデータを集計できる。
		12週	(3) ジュールの実験	実験報告書（レポート）は決められた書式で作成できる。
		13週	(4) 落下運動と空気抵抗あるいは放射線の測定	
		14週	(5) 電子レンジによる蛍光体の合成とその特性	
		15週	(6) 英語購読演習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	レポート	合計	
総合評価割合	70	10	20	100	
知識の基本的な理解	40	5	5	50	
思考・推論・創造への 適応力	30	5	5	40	
汎用的技能	0	0	0	0	
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0	
総合的な学習経験と創造的 思考力	0	0	10	10	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	総合理科
科目基礎情報					
科目番号	0037		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高校生物基礎、高校地学基礎（実教出版）、高校生物基礎、高校地学基礎（実教出版）				
担当教員	山下 宗邦				
到達目標					
1) 基本術語、基本概念を理解し覚えること。 2) 連続的な発展あるいは衰退の現象については、そのストーリーを正しく理解し語れるようになること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	ある課題や事象がライフサイエンスやアースサイエンスにどのように関係しているかを十分良好に伝えることができる。		ある課題や事象がライフサイエンスやアースサイエンスにどのように関係しているかを概ね良好に伝えることができる。		ある課題や事象がライフサイエンスやアースサイエンスにどのように関係しているかを一部伝えることができる。
評価項目2	ライフサイエンスやアースサイエンスの関係する重要な概念を十分良好に説明できる。		ライフサイエンスやアースサイエンスに関係する重要な概念を概ね良好に説明できる。		ライフサイエンスやアースサイエンスの関係する重要な概念を一部説明できる。
評価項目3	ライフサイエンスやアースサイエンスの基礎的な知識を工学分野の課題解決に十分に適用できる。		ライフサイエンスやアースサイエンスの基礎的な知識を工学分野の課題解決に概ね良好に適用できる。		ライフサイエンスやアースサイエンスの基礎的な知識を工学分野の課題解決に一部適用できる。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1					
教育方法等					
概要	生命と地球についての科学的知見に背かない、人にも自然にも優しい工学人としての生き方を培う。				
授業の進め方・方法	1) いわゆる生物学、および地学の対象は複雑な系である。説明をしっかりと聴き理解を深めること。 2) 念入りに作成したプリントである。まじめに記入し、よく読み必ず提出すること。また活用すること。 1) 中学校理科第2分野を復習すること。前期は生物分野、後期は地学分野である。 2) プリントが返ってきたら直ちに復習用解答欄を活用し、定期試験対策を行うこと。				
注意点					
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	〈ライフ〉シラバスの説明 1章 生物の特徴 1. 生物の共通性と多様性	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	
		2週	2. 細胞とエネルギー	1章；生命は細胞の形で生じた。細胞は生命の構造と機能の基本単位として、全生物に共通の存在であると同時に生物の多様性をも支えている。細胞の構造と機能を学習し、生物学習の土台を築く。	
		3週	2. 細胞とエネルギー		
		4週	2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の分配	2章；遺伝子の実態はDNAであることを学ぶ。DNAの分子構造や遺伝情報発現のしくみについて、その解明過程をたどりつつ学ぶ。またDNA操作の先端技術や倫理問題について関心を深める。	
		5週	1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の分配		
		6週	3. 遺伝情報とタンパク質の合成		
		7週	3. 遺伝情報とタンパク質の合成		
		8週	3章 生物の体内環境とその維持 1. 体内環境	3章；まず、体内環境の媒体である血液に関して、循環系、血液の成分、酸素運搬、尿形成などを学ぶ。	
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		10週	2. 体内環境維持のしくみ	心拍数や呼吸数、血糖量や体温などは神経系やホルモンによって一定数を与えられる。また、外からの侵入者を撃退する免疫によって健康が保たれる。これらのしくみ、すなわち恒常性について学び自他の健康維持に役立てる。	
		11週	2. 体内環境維持のしくみ		
		12週	3. 免疫		
		13週	4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 気候とバイオーム	4章；生物と環境を合わせて生態系という。その構造と機能について学習し、その保全のために何をすべきかを学ぶ。あわせて、自然からの資源の収奪と浪費に歯止めをかけ、開発、生産に当たっては、環境負荷の回避を使命とする理工哲学を培う。	
		14週	3. 生態系と物質循環		
		15週	4. 生態系のバランスと保全		
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	〈アース〉シラバスの説明 1章 地球の構成と運動 1. 地球の形と大きさ 2. 地球内部の構成	1章；地球の形や内部構造を概観し、足下の地球の火山活動、地震活動、プレートテクトニクスなど、およびそのエネルギーやしくみについて学ぶ。	

		2週	1. 地球の形と大きさ 2. 地球内部の構成	
		3週	3. 火山と地震 4. プレーートの運動	
		4週	3. 火山と地震 4. プレーートの運動	
		5週	2章 地球の変遷 1. 地層と化石	2章；地層に含まれる生物化石やその他の痕跡によって、推測された過去の生態系や地球環境やその変動などに接し、その是非について考察する。
		6週	2. 古生物の変遷と地球環境	
		7週	3章 大気と大洋 1. 大気の構造と運動	3章；大気圏全体の構造や性質および地表に接する対流圏の天気・気象について理解を深める。
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
	4thQ	9週	2. 大気の大循環	太陽の放射エネルギーの収支やそれが引き起こす大気の大循環について学習する。海洋の層構造と海流についても学習し地球全体の水循環について考える。
		10週	3. 海洋の構造と海水の運動	
		11週	4章 太陽系と宇宙 1. 太陽系の中の地球	4章；身近な太陽系はもとより、宇宙の誕生や銀河について学ぶ。天文衛星や各種探査機によって得られた知見に触れ、宇宙および宇宙工学への関心を深める。
		12週	2. 太陽とその進化	
		13週	3. 宇宙のすがた	
		14週	5章 地球の環境 1. 日本の自然環境	5章；地殻や大気の多彩な現象をもつ日本の自然環境の特徴を災害と恩恵の観点からとらえ直す。またグローバルな視点から地球規模の物質循環をとらえ直し、地球環境問題の未来を展望する。
		15週	2. 地球環境の科学	
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	その他	合計	
総合評価割合		80	20	100	
知識の基本的な理解		80	0	80	
思考・推論・創造への適応力		0	0	0	
汎用的技能		0	0	0	
態度・志向性（人間力）		0	20	20	
総合的な学習経験 と創造的思考力		0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	保健体育
科目基礎情報						
科目番号	0038		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	アクティブスポーツ【総合版】（大修館書店）					
担当教員	武田 誠司,松元 博子					
到達目標						
1）運動やスポーツの合理的な実践や健康の増進および体力の向上に活用できる能力や態度を身に付ける。 2）多くの運動やスポーツを楽しめる技能を身に付ける。 3）自己の能力に応じて継続的に運動やスポーツができるようにする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	合理的な実践や健康および体力の向上を考えながら、運動やスポーツに取り組むことができる。		運動やスポーツに取り組むことができる。		運動やスポーツの見学はできる。	
評価項目2	複数の運動やスポーツに参加し、積極的に技能を高めるための活動を実践できる。		複数の運動やスポーツに参加することができる。		運動やスポーツに参加することはできる。	
評価項目3	自己の能力などに応じて種目を選択し、その運動やスポーツを継続的に実践できる。		自己の能力などに応じて種目を選択し、運動やスポーツができる。		決められた運動やスポーツに参加することはできる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3 学習・教育目標・サブ目標との対応 4-3						
教育方法等						
概要	運動やスポーツの合理的な実践や健康の増進および体力の向上に活用できる能力や態度を育てる。運動の欲求を十分に満たしながら、多くのスポーツを楽しめる技能を身に付ける。公正・協力・責任などの態度を育て、自己の能力に応じて継続的に運動やスポーツができるようにする。					
授業の進め方・方法	体育実技では指示された服装や用具（体操服・体育館シューズなど）を準備して授業に臨むこと。日常的に自己の健康および安全に留意しておくこと。今までの運動やスポーツ経験をもとにして、授業で取り組む種目などを選択できるようにしておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明			
		2週	スポーツテスト 各種スポーツテストを行い、自己の体力を把握する。			
		3週	スポーツテスト			
		4週	球技（選択種目制） 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。			
		5週	球技（選択種目制）			
		6週	球技（選択種目制）			
		7週	球技（選択種目制）			
		8週	球技（選択種目制）			
	2ndQ	9週	球技（選択種目制）			
		10週	球技（選択種目制）			
		11週	球技（選択種目制）			
		12週	球技（選択種目制）			
		13週	球技（選択種目制）			
		14週	水泳（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ） 各種泳法で50m泳げるようにする。			
		15週	水泳（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ）			
		16週	水泳（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ）			
後期	3rdQ	1週	陸上競技（リレー競技） バトンパスの技術を高め、協力して記録短縮を目指す			
		2週	陸上競技（リレー競技）			
		3週	陸上競技（リレー競技）			
		4週	球技（選択種目制） 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。			
		5週	球技（選択種目制）			
		6週	球技（選択種目制）			
		7週	球技（選択種目制）			
		8週	球技（選択種目制）			

	4thQ	9週	陸上競技（持久走） 安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。	
		10週	陸上競技（持久走）	
		11週	陸上競技（持久走）	
		12週	球技（選択種目制） 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	
		13週	球技（選択種目制）	
		14週	球技（選択種目制）	
		15週	球技（選択種目制）	
		16週	球技（選択種目制）	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	成果品実技	その他	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	10	0	10
態度・志向性	10	20	30
総合的な学習経験	50	10	60

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語
科目基礎情報					
科目番号	0039		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	建築学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	Power On II（東京書籍）, Power On II Workbook（東京書籍）				
担当教員	飯尾 高明				
到達目標					
1) 基礎的な語彙、慣用句、文法事項を理解できる。 2) テキストを通じて、情報や考えなどを的確に理解したり、伝えたりすることができる。 3) 英語特有の音声に留意しながら、聞いたり、話したりすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	基本的な語彙、慣用句を完璧に理解し、また自分の意見や考えを表現するために、それらを運用できる。		基本的な語彙、慣用句をほぼ完璧に理解できる。		重要な文法事項を一部は理解できる。
評価項目2	重要な文法事項を完璧に理解し、また自分の意見や考えを表現するために、それらを運用できる。		重要な文法事項をほぼ完璧に理解できる。		重要な文法事項を一部は理解できる。
評価項目3	テキストの内容を把握し、また、内容に関連して、自分の意見や考えを英語で表現できる。		テキストの内容把握ができ、質問に対して英語、または日本語で答えることができる。		テキストの内容を一部は理解できる。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-1 学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3					
教育方法等					
概要	英語の基礎的な語彙、慣用句、文法を身につけ、英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり、伝えたりする能力を養う。実用英語技能検定試験（英検）は、3級未取得者は3級受験を、3級既得者は準2級受験を身近な目標にしてほしい。				
授業の進め方・方法	【履修上の注意】 1) 課題は提出期限日までに提出すること。 2) 授業には、辞書（電子辞書も可）を持ってくること。 3) 週に一度、語彙の小テストを実施する。 【事前に行う準備学習や自己学習】 1) 事前学習により、当該授業時間で進行する部分を予習しておくこと。 2) 復習はワークブックを使って勉強すること。 3) 復習には音読も取り入れること。				
注意点					
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Lesson 1 What Do You Eat With?		
		2週	Lesson 1 What Do You Eat With?		
		3週	Lesson 2 Wrapping Culture		
		4週	Lesson 2 Wrapping Culture		
		5週	Lesson 3 Story about Yaku-Sugi Cedars		
		6週	Lesson 3 Story about Yaku-Sugi Cedars		
		7週	Lesson 3 Story about Yaku-Sugi Cedars		
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	Lesson 4 Intervi with Anyango		
		10週	Lesson 4 Intervi with Anyango		
		11週	Lesson 4 Intervi with Anyango		
		12週	Lesson 5 Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture		
		13週	Lesson 5 Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture		
		14週	Lesson 5 Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture		
		15週	Lesson 5 Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture		
		16週	前期末試験 試験答案の返却及び解説		
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 The Power of Color		
		2週	Lesson 6 The Power of Color		
		3週	Lesson 6 The Power of Color		
		4週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?		
		5週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?		
		6週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?		
		7週	Lesson 7 What Is Going On in Tuvalu?		

		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	
	4thQ	9週	Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	
		10週	Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	
		11週	Lesson 8 Humpback Whales: A Life of Competition and Cooperation	
		12週	Lesson 9 From Owning to Sharing	
		13週	Lesson 9 From Owning to Sharing	
		14週	Lesson 10 Promise to Clean Up Japan Once and for All	
		15週	Lesson 10 Promise to Clean Up Japan Once and for All	
		16週	学年末試験 試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	その他	合計
総合評価割合	80	10	10	100
知識の基本的な理解	40	10	0	50
思考・推論・創造	20	0	0	20
汎用的技能	20	0	0	20
態度・志向性	0	0	10	10

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英文法
科目基礎情報						
科目番号	0040		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Benchmark English Grammar in 25 Lessons for 7th Edition (桐原書店) Forest Benchmark English Grammar More Drills for 7th Edition (桐原書店)					
担当教員	福田 佳奈子					
到達目標						
1) 基礎的な語彙、慣用句、文法事項を理解できる。 2) 構文の文法的構造を理解できる。 3) 英検準2級程度の長文問題を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	英文法の基礎的項目を正しく理解し、適切に運用することができる		英文法の基礎的項目をおおむね理解し、運用できる。		英文法の基礎的項目を、教科書・参考書を参照すれば理解できる。	
評価項目2	英検準2級の長文問題に用いられている文法事項を理解し、その問題を辞書を使わずに解くことができる。		英検準2級の長文問題に用いられている文法事項をおおむね理解し、その内容を辞書を使わずに理解できる。		英検準2級の長文問題に用いられている文法事項およびその内容を推測できる。	
評価項目3	教科書に記載されているイディオム・構文を正しく理解し、適切に運用できる。		教科書に記載されているイディオム・構文をおおむね理解し、ほぼ適切に運用できる。		教科書に記載されているイディオム・構文を、辞書・参考書を参照しながら理解できる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3						
教育方法等						
概要	英文のルールを基本から学び、より深く英文法を体系的に学習すること。					
授業の進め方・方法	教科書単元の未知の単語を予め調べておくこと。また授業で履修した章は巻末のディクテーションシートで復習すること。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画説明			
		2週	動名詞			
		3週	Plus 動名詞 (1)			
		4週	Plus 動名詞 (2)			
		5週	分詞 (1)			
		6週	分詞 (2)			
		7週	分詞 (3)			
		8週	前期末試験 試験答案の返却及び解説			
	2ndQ	9週	Plus 分詞			
		10週	比較 (1)			
		11週	比較 (1)			
		12週	比較 (2)			
		13週	比較 (2)			
		14週	Plus 比較			
		15週	Plus 比較			
		16週	前期末試験 試験答案の返却及び解説			
後期	3rdQ	1週	関係詞 (1)			
		2週	関係詞 (2)			
		3週	関係詞 (2) 関係詞 (3)			
		4週	関係詞 (3)			
		5週	Plus 複合関係詞			
		6週	仮定法 (1)			
		7週	仮定法 (1)			
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説			
	4thQ	9週	仮定法 (2)			
		10週	仮定法 (2)			
		11週	Plus 仮定法			
		12週	Plus 仮定法			

		13週	否定	
		14週	否定 接続詞	
		15週	接続詞	
		16週	学年末試験 試験答案の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80	
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英会話
科目基礎情報						
科目番号	0041		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	Outfront. Practical English Conversation					
担当教員	バットランド ダンカン					
到達目標						
At the completion of this course students will be able to listen and respond with improved English fluency about topics including family and home, hobbies and preferences, and daily routines. Simple grammar structures will be reinforced giving students confidence to speak and use English in communicative situations.						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 Listening		Students can listen to an English conversation and completely understand the main gist and all the details.	Students can listen to an English conversation and understand the main gist, and most of the details, although some misunderstandings may occur.		Students can listen to an English conversation but there may be some misunderstandings about the main gist, and some important details may also be misunderstood.	
評価項目2 Speaking		Students can completely understand and respond to an English conversation and get their answer understood with no, or very minor, vocabulary or grammatical errors.	Students can understand and respond to an English conversation and get their answer understood, though some vocabulary or grammatical errors will occur.		Students can understand and respond to an English conversation and be understood despite major grammatical or vocabulary errors.	
評価項目3 Homework/Participation		Students completed all homework, participated enthusiastically in all activities to a high degree using only English	Students completed most homework and participated in the activities well, although sometimes lapsed back into using Japanese.		Students missed some homework and completed the communicative activities using basic English, but sometimes used Japanese.	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3						
教育方法等						
概要		To develop speaking fluency and English communicative ability. The focus is not on learning grammar, but instead on providing real opportunities to use and communicate in English.				
授業の進め方・方法		This is a STUDENT centred class, not a teacher centred class. This means students will be responsible for their own learning and will be required to fully participate in every class and all activities. There will be minimum input from the teacher in order to maximise student output. Every class, all students will be required to participate in group or pairwork discussions, and roleplays using ONLY English. Speaking Japanese is not allowed. The homework for this course is integrated into the lesson so failure to complete the homework will mean the student can not participate in the following lesson which will result in participation points being deducted. Students should use the dictionary at the back of the textbook to pre-learn vocabulary that will be used for each lesson. All homework must be completed before the start of the next lesson.				
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 Using task-based communicative activities students will actively use English in a variety of communicative situations.		Assessment: 70% exam (Mid term and end of term). 30% homework, attendance and participation.	
		2週	Course introduction		Explanation of course requirements and teacher expectations	
		3週	Unit 1: About oneself.		Greetings and partings, Talking about yourself, asking questions about others.	
		4週	Unit 1: About oneself.		Greetings and partings, Talking about yourself, asking questions about others.	
		5週	Unit 2: Family and home.		Describing family relationships, ones home and community.	
		6週	Unit 2: Family and home.		Describing family relationships, ones home and community.	
		7週	Unit 3: Hobbies and Preferences.		Discussing preferences, expressing opinions, politely disagreeing	
		8週	Unit 3: Hobbies and Preferences.		Discussing preferences, expressing opinions, politely disagreeing	
	2ndQ	9週	Unit 4: Time and Dates.		Asking and telling the time, using calendar dates, discussing schedules.	
		10週	Unit 4: Time and Dates.		Asking and telling the time, using calendar dates, discussing schedules.	
		11週	Unit 5: Shopping.		Working with numbers, dealing with money, making purchases.	
		12週	Unit 5: Shopping.		Working with numbers, dealing with money, making purchases.	

後期		13週	Unit 6: Routines.	Talking about daily routines, discussing frequency of activities.
		14週	Unit 6: Routines.	Talking about daily routines, discussing frequency of activities.
		15週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		16週		
	3rdQ	1週	Unit 7: Vacations.	Discussing vacations, past experiences
		2週	Unit 7: Vacations.	Discussing vacations, past experiences
		3週	Unit 8: Help! I'm lost.	Locating buildings, giving and following simple directions.
		4週	Unit 8: Help! I'm lost.	Locating buildings, giving and following simple directions.
		5週	Unit 9: Travel.	Making requests, taking/leaving phone messages, making reservations.
		6週	Unit 9: Travel.	Making requests, taking/leaving phone messages, making reservations.
		7週	Unit 10: Free time.	Inviting a friend out, accepting or refusing invitations.
		8週	Unit 10: Free time.	Inviting a friend out, accepting or refusing invitations.
	4thQ	9週	Unit 11: Eating Out.	Ordering and eating out at restaurants.
		10週	Unit 11: Eating Out.	Ordering and eating out at restaurants.
		11週	Unit 12: Health.	Health and sickness related vocabulary and discussion.
		12週	Unit 12: Health.	Health and sickness related vocabulary and discussion.
		13週	Pre exam review	Review of second semester.
		14週	Pre exam review	Review of second semester.
		15週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	口頭発表	合計	
総合評価割合		70	30	100	
知識の基本的な理解		70	30	100	
思考・推論・創造への適応力		0	0	0	
汎用的技能		0	0	0	
態度・志向性（人間力）		0	0	0	
総合的な学習経験と創造的思考力		0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	情報基礎Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0042		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年		2	
開設期	通年		週時間数		2	
教科書/教材	最新情報の科学 (岡本敏雄、実教出版)、情科302完全準拠 最新 情報の科学 学習ノート (解答編付) (実教出版編修部編、実教出版)、事例でわかる情報モラル (実教出版編修部編、実教出版)、例題30+演習問題70でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows8/Office2013対応版 (定平誠、技術評論社)					
担当教員	中村 博文					
到達目標						
1) ネットワーク上のサービスの概要や情報セキュリティ面の留意事項を理解し説明できること。 2) インターネット技術によるWebでの情報発信を理解しHTML文書を作成できること。 3) モデル化とシミュレーションを理解しプログラムでシミュレーションできること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)	
評価項目1	ネットワーク上のサービスの概要や情報セキュリティ面の留意事項を理解し、主要な概念を正しく説明できる。		ネットワーク上のサービスの概要や情報セキュリティ面の留意事項を理解し、関連する概念を正しく説明できる。		ネットワーク上のサービスの概要や情報セキュリティ面の留意事項の一部の事実を確認できる。	
評価項目2	ファイルシステム、ハイパーリンクを理解し、色彩設定、作表、画像参照を伴う複数ファイルからなるHTML文書を作成できる。		ファイルシステム、ハイパーリンクを理解し、色彩設定、作表、画像参照を伴う単一ファイルのHTML文書を作成できる。		単一ファイルからなる文字表示中心の初歩的なHTML文書を作成できる。	
評価項目3	オイラー法で二次元空間内の運動のシミュレーションができ、主要な概念を正しく説明できる。		オイラー法の考え方とシミュレーションプログラムを理解し、関連する概念を正しく説明できる。		オイラー法のシミュレーションアルゴリズムの一部の事実を確認できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	学校や家庭や職場で用いられる情報の活用・発信の手段や、情報の処理・通信の技術の概要の理解と、活用・発信の初歩的技術の修得、情報セキュリティ及び活用・発信における個人の責任の理解を目的とする。					
授業の進め方・方法	課題は期限までに実施すること。授業日は記憶媒体も持参すること。実力養成試験もないがしるにしないこと。提示する課題に自宅等や演習室等で取り組むこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明、整数や実数の表現			
		2週	情報モラル：ネット社会のモラルとマナー			
		3週	表計算演習			
		4週	表計算演習			
		5週	タッチタイプ、Windowsのユーザ管理と設定			
		6週	ワープロ演習			
		7週	ファイルシステムとコマンドライン			
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	試験解答、情報モラル：ネット社会での生活と危険性			
		10週	タッチタイプ、情報モラル：ネット社会での生活と危険性			
		11週	情報検索と計画表作成			
		12週	情報検索と計画表作成			
		13週	発表ソフト演習			
		14週	発表ソフト演習、論理演算			
		15週	前期末試験			
		16週	試験解答、論理演算と論理回路			
後期	3rdQ	1週	情報モラル：個人情報と知的財産			
		2週	情報モラル：個人情報と知的財産			
		3週	論理演算と論理回路、数値計算			
		4週	数値計算			
		5週	フリーウェア等の利用			
		6週	数値計算			
		7週	フリーウェア等の利用、圧縮解凍、データ形式の変換			
		8週	後期中間試験			
	4thQ	9週	試験解答、ネットワークとデータベース			
		10週	コンピュータを利用した問題解決			
		11週	シミュレーション			
		12週	HTMLによるWebページ記述			
		13週	情報モラル：情報セキュリティとネット被害			

		14週	コンピュータを利用した問題解決					
		15週	学年末試験					
		16週	試験解答					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100	
基礎的理解	60	10	0	0	0	0	70	
応用能力	20	10	0	0	0	0	30	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	建築設計演習
科目基礎情報					
科目番号	0043		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	建築学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	初めて学ぶ建築製図（建築のテキスト編集委員会編・学芸出版社）、コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編、丸善出版）				
担当教員	林田 義伸				
到達目標					
1) 実際の建築図面（平面図・立面図・断面図）を模写することにより、建築図面の読み方を理解し、描くことができること。また、様々な図面（平立断面図・詳細図・矩計図）に表記されている空間的相互関係について理解し、与えられた課題の図面を描くことができること。 2) 建築図面に表記されている部分から、立体としての建築を理解し、立体図として描くことができること。 3) 設計課題の設計条件を理解・調査・分析し、適切な設計目標をたてることができる。 4) 住宅の様々な機能、階層を系統づけて整理し、建築としてまとめることができる。 5) 設計図書としての図面とプレゼンテーション用の図面の作成目的の違いを理解し、またそれぞれを適切に表現できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	標準的な到達レベルを前提とし、第三者が読み取りやすい図面として仕上げるができる。		模写する建築図面に記載されている基本的な記号や図面間の相互関係について理解し、正確な建築図面を描くことができる。		建築図面に記載されている基本的な記号について理解し、建築図面を模写できる。
評価項目2	標準的な到達レベルを前提とし、外構部、或いは内向部の豊かな表現が出来、作品として完成させることができる。		平立断面図などから、立体としての建築を理解し、立体図として正確に描くことができる。		平立断面図などから、立体としての建築を理解し、立体図として描くことができる。
評価項目3	標準的な到達レベルを前提とし、独創的な提案が盛り込まれている。		計画・設計に必要な設計条件を設定し、それらを満たした設計目標をつくることができる。		目標とする建築空間を計画・設計するにあたり、どのような設計条件があるのかを理解できる。
評価項目4	標準的な到達レベルを前提とし、意匠的な手法が研究され、求められている建築空間に相応しい手法が試みられていること。		基本的な計画・設計方法の十分な理解をもとに、求められている建築空間が合理的にまとめられる。		求められている建築空間の機能、動線など基本的な計画の知識を学習できる。
評価項目4	標準的な到達レベルを前提とし、プレゼンテーションの様々な技巧を研究し、またそれを試みられていること。		各自の設計コンセプトが、他者を理解させる構成・内容になっていること。		設計図書としての図面を作成するに当たり、製図および各種図面の規則・書式を知っている。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2					
教育方法等					
概要	建築を表現するための基本的な作図方法を学習する。 前期は、建築製図の一般的なルールを理解し、設計提案するものを客観的に伝達できる技術を習得する。 後期は、住宅の設計の進め方、基本的な構造、設計した物の図による表現方法を学習する。				
授業の進め方・方法	製図作品を制作する。時間内に終了しなかった作業については、次週まで必ず自宅にて実施しておくこと。後期設計授業においては、建築の専門雑誌などで住宅の事例を収集し資料としてまとめておくこと。				
注意点	毎回、作業に必要な用具（製図器具など）を忘れず持参すること。各種提出物は提出期限日までに提出すること。（求められた内容が未達成の場合でも、その時点でできている図面などを提出すること。提出期限時点での評価を行う。）				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	建築図面の模写・作成	建築図面表記内容の概説 模写対象図面の表記された内容を理解する。	
		2週	建築図面の模写・作成	住宅建築の配置図兼 1 階平面図の模写 各種の線の意味を理解する。基準線及び壁線下書を作図する。	
		3週	建築図面の模写・作成	住宅建築の配置図兼 1 階平面図の模写 開口部の下書、壁線・開口部を適切な線種で仕上げる。	
		4週	建築図面の模写・作成	住宅建築の配置図兼 1 階平面図の模写 家具・床面などを下書き、適切な線種で仕上げる。	
		5週	建築図面の模写・作成	住宅建築の配置図兼 1 階平面図の模写 外構部の下書きを行う。	
		6週	建築図面の模写・作成	住宅建築の配置図兼 1 階平面図の模写 外構部を仕上げ、必要な記号や文字を書き込む。	
		7週	建築図面の模写・作成	住宅建築の 2 階平面図の模写 1 階平面図との関連を考えながら、2 階平面図の下書きを行う。	
		8週	建築図面の模写・作成	住宅建築の 2 階平面図の模写 2 階平面図を、適切な線種で仕上げる。	
	2ndQ	9週	建築図面の模写・作成	住宅建築の立・断面図の模写 平面図との関連を考えながら、立・断面図の下書きを行う。	
		10週	建築図面の模写・作成	住宅建築の立・断面図の模写 立・断面図を、適切な線種で仕上げる。	
		11週	建築の立体図面の作成	アイソメ図の作成手法について学習する。	

		12週	建築の立体図面の作成	アイソメ図の作成手法を用い、住宅の立体画像を作成する。まず、壁面と屋根について下書きする。
		13週	建築の立体図面の作成	アイソメ図の壁面に開口部の下書きを行い、建築本体の図を適切な線種で仕上げる。
		14週	建築の立体図面の作成	外構部の下書き（植栽・舗装・自動車などを含み、立・断面図の下書きを行う。
		15週	建築の立体図面の作成	外構部を適切な線種で仕上げ、また必要事項を記入し、図面を仕上げる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	独立住宅の設計	課題説明を受け、設計目標を設定する。（設計概念の検討）
		2週	独立住宅の設計	設計目標に応じた必要空間を設定する。
		3週	独立住宅の設計	配置計画、動線計画、ゾーニング計画を行う。
		4週	独立住宅の設計	住宅平面のエスキスを行う。
		5週	独立住宅の設計	住宅立・断面のエスキスを行う。
		6週	独立住宅の設計	住宅の平立断面のエスキスを再検討する。
		7週	独立住宅の設計	住宅の平立断面のエスキスを再検討し、エスキスを完成させる。
		8週	独立住宅の製図	平立断面の寸法を明確に決定し、平面図を作成する。
	4thQ	9週	独立住宅の製図	立面図を作成する。
		10週	独立住宅の製図	断面図を作成する。
		11週	独立住宅の製図	外構部を含めて平立断面図を完成させ、設計概念を含め、設計図書を作成する。
		12週	独立住宅の製図	平立断面図を元に、スタディ模型を作成する。
		13週	独立住宅の製図	外観図を作成する。
		14週	独立住宅の製図	内観図を作成する。
		15週	独立住宅の製図	外観図・内観図に説明を加え、プレゼンテーション用図面として完成する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30	
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	30	30	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	構造力学
科目基礎情報						
科目番号	0044		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「建築構造設計」、文部科学省検定済教科書、実教出版(株)、平成25年3月検定済					
担当教員	加藤 巨邦					
到達目標						
1) 力の基本を理解し、構造物に外力が働いた場合の反力を求めることができる。 2) 集中荷重が静定梁及び静定ラーメンに作用した場合における各部材の応力 (N, Q, M) を求めることができるとともに、それらの応力を正しく図示することができる。 3) 分布荷重が静定梁及び静定ラーメンに作用した場合における各部材の応力 (N, Q, M) を求めることができるとともに、それらの応力を正しく図示することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	力の基本と支点・節点の応力の状態を理解し、力の釣合条件を用いて静定構造物の反力を正しく求めることができる。		力の基本は理解した上で、部材数が少ない静定構造物に対しては反力を求めることができる。		力の基本は理解できているが、静定構造物の反力は正しく求めることができない。	
評価項目2	集中荷重が作用する静定構造物に対して、N, Q, Mの応力を求めることができ、各応力を正しく図示することができる。		部材数が少ない静定構造物においては、集中荷重時のN, Q, M図は、正しく図示することができる。		集中荷重が作用する静定構造物に対して、N, Q, M図を正しく図示することができない。	
評価項目3	分布荷重が作用する静定構造物に対して、N, Q, Mの応力を求めることができ、各応力を正しく図示することができる。		部材数が少ない静定構造物においては、分布荷重時のN, Q, M図は、正しく図示することができる。		分布荷重が作用する静定構造物に対して、N, Q, M図を正しく図示することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2						
教育方法等						
概要	建築物にはさまざまな力が外から作用するため、それらの力に耐えることができるように建築構造物を設計しなければならない。そこで、本授業では、建築構造物に働く力の基本的な知識を習得し、静定構造物の部材に生じる力の求め方と表し方を習得することを目的とする。					
授業の進め方・方法	1) 反力や部材に生じる力を求める際には、力の釣り合い状態を、力の向きを正確に捉えながら自ら図中に記入して解法に努めること。 2) 電卓を持参すること。 3) 事前学習により、当該授業時間で進行する部分を予習しておくこと。 4) 自己学習として、参考書等に記載されている例題を、自ら解いて復習すること。 5) 実際に建っている建築構造物を、モデル化された架構と対比させながら観察することにより、本科目で学修する内容について理解を深めること。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業計画の説明、建築物に働く力	建築物に働くさまざまな力、力学的に見た建築物について理解する。		
		2週	力の基本－1	力の表し方、力のモーメントを理解する。		
		3週	力の基本－2	力の合成と分解を理解する。		
		4週	力の基本－3	力の釣合いを理解する。		
		5週	構造物と荷重および外力－1	支点と節点、荷重および外力を理解する。		
		6週	構造物と荷重および外力－2	支点と節点、荷重および外力を理解する。		
		7週	反力－1	反力、反力の求め方を理解する。		
		8週	反力－2	反力、反力の求め方を理解する。		
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	前期中間試験における、試験答案の返却及び解説			
		11週	安定・静定	構造物の安定・不安定、構造物の静定・不静定を理解する。		
		12週	構造物に生じる力－1	構造物に生じる力の種類を理解する。		
		13週	構造物に生じる力－2	構造物に生じる力の種類を理解する。		
		14週	構造物に生じる力－3	部材に生じる力の求め方と表し方を理解する。		
		15週	構造物に生じる力－4	部材に生じる力の求め方と表し方を理解する。		
		16週	前期末試験における、試験答案の返却及び解説			
後期	3rdQ	1週	静定梁－1	単純梁に集中荷重・等分布荷重・モーメントが作用する場合を理解する。		
		2週	静定梁－2	単純梁に集中荷重・等分布荷重・モーメントが作用する場合を理解する。		
		3週	静定梁－3	単純梁に集中荷重・等分布荷重・モーメントが作用する場合を理解する。		
		4週	静定梁－4	片持梁に集中荷重・等分布荷重・モーメントが作用する場合を理解する。		

		5週	静定梁－ 5	片持梁に集中荷重・等分布荷重・モーメントが作用する場合を理解する。
		6週	静定ラーメン－ 1	片持梁系ラーメンの解法を理解する。
		7週	静定ラーメン－ 2	片持梁系ラーメンの解法を理解する。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験における、試験答案の返却及び解説	
		10週	静定ラーメン－ 3	単純梁系ラーメンの解法を理解する。
		11週	静定ラーメン－ 4	単純梁系ラーメンの解法を理解する。
		12週	静定ラーメン－ 5	単純梁系ラーメンの解法を理解する。
		13週	静定ラーメン－ 6	3 ピン式のラーメンの解法を理解する。
		14週	静定ラーメン－ 7	3 ピン式のラーメンの解法を理解する。
		15週	静定ラーメン－ 8	3 ピン式のラーメンの解法を理解する。
		16週	学年末試験における、試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	コンピュータ援用学	
科目基礎情報							
科目番号	0045		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	特になし。授業にあたってプリントを配布する／VBAヘルプ						
担当教員	中村 裕文						
到達目標							
1) 基本的なプログラム作成能力の習得 2) 論理的に手続きを記述してプログラムを作成する能力の習得 3) 応用的なプログラムの作成能力の習得							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		設問の意味を理解し、適切な解答表示、出力機能を有するプログラムを作成出来る。		設問の意味を理解し、計算を実行するプログラムを作成することが出来る。		プログラムを作成し、実行することができない。	
評価項目2		繰り返し機能と判別機能、配列変数などを組み合わせた複雑なプログラムを個人で組むことができる。		繰り返し機能と条件分岐等のように二つ以上のプログラム技術を組み合わせてたプログラムを個人で作成することができる。		繰り返し機能や条件分岐を用いた判別機能をもつプログラムを人の助けをうけながら作成することができない。	
評価項目3		連立1次方程式の掃き出し方によるプログラム、高次方程式の計算プログラムを作成することができる。		参考書などをもとに連立一次方程式の掃き出し方プログラム、高次方程式のプログラムを作成することが出来る。		参考書などをもとにしても連立一次方程式の掃き出し方プログラム、高次方程式のプログラムを作成することが出来ない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1 学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2							
教育方法等							
概要		プログラミング技術を習得する。 プログラム作成演習を通じて論理的思考能力を涵養する。					
授業の進め方・方法		電算機センター第3演習室で講義およびプログラミング実習を行う。					
注意点		基礎数学I,II、微分積分学I,II、代数学、数学特論を復習しておく。 Mac OSの基本的な操作方法とWord、Excelの使用方法に習熟しておくこと。 PCやプリンターの呼称、使用方法を理解しておくこと。					
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	コンピュータプログラム概論			建築とコンピュータプログラムの関係について理解する。	
		2週	画面表示と数値計算			基本的なVBAの計算と結果の表示について理解する。	
		3週	変数について			変数について理解する	
		4週	変数について			変数について理解する	
		5週	関数の利用			VBAの組み込み関数の利用方法を理解する。	
		6週	関数の利用			VBAの組み込み関数の利用方法を理解する。	
		7週	中間試験			これまでの学習内容を確認する。	
		8週	入力の関数			入力の関数を理解する	
	2ndQ	9週	入力の関数			入力の関数を理解する	
		10週	条件分岐			条件分岐について理解する	
		11週	条件分岐			条件分岐について理解する	
		12週	For Next			繰り返しの命令について理解する	
		13週	For Next			繰り返しの命令について理解する	
		14週	While Wend			条件付繰り返しの命令について理解する	
		15週	前期期末試験			前期に学習した成果を確認する。	
		16週	前期期末試験の解説			前期期末試験の内容を復習し理解する。	
後期	3rdQ	1週	配列変数			配列変数を理解する。	
		2週	EXCELLの表の利用			EXCELLの表をVBAから参照する方法を理解する。	
		3週	EXCELLの表の利用			EXCELLの表をVBAから参照する方法を理解する。	
		4週	数値文字変換			数値と文字（数字）の関係を理解し、相互に変換するプログラムが組めるようになる	
		5週	数値文字変換			数値と文字（数字）の関係を理解し、相互に変換するプログラムが組めるようになる	
		6週	関数プログラム			関数プログラムを理解する	
		7週	中間試験			後期6週までの学習の成果を確認する。	
		8週	関数プログラム			関数プログラムを理解する	
	4thQ	9週	文字関数			文字関数の利用方法を理解する。	
		10週	文字関数			文字関数の利用方法を理解する。	
		11週	ガウス-ジョルダン法による連立一次方程式の解法			ガウス-ジョルダン法による連立一次方程式を解くプログラムを作成できるようになる	

		12週	定積分の解法 台形法を用いた定積分の計算	定積分を計算するプログラムを作成できるようになる
		13週	高次代数方程式の解法	高次代数方程式の解法について理解する
		14週	高次代数方程式の解法	高次代数方程式の解法について理解する
		15週	学年末試験	1年間の学習の成果を確認する
		16週	試験解説ポートフォリオの記入	試験の解説, ポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	20	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築構造Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0046		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「建築構造」、文部科学省検定済教科書、実教出版(株)、平成23年11月検定済					
担当教員	加藤 巨邦					
到達目標						
1) 鉄筋コンクリート構造（ＲＣ構造）の特徴と形式、基礎の形式、躯体の構成、配筋、仕上げ、各種構造について、適切な表現で説明することができる。 2) 鉄筋コンクリート造（ラーメン構造）の構造図に関して、伏図、軸組図、部材リスト、断面詳細図を正確にトレースして図面内容を正しく読むことができる。 3) 鋼構造の特徴と形式、鋼材の性質、鋼材の接合、基礎の種類、骨組、耐火被覆、仕上げ、各種構造について、適切な表現で説明することができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ＲＣ構造において、構造の特徴と形式、躯体の構成、配筋等、全てに関して適切な表現で説明することができる。	ＲＣ構造において、構造の特徴と形式、躯体の構成、配筋等、全てに関して説明することはできる。		ＲＣ構造において、構造の特徴と形式、躯体の構成、配筋等、部分的には説明することができる。	
評価項目2		ＲＣ造（ラーメン構造）の構造図に関して、全ての図面を正確にトレースし、図面内容を正しく読むことができる。	ＲＣ造（ラーメン構造）の構造図に関して、トレースは行い、図面内容も一部を除いて読むことはできる。		ＲＣ造（ラーメン構造）の構造図のトレースは行うことができるが、図面内容が一部しか読むことができない。	
評価項目3		鋼構造において、構造の特徴と形式、鋼材の性質、鋼材の接合等、全てに関して適切な表現で説明することができる。	鋼構造において、構造の特徴と形式、鋼材の性質、鋼材の接合等、全てに関して説明することはできる。		鋼構造において、構造の特徴と形式、鋼材の性質、鋼材の接合等、部分的には説明することができる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2						
教育方法等						
概要	我が国では主要な構造である鉄筋コンクリート構造と鋼構造について、構造の特徴、使用材料、基礎、躯体の構成や骨組、仕上げについて学習する。この学習は、建築物の構造設計を行うための基本事項を学習することである。また、鉄筋コンクリート造建物の構造図のトレースを行うことにより、各種部材の図面表示の方法を学習する。					
授業の進め方・方法	1) 鉄筋コンクリート構造の学習においては、構造図面の作成（トレース）を行うので製図道具を持参すること。 2) 教科書及び配付資料に掲載されている解説図や概念図をよく見て理解を深めること。 3) 事前学習により、当該授業時間で進行する部分を予習しておくこと。 4) 自己学習として、平日頃から実際の建物を観察することを心がけて授業で学習した内容について理解を深めること。 5) 1年次に使用した「コンパクト建築設計資料集成」に掲載されている建物の写真や図面等を見て復習を行うこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明、ＲＣ構造の特徴と構造形式		ＲＣ構造の特徴（長所と短所）と構造形式について理解する。	
		2週	ＲＣ構造の鉄筋とコンクリート		ＲＣ構造に用いられている鉄筋とコンクリートについて理解する。	
		3週	ＲＣ構造の基礎		ＲＣ構造の基礎の形式、設計上の注意点について理解する。	
		4週	ＲＣ構造の躯体－１		ＲＣ構造における躯体の構成、配筋の基本について理解する。	
		5週	ＲＣ構造の躯体－２		ＲＣ構造における、基礎・梁・柱の配筋について理解する。	
		6週	ＲＣ構造の躯体－３		ＲＣ構造における、床スラブ・壁の配筋について理解する。	
		7週	ＲＣ構造の仕上げ－１		ＲＣ構造における、仕上材の選択、外部仕上げ、内部仕上げについて理解する。	
		8週	ＲＣ構造の仕上げ－２		ＲＣ構造における、開口部、階段の仕上げについて理解する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	前期中間試験における、試験答案の返却及び解説			
		11週	ＲＣの壁式構造－１		壁式ＲＣ構造について、構造の特徴・躯体の構成・耐力壁について理解する。	
		12週	ＲＣの壁式構造－２		壁式プレキャストＲＣ構造について、構造の特徴・躯体の構成・耐力壁について理解する。	
		13週	ＲＣの壁式構造－３		補強コンクリートブロック構造について、構造の特徴・躯体の構成・耐力壁について理解する。	
		14週	ＲＣの壁式構造－４		補強コンクリートブロック構造の塀について、構造の特徴・躯体の構成・耐力壁について理解する。	
		15週	プレストレストコンクリート構造		プレストレストコンクリート構造について、構造の特徴とコンクリートにプレストレスを与える２つの方式について理解する。	

		16週	前期末試験における、試験答案の返却及び解説	
後期	3rdQ	1週	鋼構造の特徴と構造形式	鋼構造の特徴（長所と短所）と構造形式について理解する。
		2週	鋼と鋼材－ 1	鋼の物理的性質や機械的性質について理解する。
		3週	鋼と鋼材－ 2	構造用鋼材について理解する。
		4週	鋼材の接合－ 1	接合方法、高力ボルト接合について理解する。
		5週	鋼材の接合－ 2	ボルト接合、溶接について理解する。
		6週	鋼構造の基礎	基礎の種類、基礎の構成について理解する。
		7週	鋼構造の骨組－ 1	骨組の構成、耐震計画について理解する。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験における、試験答案の返却及び解説	
		10週	鋼構造の骨組－ 2	骨組の部材、梁、柱について理解する。
		11週	鋼構造の骨組－ 3	柱脚、床について理解する。
		12週	鋼構造の骨組－ 4	階段、耐火被覆について理解する。
		13週	鋼構造の仕上げ	外部仕上げ、開口部について理解する。
		14週	軽量鋼構造と鋼管構造	軽量鋼構造と鋼管構造の特徴について理解する。
		15週	鉄骨鉄筋コンクリート構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造の特徴について理解する。
		16週	学年末試験における、答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	20	60
専門的能力	30	0	0	0	0	10	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国語
科目基礎情報					
科目番号	0031		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	精選現代文B（三省堂）、精選古典B（大修館書店）、音と形で覚える漢字の演習・改訂版（明治書院）、新版三訂新訂総合国語便覧（第一学習社）				
担当教員	松崎 賜				
到達目標					
1、論理的文章の読解を通して、要旨や筆者の主張を把握し、それについて自分なりに考察することができる。また、社会生活や仕事で必要となる文章表現や敬語について、その基本的な事柄を理解している。 2、文学的作品の読解を通して、想像力や感性を磨き、心情を豊かにすることができる。 3、古典に親しむための教養を身に付け、伝統的な言語文化に興味・関心を持つことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	論理の展開を十分に理解し、要旨を把握して、それに対する自分の意見を持つことができる。社会生活や仕事に必要な言語表現にかなり習熟している。		読解に必要な知識・語彙力を備え、文意を理解することができる。社会生活や仕事に必要な言語表現の基本を理解している。		読解に必要な知識・語彙力がある程度備え、文意を少しは理解することができる。社会生活や仕事で必要な言語表を少しは理解している。
評価項目2	優れた文学表現に気がつくとともに、表現の奥に潜む筆者の意図を考慮することができる。		場面や情景を想像し、人物の行動の意味や心情を理解することができる。		場面や情景を少しは想像でき、人物の行動の意味や心情について考えようすることができる。
評価項目3	古典の面白さと意義を理解し、伝統的な言語文化に興味・関心を持つことができる。		古典を学ぶための基本事項を理解し、古典に親しむ素地を作ることができる。		古典を学ぶための基本事項を少しは理解し、古典に親しむ努力をすることができる。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-1 学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3					
教育方法等					
概要	現代文については、論理的文章を読解することで思考力をも養い、日本語表現の歴史・多様性という観点から文芸作品を鑑賞・分析し日本語への認識を新たにする。その中で語彙力をも高めていく。また、実用文や敬語表現への理解を深める。古典については、名文の魅力を味わうとともに、古典に内包されている叢智に触れ、伝統文化の力を知る。				
授業の進め方・方法	1、講義形式が中心で、重要項目は板書する。また、理解度を高めるための作文・質疑への応答などを課すこともある。 2、教養を深めるための資料として『総合国語便覧』を常時、使用する。 3、授業で出た話題のうち興味・関心のある項目についての情報に必ずあたるよう指示することがある。				
注意点	1、現代文については、当該単元の文章を事前に一読しておくこと。基本語彙についても辞書等で調べておくことが望ましい。 2、古典については、よく復習に努めること。 3、いずれも、当該単元に関連のある事項への知識をできるだけ収集しておくこと。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 評論「『である』ことと『する』こと」より	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 本文を読解しながら、ものの考え方をみつめ直す。	
		2週	評論「『である』ことと『する』こと」より	本文を読解しながら、ものの考え方をみつめ直す。	
		3週	評論「『である』ことと『する』こと」より	本文を読解しながら、ものの考え方をみつめ直す。	
		4週	評論「『である』ことと『する』こと」より 短歌と俳句	本文を読解しながら、ものの考え方をみつめ直す。 古典時代の和歌の特質を知る。	
		5週	短歌と俳句	古典時代の和歌の特質を知る。	
		6週	短歌と俳句	古典時代の和歌の特質を知る。 近現代の短歌・俳句の特質を知る。	
		7週	短歌・俳句をつくる 社会生活や仕事に必要な言語表現	短歌・俳句を創作して相互批評する。 事実と意見の相違、実用文を書くポイントを知る。	
		8週	社会生活や仕事に必要な言語表現	事実と意見の相違、実用文を書くポイントを知る。 挨拶文・PR文の書き方を知る。	

後期	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		10週	社会生活や仕事に必要な言語表現	敬語の用法（練習問題と、実際の場面を想定した会話）を知る。
		11週	小説「舞姫」より	近代文学について概略を知る。 本文を読解する。
		12週	小説「舞姫」より	本文を読解する。
		13週	小説「舞姫」より	本文を読解する。
		14週	小説「舞姫」より	日本近代の問題点をどのように文学表現したかについてまとめる。
		15週	小説「舞姫」より	日本近代の問題点をどのように文学表現したかについてまとめる。
		16週	前期末試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
	3rdQ	1週	近・現代の詩について	詩の表現法・詩の表現の変遷について知る。
		2週	「小諸なる古城のほとり」	古典と近代との関わりを知る。
		3週	「樹下の二人」「永訣の朝」より	近代における理想と現実との葛藤、その表現について知る。
		4週	「死んだ男」	戦争体験の意味、その表現について知る。
		5週	「二十億光年の孤独」「パンの話」	戦後の詩表現について知る。
		6週	『老子』『莊子』より	中国の道家思想の特質、その表現について知る。
		7週	「飲酒」、「桃花源記」より	道家思想・表現の展開の一例を知る。
		8週	「春夜宴桃李園序」より	道家思想・表現の展開の一例を知る。
	4thQ	9週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		10週	『源氏物語』より	平安文学と日本文化について概略を知る。
		11週	『源氏物語』より	本文を読解し、表現・内容の特質を知る。
		12週	『源氏物語』より	本文を読解し、表現・内容の特質を知る。
		13週	「日本文化の雑種性」より	本文を読解し、日本社会・日本文化について再考する。
		14週	「判断停止の快感」	本文を読解し、日本社会・日本文化について再考する。
		15週	「判断停止の快感」	国際化の中の日本について考察する。
		16週	学年末試験の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験 100	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	総合社会Ⅲ
科目基礎情報						
科目番号	0032		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	三浦重三他著 『政治・経済』 第一学習社					
担当教員	田村 理恵					
到達目標						
1) 基本的な政治・経済用語を理解し、使用できるようになる。 2) 現代の政治についての知識を持ち、判断力を養う。 3) 現代の経済のしくみについての知識を持ち、判断力を養う。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	政治と経済は相互に関係しており、その用語も不可分であることが分かっており、その相互の関係を理解している。		グローバル化している現代においては経済も国内の対応だけでは問題を解決できず、企業においても国際的な視点が欠かせないことを理解している。		基本的な政治及び経済の用語が分かる。	
評価項目2	近年では様々な問題が一国では解決することが難しく、国際政治が重要になっていること、それにともなう国際協調の重要性を理解している。		日本の現在の民主政治を作った経緯を理解し、他国の政治の仕組みが分かっている。		基本的な現代政治のしくみが分かる。	
評価項目3	グローバル化している現代においては経済も国内の対応だけでは問題を解決できず、企業においても国際的な視点が欠かせないことを理解している。		現在日本が抱えている経済の問題点が分かる。		基本的な経済システムが分かる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-2						
教育方法等						
概要	広い視野に立って民主主義の本質に関する理解を深め、現代の政治、経済、国際関係について客観的に理解する。さらに、それらにそれらに関する課題について主体的に考察することによって、公正な判断力を養い良識ある市民として必要な能力と態度を育てる。					
授業の進め方・方法	基本的に講義方式で行う。					
注意点	1) 自分でノートをしっかり取ること。 2) 提出期限は守ること。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明		授業の目標を理解する。	
		2週	政治と法の機能		民主政治の本質を理解し、自分たちの生活との関わりを確認する。	
		3週	人権保障と法の支配（1）		基本的人権が確立するまでの歴史と法の支配の考え方を理解する。	
		4週	人権保障と法の支配（2）		基本的人権が確立するまでの歴史と法の支配の考え方を理解する。	
		5週	議会制民主主義と世界の政治体制		現代日本の政治体制と世界の典型的な政治体制を比較し、理解する。	
		6週	日本国憲法の基本原理		日本国憲法の成立過程を理解し、憲法の持つ意味を考察する。	
		7週	平和主義と自衛隊		日本の安全保障について考察する。	
		8週	前期中間試験		これまでの理解を確認する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験の解答 基本的人権の保障と新しい人権（1）		これまでの理解で不十分だった箇所を確認する。	
		10週	基本的人権の保障と新しい人権（2）		人権に関わる凡例を活用しながら、権利と義務について理解する。	
		11週	政党政治と選挙制度		選挙制度を理解し、政治へ参加する意識を高める。	
		12週	国際関係と国際法		国際社会がどのように形成されてきているのかを理解する。	
		13週	国際連合の組織と役割		国際連合の役割を理解する。	
		14週	国際紛争と難民問題		現在国際社会が抱えている問題の原因を理解する。	
		15週	前期末試験		これまでの理解を確認する。	
		16週	前期末試験の解答		これまでの理解で不十分だった箇所を確認する。	
後期	3rdQ	1週	経済社会の発展		資本主義と社会主義をその成立過程から理解する。	
		2週	経済主体と経済活動		経済の私たちの生活への関係を理解する。	
		3週	市場経済の機能と限界		経済の指標を理解し、景気変動の要因や結果を考察する。	
		4週	経済成長と景気変動		経済の指標を理解し、景気変動の要因や結果を考察する。	

		5週	財政のしくみとはたらき	基本的な経済のしくみを理解する。
		6週	金融のしくみと働き	基本的な金融のしくみを理解する。
		7週	物価の動き	物価の動きの要因と物価安定のための施策を知る。
		8週	後期中間試験	これまでの理解を確認する。
	4thQ	9週	後期中間試験の解答 消費者問題	消費者の権利を理解し、現在の問題点を知る。
		10週	高度情報社会の進展と課題 労働問題	情報化社会の利点と欠点を考える。労働者としての権利を理解し、今後社会人となった時に役立てる。
		11週	社会保障制度の充実	日本の社会保障制度とその課題を理解する。
		12週	国際経済のしくみ	国際貿易と国際収支および為替のしくみを理解する。
		13週	国際協調と国際経済機関の役割	国際的な経済摩擦の解消のためのしくみを理解する。
		14週	国際経済の諸問題と日本の役割	グローバル化の中での国際的な問題と日本が果たすべき役割を理解する。
		15週	学年末試験	これまでの理解を確認する。
		16週	学年末試験の解答	これまでの理解で不十分だった箇所を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	5	0	5	100
基礎的能力	55	0	0	5	0	5	65
専門的能力	35	0	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	微分積分学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0033	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	建築学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	4		
教科書/教材	新微分積分Ⅱ（大日本図書）/新微分積分Ⅱ問題集（大日本図書）				
担当教員	本田 淳史				
到達目標					
1. 数列の極限、級数、関数のべき級数展開を求められる。 2. 偏微分の基本的な計算ができ2変数関数の接平面の方程式と極値が求められる。 3. 重積分の基本的な計算ができて体積計算に応用できる。 4. 極座標変換、変数変換を利用し重積分の値を求められる。広義積分の値を求めることができる。 5. 1階微分方程式の一般解、特殊解を求められる。 6. 2階微分方程式の一般解、特殊解を求められる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	様々な数列の極限と級数の応用的な計算ができ、いろいろな関数のべき級数展開を常時行うことができる。	様々な数列の極限と級数の計算ができ、いろいろな関数のべき級数展開を行うことができる。	特定の数列の極限と級数の計算ができ、簡単な関数のべき級数展開を行うことができる。		
評価項目2	偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の微分の応用的な計算ができ、2変数関数の接平面の方程式と極値を求められる。	偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の微分の計算ができ、2変数関数の接平面の方程式と極値を求められる。	一部の偏微分、合成関数の偏微分、陰関数の微分の計算ができ、特定の2変数関数の接平面の方程式と極値を求められる。		
評価項目3	累次積分の応用的な計算ができる。重積分を応用して体積計算などが常時できる。	累次積分が計算できる。重積分を応用して体積計算などができる。	一部の累次積分が計算できる。重積分を応用して特定の体積計算などができる。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1					
教育方法等					
概要	2年生で学習した微分積分学Ⅰの内容を基に、数列の極限、級数、関数のべき級数展開、2変数関数の偏微分と重積分についての基本的な考え方、計算方法およびその応用を学び、事象を数学的に処理する能力を養いながら専門科目にも活用できるようにする。				
授業の進め方・方法	1. 2年生で習った微分積分学Ⅰの内容をよく復習しておくこと。 2. 問題集は各自授業に平行して行うこと。				
注意点	実力試験および学習到達度試験の結果も学年末最終成績に加味する。 長期休暇課題は必ず提出すること。 定期試験・実力試験は全学科共通試験で実施する。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1章 関数の展開 1節 関数の展開 1・1 多項式による近似(1)	関数の1次および2次近似式について理解する。	
		2週	1・2 多項式による近似(2)	関数のn次近似式について理解する。また、第2次微分係数による極値をとるための十分条件について理解する。	
		3週	1・3 数列の極限	数列の極限を調べる基本的な極限計算ができるようにする。	
		4週	1・4 級数	級数の収束・発散を調べる基本的な手法を理解する。	
		5週	1・5 べき級数とマクローリン展開	三角関数、指数関数等のマクローリン展開を求められる。	
		6週	1・6 オイラーの公式	オイラーの公式が表す三角関数と指数関数の関連性について理解する。	
		7週	2章 偏微分 1節 偏微分法 1・1 2変数関数	2変数関数のグラフや極限値を求める基本的方法を理解する。	
		8週	1・2 偏導関数	2変数関数の偏導関数の定義を理解する。	
	2ndQ	9週	1・3 全微分	全微分の考え方と接平面の方程式について理解する。	
		10週	1・4 合成関数の微分法	合成関数の偏導関数を求められる。	
		11週	2節 偏微分の応用 2・1 高次偏導関数	2変数の初等関数の高次偏導関数を求められる。	
		12週	2・2 極大・極小	2変数関数の極値を求められる。	
		13週	2・3 陰関数の微分法	陰関数の微分法の公式を使えるようにする。	
		14週	2・4 条件つき極値問題	条件つき極値問題が解けるようになる。	
		15週	3章 重積分 1節 2重積分 1・1 2重積分の定義	2重積分の定義を立体図形の体積と関連づけて理解する。	
		16週	1・2 2重積分の計算(1)	基本的な2重積分の計算ができる。	
後期	3rdQ	1週	1・2 2重積分の計算(2)	基本的な累次積分の積分順序を変更できる。	
		2週	1・2 2重積分の計算(3)	2重積分を用いて立体図形の体積を求められる。	
		3週	2節 変数の変換と重積分 2・1 極座標による2重積分	極座標を用いて2重積分の計算ができる。	

		4週	2・2 変数変換	変数変換の公式を理解し、2重積分の計算に応用できる。
		5週	2・3 広義積分	広義積分の定義を理解し、極限計算を用いてその値を求められる。
		6週	4章 微分方程式 1節 1階微分方程式 1・1 微分方程式の意味	微分方程式を作れ、解の意味を理解できる。
		7週	1・2 微分方程式の解	一般解、特殊解、特異解の違いを理解できる。
		8週	1・3 変数分離形	変数分離形の微分方程式の解法を理解できる。
	4thQ	9週	1・4 同次形	同次形の微分方程式の解法を理解できる。
		10週	1・5 1階線形微分方程式	1階線形微分方程式を解くことができる。
		11週	2節 2階微分方程式 2・1 線形微分方程式	2階微分方程式の解について理解できる。
		12週	2・2 線形微分方程式	2階線形微分方程式の解について理解できる。
		13週	2・3 定数係数斉次線形微分方程式	定数係数斉次線形微分方程式を解くことが出来る。
		14週	2・4 定数係数非斉次線形微分方程式	定数係数非斉次線形微分方程式を解くことが出来る。
		15週	2・5 いろいろな線形微分方程式	連立微分方程式、オイラー型の微分方程式を解くことが出来る。
		16週	2・6 線形でない2階微分方程式	線形でない2階微分方程式を解くことが出来る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
知識の基本的な理解	60	0	0	0	0	10	70
思考・推論・創造への適応力	20	0	0	0	0	5	25
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0	0	5	5

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	応用物理	
科目基礎情報							
科目番号	0035		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	物理学基礎 原康夫 (学術出版社) ,物理学 I 末廣一彦 (丸善出版) 、理工学系の力学 高橋正雄 (共立出版)						
担当教員	森茂 龍一						
到達目標							
1) 多くの物理概念や物理量を含んだ問題を解くことができる。 2) 物理の法則の数式を説明することができ、問題を解くことができる。 3) 微分積分を用いた物理の法則を導き、かつ論理的に説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		多くの物理概念・物理量を含んだ問題を解くことができる。		定義から物理概念が理解でき、物理量を計算できる。計算で求めた答えは単位付きで表示することができる。		物理量の定義を一部は説明することができる。定義式を用いた特定の計算はできる。	
評価項目2		物理法則の数式を説明することができ、問題を解くことができる		重要な物理法則を用いて、問題を解くことができる。		重要な物理法則の一部の説明はできる	
評価項目3		微分積分を用いた物理の法則を導き、かつ論理的に説明できる。		微分積分を用いた物理の法則を導くことができる。		微分積分を用いた物理の法則を一部導くことができる。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-1							
教育方法等							
概要		自然科学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理に対する理解を深め、論理的に考える力と知識を応用する力を養成する。1、2年の物理における物体の運動についての基礎知識を踏まえて、ベクトル演算、微分、積分などの数学を用いて現象をより深く理解する方法を身に付ける。					
授業の進め方・方法		演示実験などを通して比較的単純な現象にふれながら、その物理現象を理解する上で必要となる基本的な概念や原理を説明する。演習や視聴覚機材を用いビジュアルな観点からの物理現象の理解を深める。 1)三角関数、2次関数、ベクトル及び微分積分については理解しておくこと。 2) 一部アクティブラーニングの授業を実施するため予習が必要となる。					
注意点							
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 物理学について (科学史)			授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	
		2週	物理学について (科学史)			物理学の歴史と概論	
		3週	物理学について (科学史) 1－1 位置、速度、加速度			運動の状態を位置、速度、加速度を用いて表現できそれらの間の関係がわかる。	
		4週	1－1 位置、速度、加速度				
		5週	1－2 等速円運動				
		6週	2－1 ニュートンの運動法則			運動の法則を理解できる。	
		7週	2－1 ニュートンの運動法則 2－2 重力、万有引力、ばねの復元力			基本的な力を数式で表現できる。	
		8週	2－2 重力、万有引力、ばねの復元力				
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説			試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		10週	3.運動方程式を解く。			放物線運動や雨滴の落下について運動方程式を解くことができる	
		11週	放物線運動、雨滴の落下等 4.見かけの力 (コリオリの力)			非慣性系での見かけの力やコリオリの力を理解する。	
		12週	4.見かけの力 (コリオリの力)				
		13週	5.振動 (単振動、単振り子、減衰運動)			単振動の運動方程式や単振り子、減衰運動を理解する。	
		14週	5.振動 (単振動、単振り子、減衰運動)				
		15週	6－1 仕事と運動エネルギー			仕事とエネルギーの定義を理解し、計算ができる。両者の関係を理解し、それらを用いて運動を求める。	
		16週	前期末試験 試験答案の返却及び解説				
後期	3rdQ	1週	6－2 保存力と位置エネルギー			保存力と位置エネルギーの関係を理解できる。	
		2週	重力、ばねの復元力、万有引力			力学的エネルギー保存則を理解し、問題を解く。	
		3週	重力、ばねの復元力、万有引力 6－3 力学的エネルギー保存則			位置エネルギーから力を求めることができる。	
		4週	6－4 位置エネルギーと力の関係 7.質点の角運動量と回転運動の法則			力のモーメント、角運動量から回転の運動方程式を作る。	
		5週	7.質点の角運動量と回転運動の法則				
		6週	7－1 力のモーメントと角運動量			角運動量保存則を理解できる。	

		7週	7－1 力のモーメントと角運動量 7－2 角運動量保存則とケプラーの法則	ケプラーの法則を理解できる。
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	
	4thQ	9週	8－1 重心の運動方程式	質点系の重心を理解し、運動方程式を作ることができる。
		10週	8－2 2体問題（重心と座標）	重心と相対座標について運動方程式を導ける。
		11週	8－3 質点系の運動量、質点系の角運動量	
		12週	9－1 剛体のつりあい	力のモーメントのつりあいの式を作り問題が解ける。
		13週	9－2 固定軸のまわりの回転運動	剛体の回転運動方程式、力のモーメントが理解できる
		14週	9－3 慣性モーメント、剛体の平面運動	平面上を運動する剛体の運動方程式を導ける。
		15週	9－3 慣性モーメント、剛体の平面運動	
		16週	学年末試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	小テスト	合計	
総合評価割合		90	10	100	
知識の基本的な理解		50	5	55	
思考・推論・創造		40	5	45	
汎用的技能		0	0	0	
態度・志向性		0	0	0	
総合的な学習経験		0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	保健体育
科目基礎情報					
科目番号	0036		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	アクティブスポーツ【総合版】（大修館書店）				
担当教員	永松 幸一,松元 博子				
到達目標					
1）多くの運動やスポーツを楽しめる技能を身に付ける。 2）運動やスポーツの楽しさを実感しつつ、自己の健康や他者への安全などに対して関心を持てるようにする。 3）自己の能力に応じた運動を行い、生涯にわたって運動やスポーツに親しめる能力と態度を身に付ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	複数の運動やスポーツに参加し、積極的に技能を高めるための活動を実践できる。		複数の運動やスポーツに参加することができる。		運動やスポーツに参加することはできる。
評価項目2	自己の健康や他者への安全などを理解して、運動やスポーツの特性に触れながら、積極的に楽しむことができる。		自己の健康や他者への安全などを理解しながら、運動やスポーツに取り組むことができる。		自己の健康や他者への安全などを知識として理解している。
評価項目3	自己の能力などに応じて種目を選択し、その運動やスポーツの特性を理解しながら、生涯にわたって継続できる能力や態度を高めようとしている。		自己の能力などに応じて種目を選択し、その運動やスポーツを継続的に実践できる。		決められた運動やスポーツに参加することはできる。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3 学習・教育目標・サブ目標との対応 4-3					
教育方法等					
概要	運動の欲求を十分に満たしながら、多くのスポーツを楽しめる技能を身に付ける。運動やスポーツの楽しさを実感しつつ、自己の健康や他者への安全などに対して関心を持てるようにする。自己の能力に応じた運動を行い、生涯にわたって運動やスポーツに親しめる能力と態度を身に付ける。				
授業の進め方・方法	体育実技では指示された服装や用具（体操服・体育館シューズなど）を準備して授業に臨むこと。日常的に自己の健康および安全に留意しておくこと。今までの運動やスポーツ経験をもとにして、授業で取り組む種目などを選択できるようにしておくこと。物質工学科および建築学科の女子学生はダンスも履修する。				
注意点					
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		
		2週	スポーツテスト 球技（選択種目制）	各種スポーツテストを行い、自己の体力を把握する。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	
		3週	スポーツテスト 球技（選択種目制）	各種スポーツテストを行い、自己の体力を把握する。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	
		4週	スポーツテスト 球技（選択種目制）	各種スポーツテストを行い、自己の体力を把握する。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	
		5週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	
		6週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	
		7週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	
		8週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	
	2ndQ	9週	球技（選択種目制） 水泳（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。	
		10週	球技（選択種目制） 水泳（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。	
		11週	球技（選択種目制） 水泳（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。	
		12週	球技（選択種目制） 水泳（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。	
		13週	球技（選択種目制） 水泳（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。 2種類の泳法で50m泳げるようになる。	
		14週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。	

後期		15週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		16週		
	3rdQ	1週	オリエンテーション	
		2週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		3週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		4週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		5週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		6週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		7週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		8週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
	4thQ	9週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		10週	陸上競技（持久走） 球技（選択種目制）	安全に配慮しながら、持久力向上を目指すことができる。 基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		11週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		12週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		13週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		14週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		15週	球技（選択種目制）	基礎的技術や技能を習得し、ゲームができるようになる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	技術および技能	合計
総合評価割合	20	0	0	10	0	30	40	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	0	20
専門的能力	10	0	0	0	0	0	40	50
分野横断的能力	10	0	0	10	0	10	0	30

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	0037		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	TOEIC Bridge:First Steps to Success TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎（南雲堂）、2016年度版英検準2級全問題集（旺文社）					
担当教員	福田 佳奈子					
到達目標						
1) 身近で、実用的な英語を聞いて理解したり、伝えたりすることができる。 2) TOEIC Bridgeの基本的な問題に対応できる。 3) 英検準2級レベルの問題に対応できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日常生活に必要な英語を理解し、また使用できる。		日常生活に必要な英語を概ね理解できる。		日常生活に必要な英語を一部理解できる。	
評価項目2	テキストの内容把握ができ、質問に対して英語、または日本語で答えることができる。		テキストの内容をほぼ理解できる。		テキストの内容を一部は理解できる。	
評価項目3	TOEIC Bridge IPテストで150点以上のスコアを取ることができる。		TOEIC Bridge IPテストで90点以上のスコアを取ることができる。		TOEIC Bridge IPテストで20点以上のスコアを取ることができる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3						
教育方法等						
概要	英語を「読む」・「聞く」能力を中心に、「話す」・「書く」を含めた総合的な英語力を高めていく。TOEIC Bridgeや英検準2級の問題を利用して基礎的・実用的な英語を学び、日常で使える、すぐに役立つ英語を身につける。身近な目標として、英語検定準2級・2級、TOEIC Bridge IPテスト150点以上を目指してほしい。					
授業の進め方・方法	1) 予習や課題に真剣に取り組むこと。 2) 復習には音読も取り入れること。 3) NetAcademy 2に積極的にアクセスし、練習問題に取り組むこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画・達成目標・成績の評価方法の説明、NetAcademy 2 Unit 01			
		2週	人物の背景と描写/代名詞/英検演習NetAcademy 2 Unit 02			
		3週	広告文/Yes・No疑問文/英検演習NetAcademy 2 Unit 03			
		4週	設問3つに答える/英検演習、NetAcademy 2 Unit 04			
		5週	動詞の変化形/英検演習、NetAcademy 2 Unit 05			
		6週	請求書・領収書/英検演習、NetAcademy 2 Unit 06			
		7週	レシートとチケット/英検演習、NetAcademy 2 Unit 07			
		8週	前期中間試験、試験答案の返却及び解説			
	2ndQ	9週	ビジネスシーン/英検演習NetAcademy 2 Unit 08			
		10週	疑問詞を使う疑問文/英検演習NetAcademy 2 Unit 09			
		11週	図表/英検演習NetAcademy 2 Unit 10			
		12週	列車の時刻表/英検演習NetAcademy 2 Unit 11			
		13週	物の名前と位置/英検演習			
		14週	前置詞の基本/英検演習NetAcademy 2 Unit 12			
		15週	前置詞の基本/英検演習			
		16週	前期末試験、試験答案の返却及び解説			
後期	3rdQ	1週	勧誘・依頼表現/英検演習NetAcademy 2 Unit 13			
		2週	お知らせ文/英検演習NetAcademy 2 Unit 14			
		3週	接続詞/英検演習			
		4週	場所を問う/英検演習NetAcademy 2 Unit 15			
		5週	商品の説明書/英検演習			
		6週	食品のパッケージ/英検演習NetAcademy 2 Unit 16			

		7週	TOEIC Bridge Half Test	
		8週	後期中間試験、試験答案の返却及び解説	
	4thQ	9週	長文の空所補充/英検演習NetAcademy 2 Unit 17	
		10週	表現を広げる関係詞/英検演習	
		11週	Eメールの形式/いろいろなカード/英検演習 NetAcademy 2 Unit 18	
		12週	ダブルパッセージ/英検演習	
		13週	比較・最上級/英検演習 NetAcademy 2 Unit 19	
		14週	ビジネスレターの基本/英検演習	
		15週	銀行からの手紙/英検演習NetAcademy 2 Unit 20	
		16週	学年末試験、試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	40	0	0	10	0	10	60
専門的能力	40	0	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英会話
科目基礎情報						
科目番号	0038		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	You Talk					
担当教員	バットランド ダンカン					
到達目標						
At the completion of this course students will have developed their ability to think and communicate in English. Speaking fluency will have improved as well as the confidence to communicate in English about difficult topics including technology, the environment, food and health. Student's working vocabulary will have improved as well as their knowledge of lexical rules.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 Speaking	Students can confidently and effectively communicate about a number of difficult topics using correct grammar and hiugh level vocabulary.		Students can communicate and express their opinion about a number of difficult subjects although some grammar and vocabulary errors will occur.		Students can communicate and have their opinion understood although serious grammatical or lexical errors may occur.	
評価項目2 Vocabulary knowledge	Students know and can correctly explain the meaning of difficult vocabulary as well as a word's different forms, synonyms, antonyms and collocations.		Students know and can correctly explain the meaning of many or most vocabulary items as well as most of the word's different forms, synonyms, antonyms and collocations.		Students know and can correctly explain the meaning of some vocabulary items as well as some of the different forms, antonyms, synonyms and collocations.	
評価項目3 Listening	Students can completely understand the main points and all details of an English conversation.		Students can understand the main point of an English Conversation but some details may be misunderstood.		Students may misunderstand the main point of an English conversation and serious misunderstanding may also occur with the details.	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3						
教育方法等						
概要	To develop English speaking fluency and improve student's vocabulary and knowledge of word forms (noun, verb, adverb, adjective forms) lexical rules including synonyms, antonyms and collocations.					
授業の進め方・方法	This is a STUDENT centred class, not a teacher centred class. Students will be responsible for their own learning and will be required to fully participate in every class and all activities. There will be minimum input from the teacher in order to encourage maximum output from the students. There will be homework which students are required to complete to use in the next lesson so failure to complete the homework will mean the student can not participate in the following lesson and so participation points will be subtracted. All students must bring their textbook, an English-Japanese dictionary, complete all homework. A positive attitude to actively learn and participate in the lesson and activities is necessary.					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	
		2週	Who are you?		Asking and answering questions about oneself. Vocabulary focus: Word forms (verb, noun, adverb, adjective).	
		3週	Who are you?		Asking and answering questions about oneself. Vocabulary focus: Word forms (verb, noun, adverb, adjective).	
		4週	You and other people.		Describing personalities and relationships. Vocabulary focus: Antonyms.	
		5週	You and other people.		Describing personalities and relationships. Vocabulary focus: Antonyms.	
		6週	Brands and Fashion.		Discussing fashion and appearance. Vocabulary focus: Synonyms.	
		7週	Brands and Fashion.		Discussing fashion and appearance. Vocabulary focus: Synonyms.	
		8週	Gadgets.		Discussing technology and personal devices. Vocabulary focus: Expanding active vocabulary.	
	2ndQ	9週	Gadgets.		Discussing technology and personal devices. Vocabulary focus: Expanding active vocabulary.	
		10週	Mass communication.		Discussing modern media and society, including social media. Vocabulary focus: expanding active vocabulary.	
		11週	Mass communication.		Discussing modern media and society, including social media. Vocabulary focus: expanding active vocabulary.	
		12週	Flicks and the tube.		Discussing movies and TV. Vocabulary focus: word forms.	
		13週	Flicks and the tube.		Discussing movies and TV. Vocabulary focus: word forms.	

後期		14週	Review.	Review of vocabulary and communicative expressions in units 1,2, 3,4, 5 and 6.
		15週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		16週		
	3rdQ	1週	Nibbles.	Discussing food. Vocabulary focus: Collocations.
		2週	Nibbles.	Discussing food. Vocabulary focus: Collocations.
		3週	Staying in Shape.	Discussing health, fitness and sports. Vocabulary focus: collocations.
		4週	Staying in Shape.	Discussing health, fitness and sports. Vocabulary focus: collocations.
		5週	Buying stuff	Discussing shopping. Vocabulary focus: antonyms.
		6週	Buying stuff	Discussing shopping. Vocabulary focus: antonyms.
		7週	Vehicles	Discussing transportation. Vocabulary focus: Collocations.
		8週	Vehicles	Discussing transportation. Vocabulary focus: Collocations.
	4thQ	9週	Travel.	Discussing travel experiences, plans and ambitions. Vocabulary focus:expanding active vocabulary
		10週	Travel.	Discussing travel experiences, plans and ambitions. Vocabulary focus: Vocabulary focus:expanding active vocabulary
		11週	The environment.	Discussing the environment problems. Vocabulary focus:collocations
		12週	The environment.	Discussing the environment problems. Vocabulary focus:collocations
		13週	Review.	Review of vocabulary and communicative expressions in units 7, 8, 9, 10, 11 and 12.
		14週	Review.	Review of vocabulary and communicative expressions in units 7, 8, 9, 10, 11 and 12.
		15週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	口頭発表	合計	
総合評価割合		70	30	100	
知識の基本的な理解		70	30	100	
思考・推論・創造への適応力		0	0	0	
汎用的技能		0	0	0	
態度・志向性（人間力）		0	0	0	
総合的な学習経験と創造的思考力		0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	日本語
科目基礎情報						
科目番号	0048		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編著『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解中級』スリーエーネットワーク、山崎信寿・富田豊・平林義彰・羽田野洋子著『科学技術日本語案内 新訂版』慶応義塾大学出版会					
担当教員	田中 利砂子					
到達目標						
1) 講義や口頭発表を正確に聞けるようになる。 2) 聞いたことをまとめたり、要約を書いたりすることができるようになる。 3) 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	話している人の言いたいことがわかる。		話のテーマがわかる。		何について話しているかがわかる。	
評価項目2	話の構成に沿ってメモがとれる。		わからないところを聞くためのメモを取りながら聞ける。		メモを取りながら聞ける。	
評価項目3	知らないことばがあっても類推し、辞書で確かめることができる。		知らないことばがあっても、自分の知識を活用しながら聞くことができる。		知らないことばがあっても気にせずに聞くことができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	高専での勉学に必要な日本語力、特に講義や口頭発表を聞く力とノートを取ったり要約を書いたりする力の養成を行う					
授業の進め方・方法	1) 授業には、積極的に参加すること。 2) 課題を確実にすること。 1) 「使用教材」の該当課を事前に読み聴きしておくこと。 2) 意味のわからない単語は、辞書等で事前に調べておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 第1課 富士山		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	
		2週	第1課 富士山		身近な話題についての1～3分の独話を用い、高専での勉学に必要な聞く力・書く力を養成するための練習を行う。	
		3週	第2課 信号の話			
		4週	第2課 信号の話			
		5週	第3課 隠れキリシタン			
		6週	第3課 隠れキリシタン			
		7週	第4課 水族館			
		8週	第4課 水族館			
	2ndQ	9週	第5課 ゴリラの食事			
		10週	第5課 ゴリラの食事			
		11週	第6課 東京の温泉			
		12週	第6課 東京の温泉			
		13週	第7課 失敗学			
		14週	第7課 失敗学			
		15週	第7課 失敗学			
		16週	試験答案の返却及び解説			
後期	3rdQ	1週	第8課 札幌のお祭り			
		2週	第8課 札幌のお祭り			
		3週	第9課 津軽三味線			
		4週	第9課 津軽三味線			
		5週	第10課 メールの書き方			
		6週	第10課 メールの書き方			
		7週	第11課 アクセント			
		8週	第11課 アクセント			
	4thQ	9週	第12課 からくり人形			
		10週	第12課 からくり人形			
		11週	第13課 四つ葉のクローバー			
		12週	第13課 四つ葉のクローバー			
		13週	第14課 長寿の理由			
		14週	第14課 長寿の理由			
		15週	試験答案の返却及び解説			

		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表 合計
総合評価割合	50	10	20	20 100
知識の基本的な理解	10	5	10	5 30
思考・推論・創造への適応力	10	0	0	5 15
汎用的技能	30	5	10	5 50
態度・志向性（人間力）	0	0	0	5 5
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0 0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築計画
科目基礎情報						
科目番号	0039		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	浅野平八編著：わかる建築学「建築計画」(学芸出版社), 日本建築学会編:コンパクト建築設計資料集成(丸善出版)					
担当教員	中村 孝至					
到達目標						
1) 住居、教育施設、展示施設を文化、歴史、制度、施設の現在の問題点など基本的な知識を獲得し、多角的な視点から考察できる。 2) 住居、教育施設、展示施設の立地条件など基本的な知識を獲得し、諸施設を与えられた敷地で与条件を抽出・整理できる。 3) 住居、教育施設、展示施設の機能構成および各部設計の基本的な知識を獲得し、空間構成や各部空間の計画ができる。 4) 住居、教育施設、展示施設の事例を知ることを通じ、現在の各施設のデザインの潮流を考察できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	制度改革や、施設の現在の問題点など時代の変化に則した知識を恒常的に得ることができる。		諸施設に係る文化、歴史、制度、施設の現在の問題点などを秩序立てて説明できる。		諸施設に係る文化、歴史、制度、施設の現在の問題点などを分散的だが知っている。	
評価項目2	計画敷地周辺の状況から住宅及び各施設の計画にあたっての問題点を挙げるができる。		各施設の計画に必要な一般的な条件を理解し、計画敷地周辺の状況から住宅及び各施設の計画に必要な条件を抽出できる。		各施設の計画に必要な一般的な条件を知っている。	
評価項目3	諸施設の機能構成や各部設計の基本的な知識をもとに様々な設計目標に対応した空間計画が可能である。		諸施設の機能構成や各部設計についての知識は得ているが空間と関連付けられている。		諸施設の機能構成や各部設計についての基本的な知識は得ている。	
評価項目4	授業で取り上げた作品以外の事例を知り、それらについて説明できる。		授業で取り上げた事例について計画上の特徴や空間のイメージを知っている。		授業で取り上げた事例を断片的であるが説明できる。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2						
教育方法等						
概要	住居、集合住宅、学校建築、展示施設の各建築空間の一般的に望ましいあり方と、その設計計画手法及び必要な検討事項を理解すること。					
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿って、パワーポイント使用した授業を行う。授業の前に教科書の該当する箇所を読んでおくこと。授業中に問題を与えるのでその問題の答えをグループで考え答えをレポートすることを求める。					
注意点	レポートは提出期限日までに提出すること。受講前に、教科書および建築設計資料集成を読んでおくこと。また建築の専門雑誌（新建築、a+uなど）に掲載されている最新事例を図書館などで調べておくこと。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明を聴き理解する。	
		2週	1.総論(1) 建築のデザイン・都市空間のデザイン		1. 近・現代建築と「建築計画学」と係り合いを理解する。	
		3週	1.総論(2) 建築計画総論		建築計画の目標を理解する。	
		4週	1.総論(2) 建築計画総論		建築計画の方法および求められている役割について理解する。	
		5週	2. 住居の計画と設計(1) 住宅の歴史および定義と機能・分類		2. 日本の伝統的住様式と現代住宅の特徴について概略説明できること。	
		6週	2. 住居の計画と設計(2) 独立住宅の平面計画・断面計画		住宅建築の典型的な計画・設計事例を知ること。計画・設計に関わる住生活の基本的な知識を理解すること。	
		7週	2. 住居の計画と設計(2) 独立住宅の平面計画・断面計画		住宅の基本的な計画手法および各部計画の要点を理解すること。	
		8週	2. 住居の計画と設計(3) 独立住宅デザイン例		独立住宅の具体的な設計事例についてPPTで解説。また事例について課題を与える。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		総論・住居の建築計画について理解する。	
		10週	3. 教育施設の計画と設計(1) 教育制度と学校建築の歴史と定義		我が国の教育制度と学校建築の歴史と定義を理解すること。	
		11週	3. 教育施設の計画と設計(2) 幼稚園・保育園の定義および概要		試験答案の返却及び解説及びポートフォリオの記入	
		12週	3. 教育施設の計画と設計(2) 幼稚園・保育園の運営		幼稚園・保育園の運営について理解する	
		13週	3. 教育施設の計画と設計(3) 幼稚園・保育園の基本計画		ゾーニング・ブロックプラン・ユニットプランの基本的内容を理解する。	
		14週	3. 教育施設の計画と設計(4) 幼稚園・保育園の各部計画		各室・各部の計画・設計の要点を理解すること。	
		15週	3. 教育施設の計画と設計(5) 学校の運営方式と平面計画		学校の運営方式などについて理解する。	
		16週	前期期末試験		教育施設の歴史と定義及び保育施設の建築計画について理解する。	
後期	3rdQ	1週	3. 教育施設の計画と設計(6) 学校の基本計画		ゾーニング・ブロックプラン・ユニットプランの基本的内容を理解する。	

		2週	3. 教育施設の計画と設計 (7)各教室の構成要素と計画-1	各教室の構成要素と計画について理解する。
		3週	3. 教育施設の計画と設計 (7) 各教室の構成要素と計画-2	実際に充てられた条件で各教室を計画しその方法を理解する。
		4週	3. 教育施設の計画と設計(8) 事例研究	具体的な設計事例についてPPTで解説。
		5週	4. 集合住宅の計画と設計(1) 集合住宅の歴史と現状	集合住宅の歴史と現状を認識すること。
		6週	4. 集合住宅の計画と設計(1) 集合住宅の歴史と現状(2) 集合住宅の計画・設計の要点	集合住宅の歴史と現状を認識すること。集合住宅の意義を認識すること。
		7週	4. 集合住宅の計画と設計(2) 集合住宅の計画・設計の要点	計画・設計における基本的要件を理解する。
		8週	後期中間試験	学校建築の計画及び集合住宅の建築計画について理解する。
	4thQ	9週	4. 集合住宅の計画と設計(3)集合住宅の住戸と住棟の計画と設計	集合住宅の住棟の平面形式及び断面形式について住戸の平面形式と断面形式を理解する。
		10週	4. 集合住宅の計画と設計(3)集合住宅の住戸と住棟の計画と設計	集合住宅の住棟及び住戸の計画の課題について考察しレポートを作成することによって理解を深める、
		11週	4. 集合住宅の計画と設計(4) 全体計画、集合住宅のデザイン例-1	美術館建築事例についてPPTで解説し、ま集合住宅の事例をPPTを用いて解説する。
		12週	5. 美術館の計画と設計(1) 美術館の歴史的変遷と機能	美術館の歴史および美術作品の変遷と展示空間の歴史的な展開について理解する。
		13週	5. 美術館の計画と設計(2) 美術館の基本計画、展示システム	美術館の定義、基本的な機能について理解する。また機能構成および動線計画について理解する。
		14週	5. 美術館の計画と設計(3) 美術館の各部設計	美術館の各分についての設計の要点を理解する。
		15週	5. 美術館の計画と設計(4) 美術館建築事例とデザイン手法	美術館建築事例についてPPTで解説し、また課題について考察しレポートを作成することによって理解を深める、
		16週	学年末試験	集合住宅及び美術館の建築計画について理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	10	0	0	0	0	60
専門的能力	20	5	0	0	0	0	25
分野横断的能力	10	5	0	0	0	0	15

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築設計演習
科目基礎情報						
科目番号	0040		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	新訂・図学と製図（幸田彰著・培風館）、コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編、丸善出版）					
担当教員	杉本 弘文,石躍 健志					
到達目標						
(1)各課題の設計条件を理解・調査・分析し、適切な設計目標をたてること (2)住宅及び幼児施設の様々な機能、階層を系統づけて整理し、建築としてまとめること (3)比較的簡単な建築物について生産・構造・設備等の面からの検討を行い適切な技術的な解決ができる (4)設計図書としての図面とプレゼンテーション用の図面の作成目的の違いを理解し、またそれぞれを適切に表現できること						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安(A)	標準的な到達レベルの目安(B)		未到達レベルの目安(C)	
評価項目1		(B)・(C)を前提とし、独創的な提案が盛り込まれている。	計画・設計に必要な設計条件を設定し、それらを満たした設計目標をつくること		目標とする建築空間を計画・設計するにあたり、どのような設計条件があるのかを概ね知っている。	
評価項目2		(B)・(C)を前提とし、意匠的な手法が研究され、求められている建築空間に相応しい手法が試みられていること。	基本的な計画・設計方法の十分な理解をもとに、求められている建築空間が合理的にまとめられる。		求められている建築空間の機能、動線など基本的な計画の知識を概ね知っている。	
評価項目3		(B)・(C)を前提とし、プレゼンテーションの様々な技巧を研究し、またそれを試みられていること。	(C)を前提とし、各自の設計コンセプトを他者を理解させる構成・内容になっていること。		設計図書としての図面を作成するに当たり、製図および各種図面の規則・書式を概ね知っている。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2						
教育方法等						
概要		住宅及び幼児施設の設計手法、表現技法について学習する。 前期：住宅の設計の進め方、基本的な構造、設計した物の図による表現方法を学習する。 後期：幼児施設の設計の進め方、基本的な構造、設計した物の図による表現方法を学習する。				
授業の進め方・方法		1) 各種提出物は提出期限日までに提出すること。（求められた内容が未達成の場合でも、その時点でできている図面などを提出すること。提出期限時点での評価を行う。） 2) 建築構造、建築計画などを復習しておくこと。 3) 建築の専門雑誌などで住宅及び幼児施設の事例を収集し資料としてまとめておくこと。				
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 独立住宅の設計及び製図の演習 課題内容の説明		独立住宅をテーマとした課題に関する趣旨を理解する	
		2週	1-1. 基本計画 設計概念の検討①		敷地分析、住まい手像の設定等を通して設計概念【コンセプト】を検討する	
		3週	1-1. 基本計画 設計概念の検討②		設計概念【コンセプト】を検討し、エスキスを行う	
		4週	1-2. 必要空間の設定及び面積算定		必要空間を設定し、建蔽率・容積率等を踏まえて面積およびボリュームを検討する。	
		5週	1-3. 配置計画、動線計画、ゾーニング計画①		敷地全体の配置計画、動線計画を検討する	
		6週	1-3. 配置計画、動線計画、ゾーニング計画②		建築物の配置計画、動線計画、ゾーニングを検討する	
		7週	1-4. 平面・立面・断面の設計①		平面図・立面図・断面図の計画を行う	
		8週	1-4. 平面・立面・断面の設計②		平面図・立面図・断面図の計画を行う	
	2ndQ	9週	1-4. 平面・立面・断面の設計③		平面図・立面図・断面図の計画を行う	
		10週	1-5. 平立断面図の製図①		平面図・立面図・断面図の製図を行う	
		11週	1-5. 平立断面図の製図②		平面図・立面図・断面図の製図を行う	
		12週	1-5. 平立断面図の製図③		平面図・立面図・断面図の製図を行う	
		13週	1-6. 模型の作製・立体図の作成①		外観透視図・内観透視図の製図を行う	
		14週	1-6. 模型の作製・立体図の作成②		外観透視図・内観透視図の製図を行う	
		15週	1-6. 模型の作製・立体図の作成④		模型製作を行う	
		16週	1-7. プレゼンテーション図面の作成		作成した全ての図面を指定された用紙内にプレゼンテーションを行う	
後期	3rdQ	1週	2. 小規模幼児施設の設計 課題内容の説明		小規模幼児施設（幼稚園）をテーマとした課題に関する趣旨を理解する	
		2週	2-1. 課題趣旨と設計条件の理解		敷地分析、住まい手像の設定等を通して設計概念【コンセプト】を検討する	
		3週	2-2. 参考資料の収集と参考とする設計例の研究		自身の設計コンセプトと類似した参考となる事例を収集し、分析する	
		4週	2-3. 断面計画、平面・配置計画①		平面図・配置図の計画を行う	
		5週	2-3. 断面計画、平面・配置計画②		平面図・立面図・断面図の計画を行う	
		6週	2-4. 断面・立面設計①		立面図・断面図の製図を行う	

		7週	2-4. 断面・立面設計②	立面図・断面図の製図を行う
		8週	2-5. 構造計画	各図面の整合性を検討し、構造計画を行う
	4thQ	9週	2-6. 配置図及び平面図の製図①	平面図・配置図の製図を行う
		10週	2-6. 配置図及び平面図の製図②	平面図・配置図の製図を行う
		11週	2-7. 立面図及び断面図の製図①	立面図・断面図の製図を行う
		12週	2-7. 立面図及び断面図の製図②	立面図・断面図の製図を行う
		13週	2-8. 模型作成①	模型の製作を行う
		14週	2-8. 模型作成②	模型の製作を行う
		15週	2-9. プレゼンテーションの仕上げ	作成した全ての図面を指定された用紙内にプレゼンテーションを行う
		16週	講評会	クラス内の作品の講評会を行い、与えられた課題に対する各自の考えのディスカッションを行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	50	50
専門的能力	0	0	0	0	0	50	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築CAD演習
科目基礎情報						
科目番号	0041		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	必要に応じてプリントを配布					
担当教員	中村 裕文					
到達目標						
1) C A Dを利用して図形の作図・編集を行うことができる. 2) C A Dの機能を理解して使いこなす建築図面の製図ができる. 3) 木造住宅の構造を理解して図面を読み解くことができる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	課題の図、寸法、注記の記入をほぼ完成する。 線種のかき分けを行う。 文字のサイズ、全体のバランスを整える		課題の図および寸法、注記の記入をほぼ完成する。 線種のかき分けを適切に行う。		課題の図を完成できない	
評価項目2	課題の図面を適切なレイヤ分けを行い完成する。 完成した図面のレイヤの表示・非表示を適切に調整する。		課題の図面を適切なレイヤ分けをおこない完成する。		課題の図面をC A Dファイルとして完成できない。	
評価項目3	木造の住宅を構成する部材を記した各図面の関係を把握する。部材相互の関係から明記されていない寸法を把握する。		木造の住宅を構成する部材を記した各図面の関係を把握する。		木造の住宅図面をC A Dで模写できない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2 学習・教育目標・サブ目標との対応 2-4						
教育方法等						
概要	コンピュータを利用した建築製図技能の習得。 CADによる製図の基本的な概念の学習。建築製図でのCADの利用技術の習得。 木造建築図面の模写を通しての木造建築製図技法の習得。木造建築の部材名称・構造の学習。					
授業の進め方・方法	学内のネットワーク上で利用可能なCADアプリケーションの個人所有PCへのインストールおよび学生用単年度版CADの購入を希望する場合は担当教員まで連絡すること。					
注意点	図学および情報基礎の理解をしておくこと					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	演習概要 CADの基本的な使用方法		演習の概要を理解する CADの基本的な使用方法を理解する。	
		2週	CADの基本的な使用方法		基本的な描画コマンド、レイヤ、複製等の編集コマンドについて理解する。	
		3週	CADの基本的な使用方法		寸法、縮尺、配置などの機能について理解する。	
		4週	CADの基本的な使用方法		課題をもとにCAD全般の製図機能を理解する	
		5週	CADの基本的な使用方法		課題をもとにCAD全般の製図機能を理解する	
		6週	第1課題		第1課題に取り組む	
		7週	第1課題		第1課題に取り組む	
		8週	第1課題		第1課題に取り組む	
	2ndQ	9週	第1課題		第1課題に取り組む	
		10週	第1課題		第1課題に取り組む	
		11週	第1課題		第1課題に取り組む	
		12週	第1課題		第1課題に取り組む	
		13週	第1課題提出		第1課題を提出する	
		14週	第2課題		第2課題に取り組む	
		15週	第2課題		第2課題に取り組む	
		16週	第2課題		第2課題に取り組む	
後期	3rdQ	1週	第2課題		第2課題に取り組む	
		2週	第2課題		第2課題に取り組む	
		3週	第2課題		第2課題に取り組む	
		4週	第2課題		第2課題に取り組む	
		5週	第2課題提出		第2課題を提出する	
		6週	第3課題		第3課題に取り組む	
		7週	第3課題		第3課題に取り組む	
		8週	第3課題		第3課題に取り組む	
	4thQ	9週	第3課題		第3課題に取り組む	
		10週	第3課題		第3課題に取り組む	
		11週	第3課題		第3課題に取り組む	

		12週	第3課題	第3課題に取り組む			
		13週	第3課題	第3課題に取り組む			
		14週	第3課題	第3課題に取り組む			
		15週	第3課題提出	第3課題提出			
		16週	図面ファイルの提出, ポートフォリオ記入	ポートフォリオの記入			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	60	60
専門的能力	0	0	0	0	0	20	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	日本建築史	
科目基礎情報							
科目番号	0042			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	藤岡通夫他著「建築史」（市ヶ谷出版社）、日本建築学会編「日本建築図集」（彰國社）						
担当教員	林田 義伸						
到達目標							
1) 日本建築において、建築史的に重要な作品の名称や、建築の特徴を示す専門用語を示せること。 2) 日本の建築文化の発展や、各時代での建築様式や構造形式などについて理解し、説明できること。 3) 日本建築史で学んだ知識を元にして、現代社会における建築の価値や意義について、論じることができること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す専門用語を、それぞれ関連づけながら正確に示せる。			日本建築において、建築史的に重要な作品の名称や、建築の特徴を示す主要な専門用語を示せる。		日本建築において、有名な歴史的建築作品の名称や、その特徴を示す主要な専門用語が、判別できる。	
評価項目2	日本の建築文化の発展や、各時代での建築様式や構造形式などについて総合的に理解し、自己の考察を含めて説明できる。			日本の建築文化の発展や、各時代での建築様式や構造形式などについて、総合的に理解して、説明できる。		日本の建築文化の発展や、各時代での建築様式や構造形式などについて、概略を説明できる。	
評価項目3	日本建築史で学んだ知識と明確な関連性を示しながら、現代社会における建築の価値や意義について、独自の視点から論じることができる。			日本建築史で学んだ知識を元にして、現代社会における建築の価値や意義について、論じることができる。		日本建築の価値や意義について、論じることができる。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2 学習・教育目標・サブ目標との対応 3-1							
教育方法等							
概要	日本では、大陸から輸入した建築文化を、日本特有の美意識や生活習慣に適合する物へと変化させ、独自の建築文化を形成してきた。この授業では、日本の伝統的な建築文化が完成したと考えられる江戸時代までの発展過程を概観しながら、日本の建築文化の本質について理解する。						
授業の進め方・方法	授業は、各学習項目に沿った内容の画像や文書を、プロジェクターで示しながら実施する。基本的に板書は行わないが、授業中にプロジェクターで提示するスライドは、授業担当者のHPに掲載している。準備学習として、日本の歴史に関する授業等の復習をしておくこと。また、授業前には、教科書を読み、纏めておくこと。授業を受けた日には、必ず、復習し、自分なりにノートを整理しておくこと。自己学習の成果として、レポートを作成すること。						
注意点	日本史の理解を必要とする。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	神社建築の成立		仏教建築が輸入される前の日本に成立していた建築について理解する。		
		2週	飛鳥・奈良時代の仏教建築		日本にもたらされた仏教建築の基本的な構成や装飾形式・構造形式について理解する。		
		3週	飛鳥・奈良時代の仏教建築		日本における仏教建築の発展と、仏教建築がもたらした建築的影響について理解する。		
		4週	都城の制		古代の都市計画について理解する。		
		5週	古代の住宅建築		寝殿造の発生から成立までの発展過程やその基本的な構成について理解する。		
		6週	平安時代の仏教建築		平安時代に入って以降の仏教建築の日本的な発展過程について理解する。		
		7週	神社建築の発展		日本独自の建築的特徴と仏教文化の影響を受けながら展開していく神社建築について理解する。		
		8週	日本の古代建築に関する試験		日本の古代建築に関して整理する。		
	4thQ	9週	新しい仏寺建築様式		古代仏教に代わり、武家により輸入された大仏様や禅宗様の建築について理解する。		
		10週	和様と新様式の影響		中世に新しく大陸から輸入された建築様式や建築技術の、日本建築における影響について理解する。		
		11週	中世の住宅建築		古代の寝殿造りから、近世の書院造りに至る変遷過程について理解する。		
		12週	城郭建築		戦乱の世から近世初頭における城郭建築の変遷について理解する。		
		13週	近世の住宅		近世初頭に成立した書院造りについて理解する。		
		14週	数寄屋建築		草庵風茶室の成立や、茶室建築が他の建築に与えた影響について理解する。		
		15週	城下町及びその他の建築		近世において発展した城下町や、中世以降の農村住宅、聖堂や学校建築や、霊廟・宗教建築、能舞台や劇場建築について理解する。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	10	30
専門的能力	50	0	0	0	0	10	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	10	10

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	構造力学
科目基礎情報						
科目番号	0043		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年		3	
開設期	通年		週時間数		2	
教科書/教材	建築構造設計 実教出版, 建築骨組の力学 演習編 田中尚他 東洋書店					
担当教員	平田 光春					
到達目標						
図式解法と算式解法を用いて静定トラスを解くことが出来ること。モールの定理を用いて単純梁および片持梁のたわみとたわみ角を求めるとが出来ること。弾性曲線式を用いて単純梁および片持梁のたわみとたわみ角を求めるとが出来ること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	図式解法と算式解法（節点法および切断法）のいずれの解法を用いてもトラスの軸力を正確に求めることが出来る。		算式解法を用いてトラスの軸力を正確に求めることが出来る。		算式解法を用いてトラスの軸力を正確に求めることが出来ない。	
評価項目2	集中荷重または分布荷重が作用する片持梁および単純梁のたわみとたわみ角をモールの定理を用いて正確に求めることが出来る。		集中荷重が作用する片持梁および単純梁のたわみとたわみ角をモールの定理を用いて正確に求めることが出来る。		集中荷重が作用する片持梁および単純梁のたわみとたわみ角をモールの定理を用いて正確に求めることが出来ない。	
評価項目3	集中荷重または分布荷重が作用する片持梁および単純梁のたわみとたわみ角を弾性曲線式を用いて正確に求めることが出来る。		集中荷重が作用する片持梁および単純梁のたわみとたわみ角を弾性曲線式を用いて正確に求めることが出来る。		集中荷重が作用する片持梁および単純梁のたわみとたわみ角を弾性曲線式を用いて正確に求めることが出来ない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2						
教育方法等						
概要	静定トラスに生じる力を図式解法と算式解法で求められようになること。モールの定理を用いて部材の変形を解析できるようになること。弾性曲線式を用いて部材の変形を解析できるようになること。					
授業の進め方・方法	関数電卓を持参すること。授業中に前期2回・後期2回の小テストを実施する。．解法を記憶するのではなく、なぜそのように解くのか、解法の理解に努めること。類題を数多く解き、授業内容の理解と計算時間の短縮化に努めること。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画・内容の説明 静定構造物の応力度（前年度の復習）		授業計画・達成目標・成績の評価方法を理解する 単純梁、片持梁、ラーメンの応力図を求める演習問題を解く。	
		2週	静定構造物の応力度		単純梁、片持梁、ラーメンの応力図を求める演習問題を解く。	
		3週	静定トラス/トラス部材に生じる力・クレモナ図による図式解法		トラスの部材に生じる力の種類、表示方法について、 クレモナ図を用いたトラスの解法について説明出来る。	
		4週	静定トラス/クレモナ図による図式解法		クレモナ図を用いたトラスの解法について説明出来る。	
		5週	静定トラス/クレモナ図による図式解法		クレモナ図を用いたトラスの解法について説明出来る。	
		6週	静定トラス/節点法による図式解法		節点法による図式解法について説明出来る。	
		7週	静定トラス/節点法による図式解法		節点法による図式解法について説明出来る。	
		8週	静定トラス/節点法による図式解法		節点法による図式解法について説明出来る。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		試験により第8週までの授業内容の理解度を確認し、 不十分な部分の復習を行うことができる。	
		10週	前期中間試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		11週	節点法による算式解法		節点法による算式解法について説明出来る。	
		12週	節点法による算式解法		節点法による算式解法について説明出来る。	
		13週	切断法による算式解法		切断法による算式解法について説明出来る。	
		14週	切断法による算式解法		切断法による算式解法について説明出来る。	
		15週	静定構造物の部材に生じる力		応力度について説明出来る。	
		16週	前期末試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	梁の変形/たわみとたわみ角		たわみとたわみ角の定義および梁の変形について説明出来る。	
		2週	梁の変形/モールの定理		モールの定理について理論とその適用方法を説明出来る。	
		3週	梁の変形/モールの定理		モールの定理について理論とその適用方法を説明出来る。	
		4週	梁の変形/たわみとたわみ角		モールの定理を用いて単純梁と片持梁の変形を求める方法を説明出来る。	
		5週	梁の変形/たわみとたわみ角		モールの定理を用いて単純梁と片持梁の変形を求める方法を説明出来る。	

		6週	梁の変形/たわみとたわみ角	モールの定理を用いて単純梁と片持梁の変形を求める方法を説明出来る。
		7週	梁の変形/支点の変形および反曲点	支点のたわみとたわみ角及び反曲点について説明出来る。
		8週	後期中間試験	試験により第7週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。
	4thQ	9週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		10週	曲げモーメントによる部材の変形/梁の基本式（弾性曲線式）	梁の基本式について理論とその適用方法を説明出来る。
		11週	曲げモーメントによる部材の変形/梁の基本式（弾性曲線式）	梁の基本式について理論とその適用方法を説明出来る。
		12週	曲げモーメントによる部材の変形/梁の基本式（弾性曲線式）	梁の基本式について理論とその適用方法を説明出来る。
		13週	曲げモーメントによる部材の変形/梁の基本式を用いた変形量の解法	梁の基本式を用いて単純梁と片持梁の変形を求める方法を説明出来る。
		14週	曲げモーメントによる部材の変形/梁の基本式を用いた変形量の解法	梁の基本式を用いて単純梁と片持梁の変形を求める方法を説明出来る。
		15週	曲げモーメントによる部材の変形/梁の基本式を用いた変形量の解法	梁の基本式を用いて単純梁と片持梁の変形を求める方法を説明出来る。
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	小テスト	合計	
総合評価割合		80	20	100	
知識の基本的な理解		40	10	50	
思考・推論・創造への適応力		40	10	50	
汎用的技能		0	0	0	
態度・志向性（人間力）		0	0	0	
総合的な学習経験と創造的思考力		0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	建築材料
科目基礎情報					
科目番号	0045		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	シリーズ〔建築工学〕 6 巻 建築材料【改訂版】 (小山智幸, 原田志津男 他, 朝倉書店)				
担当教員	原田 志津男				
到達目標					
1) 建築の基幹材料であるコンクリート、鋼材、木材の物理的性質、化学的性質を理解し、使用上の留意点について説明できること。 2) 非鉄金属、石材、ガラス、粘土焼成品、高分子材料の種類、用途、性質、使用上の留意点を説明できること。 3) 建築材料の特性を示す物理的・化学的性質を理解し、説明できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	コンクリート、鋼材、木材の物性改善やその他の材料の複合使用による性能の多様化を提案できる。		コンクリート、鋼材、木材の物理的性質、化学的性質を理解した上で使用上の問題点を説明できる。		コンクリート、鋼材、木材の長所、短所を理解し、説明できない。
評価項目2	非鉄金属、石材、ガラス、粘土焼成品、高分子材料の特徴に基づいた各種施工法についても言及できる。		非鉄金属、石材、ガラス、粘土焼成品、高分子材料の物理的性質、化学的性質を理解した上で使用上の問題点を説明できる。		非鉄金属、石材、ガラス、粘土焼成品、高分子材料の生産方法、加工品の特徴を理解し説明できない。
評価項目3	求めた特性値に基づき、各材料の性能の良否を比較検討できる。		与条件に基づき、物理的・化学的特性値を求めることができる。		建築材料の物理的特性値および化学的特性値の定義を理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2					
教育方法等					
概要	建築に用いられる各種材料の性質及び使用方法等について学習し、建築材料に関する基礎的知識を修得する。				
授業の進め方・方法	・基本的にはテキストを中心に授業を進めるが、適宜、プロジェクター、ビデオ等を用いた授業も行う。授業中、比較的多くの板書説明を行う。ノートはしっかりとるように心がけること。また、授業でプロジェクターを使用するときは、大量の資料を配布するので試験前に見直しができるように整理しておくこと ・関連科目としては1年次に履修した「建築構造Ⅰ」、2年次に履修した「建築構造Ⅱ」、3年次に履修する「建築学実験(建築材料実験)」がある。自己学習としては、これらの科目との授業内容の整合性を確認しながら予習復習を行うこと。				
注意点	・建築材料を未修得で卒業した場合、高専卒業後、4年間の実務経験を経ても、一級建築士試験の受験資格が認められません。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 建築材料の一般的性質	・ 建築材料の変遷や発展について説明できる。 ・ 建築材料の規格・要求性能について説明することができる。	
		2週	セメントの成分	セメントの成分、水和反応硬化機構を説明できる。	
		3週	セメント種類・物理的性質	各種セメントの種類用途及び強度発現性状等を説明できる。	
		4週	せっこう・石灰の性質	せっこう・石灰の硬化機構及び使用上の留意点を説明できる。	
		5週	コンクリートの概要	コンクリートの一般的性質を説明できる。	
		6週	コンクリートの構成材料 (骨材)	コンクリートの構成材料である骨材に求められる品質を説明できる。	
		7週	コンクリートの構成材料 (水・混和材料)	練混ぜ水の要求品質及び混和材料の種類・用途を説明できる。	
		8週	第7週までの内容の復習 (前期中間試験)	試験により第7週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。	
	2ndQ	9週	中間試験結果を確認するとともに、ポートフォリオにより自己の理解度の客観的評価を行う。		
		10週	フレッシュコンクリートの性状 (その1)	フレッシュコンクリートに求められる各種品質を説明できる。	
		11週	フレッシュコンクリートの性状 (その2)	コンクリートの単位水量、空気量がコンシステンシーと材料分離抵抗性に及ぼす影響を説明できる。	
		12週	硬化コンクリートの力学的性質	・ コンクリートの強度 (圧縮、引張、曲げ、せん断) の関係について説明できる。 ・ 応力とひずみの関係について説明できる。 ・ 弾性係数の意味について説明できる。	
		13週	硬化コンクリートの耐久性	・ 中性化、収縮、凍害、塩害などについての劣化メカニズムを説明できる。 ・ スランプ、空気量及び骨材などの構成材料が強度、耐久性に及ぼす影響を説明できる。	
		14週	種々のコンクリート・コンクリート製品	・ 各種 (暑中・寒中など) ・特殊 (水密、高強度など) コンクリートの名称をあげることができる。 ・ コンクリート製品 (ALC、プレキャストなど) の特徴について説明できる。	

後期		15週	第10週～第14週までの内容の復習（前期末試験）	試験により第10週～第14週までの授業内容の理解度を 確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。
		16週	前期末試験結果を確認するとともに、ポートフォリオ により自己の理解度の客観的評価を行う。	
	3rdQ	1週	鋼材	・鋼材の応力～ひずみ関係について説明でき、その特 異点（比例限界、弾性限界、上降伏点、下降伏点、最 大荷重、破断点など）の特定と性質について説明でき る。 ・鋼材の耐久性（腐食、電食、耐火など）について説 明できる。
		2週	建築用鋼製品及び建築用構造用鋼材	・建築用鋼製品（丸鋼・形鋼・板など）の特徴・性質 について説明できる。 ・建築用構造用鋼材の種類（SS、SM、SN など）・性 質について説明できる。
		3週	非鉄金属	非鉄金属（アルミ、銅、ステンレスなど）の分類、特 徴をあげることができる。
		4週	木材の種類	木材の種類について説明できる。
		5週	木材の構成及び諸性質	木材の成長と組織形成から、物理的性質の違いについ て説明できる。
		6週	木材の耐久性・耐火性	・等級に応じた傷（節など）について説明できる。 ・耐久性（例えば腐れ、枯渇、虫害など）について説 明できる。 ・耐火性について説明できる。
		7週	木材工業製品	木材工業製品（集成材、積層材など）の種類について 説明できる。
		8週	第7週までの内容の復習（前期中間試験）	試験により第7週までの授業内容の理解度を確認し 、不十分な部分の復習を行うことができる。
	4thQ	9週	中間試験結果を確認するとともに、ポートフォリオに より自己の理解度の客観的評価を行う。	
		10週	石材	・石材の種類・性質について説明できる。 ・石材の使用法について説明できる。
		11週	ガラス	ガラスの製法、種類をあげることができる。
		12週	粘土焼成品	・タイルの種類、特徴をあげることができる。 ・れんが、瓦の特徴をあげることができる。
		13週	合成樹脂	合成樹脂の製品・種類をあげることができる。
		14週	繊維・アスファルト・塗料	・床の仕上げ材料であるカーベットの特徴を説明でき る。 ・防水材であるアスファルト製品の特徴を説明できる 。 ・塗料の種類及び下地、使用環境などの適合性につい て説明できる。
		15週	第10週～第14週までの内容の復習（学年末試験）	試験により第10週～第14週までの授業内容の理解度を 確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。
		16週	学年末試験結果を確認するとともに、ポートフォリオ により自己の理解度の客観的評価を行う。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	5	25
専門的能力	60	0	0	0	0	15	75
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	測量学		
科目基礎情報								
科目番号		0046		科目区分	専門 / 必修			
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科		建築学科		対象学年	3			
開設期		前期		週時間数	2			
教科書/教材								
担当教員		大岡 優						
到達目標								
1.測量の基本原理を理解すること。 2.測量の方法を理解すること。 3.測量結果を図表で表現できること。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		各測量方法の器具について、何のデータを得るためのものか、詳しく説明できる。		各測量方法で使用する器具について理解できる。		測量方法の種類について理解ができる。		
評価項目2		測量結果から図表が作成できる。		測量結果で得られたデータから、図表作成に必要な数値を計算できる。		測量結果で得られたデータについて説明できる。		
評価項目3		誤差がでる原因について考察することができる。		実際に誤差修正の計算によって数値、図表の修正ができる。		測量結果の誤差の取り扱いについて理解できる。		
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2								
教育方法等								
概要		距離測量、平板測量、水準測量、角測量、トラバース測量などの主要な測量方法について、使用器具の取り扱い、図面作成、誤差修正などを学習する。						
授業の進め方・方法		教科書内の距離測量、平板測量、水準測量、角測量、トラバース測量を中心に予習すること。						
注意点								
ポートフォリオ								
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	距離測量(1)		距離測量用器具について理解できる。			
		2週	距離測量(2)		距離の補正について理解できる。			
		3週	平板測量(1)		平板測量用器具について理解できる。			
		4週	平板測量(2)		平板測量の方法について理解できる。			
		5週	測量の誤差		誤差の種類について理解できる。			
		6週	面積および土積の計算		面積および土積の計算について理解できる。			
		7週	水準測量(1)		水準測量用器具について理解できる。			
		8週	水準測量(2)		水準測量の方法について理解できる。			
	2ndQ	9週	前期中間試験					
		10週	角測量(1)		角測量と測角器械について理解できる。			
		11週	角測量(2)		検査と調整について理解できる。			
		12週	トラバース測量(1)		トラバース測量の外業について理解できる。			
		13週	トラバース測量(2)		トラバース測量の内業について理解できる。			
		14週	その他の測量方法					
		15週	前期末試験					
		16週	試験答案の返却及び解説					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	40	0	0	0	0	10	50	
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築学実験
科目基礎情報						
科目番号	0047		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	原田 志津男,大岡 優					
到達目標						
<材料実験> 1) 共同実験者と協力して、正しい手順で安全で、かつ、正確に実験を実施できること. 2) 実験結果の精度および妥当性を正しく評価できること. 3) レポート課題の内容を理解し、実験結果および考察を分かりやすく表現できること. <測量実習> 測量機器の取り扱い方法を修得し、距離測量、平板測量、水準測量、トラバース測量を実施できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 (材料実験)	実験方法手順を他人に正確に説明指導できる.		共同実験者と協力して主体的に正確に実験できる.		指導助言を受けても、正確に実験できない.	
評価項目2 (材料実験)	実験結果に基づき、現象の定式化あるいは現象の概念を定性的に簡潔に説明できる.		実験結果の妥当性を説明でき、結果に問題があった場合はその原因を言及できる.		JIS等で定められた方法により実験結果を表記できない.	
評価項目3 (材料実験)	独自の追加実験およびシミュレーション等を考案し、新たな視点からの考察ができる.		実験内容に関連する資料、文献を正確に引用し、実験結果の報告、考察ができる.		レポートで問われている内容すべてに回答できない.	
評価項目4 (測量実習)	各測量方法の器具について、何のデータを得るためのものか、詳しく説明できる.		各測量方法で使用する器具について理解できる.		測量方法の種類について理解ができない.	
評価項目5 (測量実習)	測量結果から図表が作成できる.		測量結果で得られたデータから、図表作成に必要な数値を計算できる.		測量結果で得られたデータについて説明できない.	
評価項目 (測量実習)	誤差がでる原因について考察することができる.		実際に誤差修正の計算によって数値、図表の修正ができる.		測量結果の誤差の取り扱いについて理解できない.	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標・サブ目標との対応 1-1 学習・教育目標・サブ目標との対応 2-2 学習・教育目標・サブ目標との対応 2-3 学習・教育目標・サブ目標との対応 4-2						
教育方法等						
概要	<材料実験> コンクリートの構成材料であるセメント、骨材の品質検査方法および品質基準を学習する。さらに、建築の基幹材料であるコンクリートおよび鉄鋼類に関する基礎的な実験を行い、コンクリートおよび鉄鋼類の力学的性質および品質評価方法等について学ぶ。 <測量実習> 距離測量、平板測量、水準測量、トラバース測量の実習を行い、結果および考察をレポートにまとめることにより、各測量方法を理解する.					
授業の進め方・方法	一クラス8班に別れ、4班ずつで原則として隔週ごとに材料実験および測量学実習を行う。一つでも未提出のレポートがある場合は0点に処する。建築学実験としては測量学実習と建築材料実験の平均点で評価する。再試験は実施しない.					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画・安全教育 (大岡, 原田)		実験時の災害防止に関する基本事項を修得する.	
		2週	距離測量 (1) (大岡)		巻尺を使用し、距離を測定できる.	
		3週	セメントの密度 (原田)		セメントの密度を測定し、試験結果を評価できる.	
		4週	距離測量 (2) (大岡)		距離測量の結果から骨組みを作図できる.	
		5週	セメントの強度 (原田)		セメントの強度試験を実施し、実験に供したセメントが強度の品質基準を満足するか評価できる. .	
		6週	平板測量 (1) (大岡)		平板測量の道具を適切に使用し、骨組みを作図できる.	
		7週	骨材の密度吸水率 (原田)		骨材の密度吸水率試験を実施し、試料が品質基準を満足するか評価できる.	
		8週	平板測量 (2) (大岡)		平板測量の道具を適切に使用し、細部測量が実施できる.	
	2ndQ	9週	骨材の単位容積質量及び実積率 (原田)		骨材の単位容積質量試験を実施し、骨材の単位容積質量、実積率を求めることができる.	
		10週	平板測量 (3) (大岡)		平板測量の結果を正確に作図できる.	
		11週	骨材のふるい分け試験 (その1) (原田)		細骨材のふるい分け試験を実施し、実験に供した細骨材が標準粒度を満足するか評価できる.	
		12週	水準測量 (1) (大岡)		昇降式と器高式の水準測量が実施できる.	

後期		13週	補講日	
		14週	水準測量（2） （大岡）	昇降式と器高式の水準測量を正確に実施できる。
		15週	補講日	
		16週		
	3rdQ	1週	骨材のふるい分け試験（その2） （原田）	粗骨材のふるい分け試験を実施し、実験に供した粗骨材が標準粒度を満足するか評価できる。
		2週	水準測量（3） （大岡）	水準測量の結果から地盤高を算出できる。
		3週	コンクリートの調合設計（原田）	与条件を満足するコンクリートの調合設計ができる。
		4週	トラバース測量（1） （大岡）	セオドライトを使用し、水平角を測定できる。
		5週	補講日	
		6週	トラバース測量（2） （大岡）	セオドライトを使用し、水平角を正確に測定できる。
		7週	フレッシュコンクリートの性状試験及び強度試験用供試体の作製（原田）	コンクリートの製造を行い、製造したコンクリートが所要のフレッシュ性状を満足するか評価できる。
		8週	トラバース測量（3） （大岡）	セオドライトを使用し、水平角を正確に測定できる。
	4thQ	9週	鋼材の引張試験 （原田）	鋼材の引張試験を実施し、実験に供した鋼材が所要の機械的性質を有するか評価できる。
		10週	補講日	
		11週	コンクリートの強度試験（原田）	コンクリートの圧縮強度試験を実施し、製造したコンクリートが所要の圧縮強度を満足するか評価できる。
		12週	トラバース測量（4） （大岡）	トラバース測量の結果から調整角と方位角を計算できる。
		13週	塩害に関する模擬実験 （原田）	既知の塩分量を混入したモルタル試験体中の釘の錆の状態を観察し、塩化物が鋼材の腐食に及ぼす影響を検証することができる。
		14週	トラバース測量（5） （大岡）	トラバース測量の結果から緯距・経距の計算・調整ができる。
		15週	レポート講評，ポートフォリオ記入 （大岡，原田）	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	20	0	80	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	40	40
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	20	0	0	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	法学
科目基礎情報						
科目番号	0040		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	品川皓亮著・佐久間毅監修『日本一やさしい法律の教科書』日本実業出版社、2011年、田中成明著『法学入門』有斐閣2008年、『ポケット六法』有斐閣					
担当教員	青木 誠弘					
到達目標						
・ 法律の条文を読むことに慣れており、初めて読む条文の意味を理解することができる。 ・ 法的三段論法に従って結論を導くことができる。 ・ 所与の条文について、その条文が何のために存在するのかを理解し、妥当な解釈を導くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	法が何のために存在しているのかについて説明することができる。		法と道德の違いについて説明することができる。		法と法律の違いについて説明することができる。	
評価項目2	「六法」と呼ばれる6つの法について、それぞれが持つ基本的な理念を理解し、その理念が個別の条文にどのように現れているかを説明することができる。		「六法」と呼ばれる6つの法について、それぞれがどのような問題について規定しているものなのかを説明することができる。		「六法」と呼ばれる6つの法の名称を答えることができ、それぞれの違いを説明できる。	
評価項目3	解釈に幅のある条文にを何らかの出来事に照らし合わせた際に、どのような解釈をとればどのような結論が導かれるのかを説明することができる。		ある一連の出来事と法律の条文を見て、条文上の要件に該当する事実と該当しない事実を判別することができる。		法律の条文を見て、どのような要件の下でどのような効果が生じるのかを理解することができる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (b) JABEE C2						
教育方法等						
概要	法律の規定を覚えるだけではなく、法について考える力を身につけることを目的とする。 法は、社会のルールであると同時に、社会におけるトラブルを解決するために先人たちが編み出してきた試行錯誤の産物でもある。このため、法をきちんと学んでおけば、自分自身が新たなトラブルに直面した場合に、妥当な解決を導きやすくなる。受講生の諸君には、是非ともそのような知恵を身につけていただきたい。					
授業の進め方・方法	教科書は一見簡単そうだが、内容的には深いので、油断しないこと。 尚、この科目は5年で開講される『産業財産権』受講の際の必修科目となるので、注意すること。 参考資料の欄にある『ポケット六法』を携帯し、条文が登場するたびに引く癖をつけておくと、理解が早い（とくに『産業所有権』の履修を予定している者は、訓練の意味も兼ねて実践すること）。 とくに後期中間試験後は授業の内容が難しくなるので、しっかり復習すること。また、後から復習できるようにするために、授業の内容をメモするように努めること。 日常生活で起こる様々な出来事を、授業で学んだことに照らし合わせて考えるようにすると、理解が早い。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 これから勉強する「法律」		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	
		2週	これから勉強する「法律」 憲法の特徴と構造		講義の全体像の説明・学習における心構え等を確認する	
		3週	憲法の特徴と構造		憲法の性質、人権と国家の統治等について学ぶ	
		4週	憲法上の人権の性質と種類		人権の固有性、分類、享有主体性について学ぶ	
		5週	自由と人権の限界		人権の限界、公共の福祉、二重の基準について学ぶ	
		6週	立法権・司法権・行政権の役割		三権のそれぞれの役割と対立について学ぶ	
		7週	統治の基本制度		国会と内閣の関係、裁判所の存在意義について学ぶ	
		8週	憲法に関する小括		これまでの学習内容を振り返る	
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		10週	民法の基本と大原則		民法上の責任、権利義務、私的自治の原則について学ぶ	
		11週	民法のエッセンス		意思表示、意思主義と表示主義、外観について学ぶ	
		12週	二重譲渡と公示の原則		二重譲渡とその解決方法について学ぶ	
		13週	株式会社の仕組み		株式会社の基礎を学ぶ	
		14週	実体法と手続法・民事訴訟法の全体像		裁判において権利義務を争うためのルールを学ぶ	
		15週	民事訴訟制度の目的 民事法に関する小括		民事裁判における真実発見と紛争解決について学ぶ 民法の基本と大原則以降の学習内容を振り返る	
		16週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	刑法の機能と犯罪の成立要件		刑法が何のためにあるか等について学ぶ	
		2週	違法性と正当防衛		違法性の捉え方、正当防衛、偶然防衛について学ぶ	
		3週	窃盗罪の保護法益		窃盗罪を例に刑法条文の解釈を学ぶ	
		4週	刑事訴訟法の基礎知識		被告人を裁くための手続きについて学ぶ	
		5週	「人権保障」と「真実発見」		刑事手続における人権保障について学ぶ	

		6週	その他の法分野・法の分類	行政法、社会法や公法私法二分論等について学ぶ
		7週	刑事法に関する小括等	刑法の機能と犯罪の成立要件以降の学習内容を振り返る
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
	4thQ	9週	法源・法の解釈	法の存在形式と法の解釈手法について学ぶ
		10週	裁判の機能	実社会における裁判及び訴訟の機能について学ぶ
		11週	裁判過程と法の適用	法的三段論法、法の適用、事実認定について学ぶ
		12週	法的思考	リーガル・マインドとは何かについて学ぶ
		13週	法と道徳	法と道徳の間の共通点や相違点等について学ぶ
		14週	法と正義	正義とは何かに関する理論を学ぶ
		15週	総括	1年間の学習内容を振り返る
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	合計
総合評価割合	100	100
知識の基本的な理解	75	75
思考・推論・創造への適応力	25	25
汎用的技能	0	0
態度・志向性（人間力）	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	歴史学概論
科目基礎情報						
科目番号	0041		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	第一学習社 『グローバルワイド最新世界史図表』					
担当教員	田村 理恵					
到達目標						
1) 現在起こっている問題には歴史的背景があり、地域によって考え方が異なることを理解する。 2) 歴史的経緯に絡んだ基本的な地理を理解する。 3) 基本的な歴史用語を理解し、使用できるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地域によって事象の捉え方も異なっており、それは歴史的に長い時間をかけてつくられてきたものである事が理解できる。		地域の特性とその要因となった歴史的事項が結びついている。		基本的な地域の特性が分かる。	
評価項目2	地球規模での交流を可能としている地理的状況や現在の交流状況を理解している。		地域の中心となる文化を理解し、それが影響を大きく及ぼす範囲を理解する。		基本的な世界地理が分かる。	
評価項目3	歴史用語は同じでも、時代や地域によって多少の違いがあり、それが地域の特性になっていることを理解する。またそのような用語を使うことで比較の視点が出来ることを分かる		歴史的イベントが、異なる地域、異なる時代でも、一般的な歴史用語を使うことで同じような出来事であることが理解できる。		基本的な歴史用語が分かる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (a) JABEE C1						
教育方法等						
概要	世界がどのような過程を経て、現在の姿をとっているのかを理解する。今日世界で起こっている問題はすべて歴史的背景をもっていることを理解し、現在の問題を考える際にはその問題にどのような背景があるのかを検討した上で、自分なりの意見を述べるができるようにする。					
授業の進め方・方法	基本的に講義方式で行う。					
注意点	1) 自分でノートをしっかり取ること。 2) 提出期限は守ること。 3) 現在の世界情勢に関心を持ち、その事実と背景を知ろうという姿勢で臨むこと。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 暦、歴史区分、地域区分		暦の種類、歴史区分と地域区分がわかる。	
		2週	ウィーン体制		ウィーン体制を理解する。	
		3週	各国の自由主義と国民主義 (1)		ウィーン体制に対して起こされた各国の自由主義運動を知る。	
		4週	各国の自由主義と国民主義 (2)		ウィーン体制に対して起こされた各国の自由主義運動を知る。	
		5週	各国の自由主義と国民主義 (3)		ウィーン体制に対して起こされた各国の自由主義運動を知る。	
		6週	アジアの変化と欧米の進出 (1)		欧米のアジア進出とそれに対するアジアの反応を理解する。	
		7週	アジアの変化と欧米の進出 (2)		欧米のアジア進出とそれに対するアジアの反応を理解する。	
		8週	アジアの変化と欧米の進出 (3)		欧米のアジア進出とそれに対するアジアの反応を理解する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		これまでの理解を確認する。	
		10週	前期中間試験の解答 帝国主義の成立 (1)		帝国主義の成立を知る。	
		11週	帝国主義の成立 (2)		帝国主義の具体的事例を理解する。	
		12週	アジアの民族運動 (1)		アジアの植民地化を理解する。	
		13週	アジアの民族運動 (2)		アジアの植民地化を理解する。	
		14週	第一次世界大戦 (1)		第一次世界大戦の原因を理解する。	
		15週	前期末試験		これまでの理解を確認する。	
		16週	前期末試験の解答		試験の解答と解説で、不十分な理解であったところを確認する。	
後期	3rdQ	1週	第一次世界大戦 (1)		第一次世界大戦の経過を理解する。	
		2週	ヴェルサイユ体制 (1)		ヴェルサイユ体制を理解する。	
		3週	ヴェルサイユ体制 (1)		ヴェルサイユ体制を理解する。	
		4週	世界恐慌 (1)		世界恐慌を知る。	
		5週	世界恐慌 (1)		世界恐慌への各国の対応を理解する。	
		6週	第二次世界大戦 (1)		第二次世界大戦の原因を知る。	

		7週	第二次世界大戦（2）	第二次世界大戦の経過を理解する。
		8週	後期中間試験	これまでの理解を確認する。
	4thQ	9週	前期中間試験の解答 戦後処理と各国の独立（1）	試験の解答と解説で、不十分な理解であったところを確認する。
		10週	戦後処理と各国の独立（2）	第二次世界大戦の戦後処理がどのように行われたのかを理解する。
		11週	戦後処理と各国の独立（3）	アジア各国の独立を知る。
		12週	東西冷戦（1）	東西冷戦を理解する。
		13週	東西冷戦（2）	東西冷戦の終結を理解する。
		14週	冷戦後の世界の多極化	多極化した世界を理解する。
		15週	学年末試験	これまでの理解を確認する。
		16週	前期末試験の解答	試験の解答と解説で、不十分な理解であったところを確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	5	0	5	100
基礎的能力	55	0	0	5	0	5	65
専門的能力	35	0	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	微分方程式
科目基礎情報					
科目番号	0043		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新応用数学 (大日本図書) / 新応用数学問題集 (大日本図書)				
担当教員	向江 頼士				
到達目標					
1) ラプラス変換の計算は定義による広義積分の計算や公式を利用した計算ができる。 2) ヘビサイド法による部分分数分解ができ、その結果、逆ラプラス変換が素早くできる。 3) 1,2階の線形常微分方程式、高階の常微分方程式、連立微分方程式、積分方程式がラプラス変換を用いて解ける。 4) フーリエ級数の計算ができ、フーリエの収束定理を使いこなすことができる。 5) フーリエ変換が計算でき、フーリエの積分定理及び反転公式を使いこなすことができる。 6) 線形偏微分方程式の一般解を求められ、拡散方程式や波動方程式を解くことができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		ラプラス変換の計算は定義による広義積分の計算や公式を利用した計算はもとより、直接公式が適用できないものも式変形を工夫して計算できる。	ラプラス変換の計算は定義による広義積分の計算や公式を利用した計算ができる。	ラプラス変換の計算は公式を利用した計算ができる。	
評価項目2		ラプラス変換表から逆ラプラス変換できるのに加えて、ヘビサイド法I, II, IIIを駆使して部分分数分解することにより、逆ラプラス変換が素早くできる。	ラプラス変換表から逆ラプラス変換できるのに加えて、ヘビサイド法I, IIによる部分分数分解することにより、逆ラプラス変換が素早くできる。	ラプラス変換表と逆ラプラス変換の線形性からすぐに逆ラプラス変換できるものに対しては求めることができる。	
評価項目3		1,2階の線形常微分方程式、高階の常微分方程式の特殊解や一般解、連立微分方程式、積分方程式がラプラス変換を用いて求められる。	1,2階の線形常微分方程式、高階の常微分方程式の特殊解や一般解を求めることができる。	1,2階の線形常微分方程式の特殊解や一般解を求めることができる。	
評価項目4		一般の周期関数のグラフがかけ、またそのフーリエ級数が求められる。さらに、フーリエの収束定理を理解してその応用として級数の値を計算できる。	一般の周期関数のグラフがかけ、またそのフーリエ級数が求められる。また、関数の偶奇性を判断し、余弦級数や正弦級数を求められる。	周期2πの周期関数のフーリエ級数が求められ、区間毎に定義された周期関数のグラフがかける。	
評価項目5		フーリエ変換、余弦・正弦変換の計算、及びその応用として広義積分を計算できる。さらに、フーリエ変換の性質からいくつかの特徴的な関数のフーリエ変換を計算できる。	フーリエ変換、余弦変換及び、正弦変換を求められる。さらに、フーリエの積分定理及び反転公式を応用して広義積分を計算できる。	フーリエ変換が計算でき、フーリエの積分定理及び反転公式を応用して広義積分を計算できる。	
評価項目6		線形偏微分方程式の求積法や変数変換により一般解を求められ、拡散方程式や波動方程式をフーリエ級数やフーリエ変換を応用し解くことができる。	線形偏微分方程式の求積法や変数変換により一般解を求められ、拡散方程式や波動方程式をフーリエ級数を応用し解くことができる。	線形偏微分方程式の求積法や変数変換により一般解を求められる。	
学科の到達目標項目との関係					
JABEE (c) JABEE (d) JABEE B1					
教育方法等					
概要	工学や自然科学の分野に於ける現象の記述には微分方程式が用いられることが多い。ここでは微分積分学と線形代数学で学んだ内容を踏まえて、線形微分方程式、ラプラス変換、フーリエ解析の基礎を学ぶ。授業においては問題演習を重視し、学生自身がより深い理解を得られることを目標とする。				
授業の進め方・方法	1) 微分積分学I, II及び代数学の内容を十分理解しておくことが求められる。また、3年次に学習した 1階及び2階の線形微分方程式の解法を復習 (4月上旬の実力試験で復習の状況を確認) しておくこと。 2) 講義の単元毎に提示される課題のプリント等を復習をかねて勉強し、提出すること。				
注意点	実力試験の結果は前期末成績及び学年末最終成績に加味する。 長期休暇課題及び授業で課された課題及び提出物は必ず提出すること。 定期試験・実力試験は全学科で共通試験で実施する。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ラプラス変換の定義		
		2週	相似性と移動法則		
		3週	微分法則と積分法則		
		4週	逆ラプラス変換		
		5週	ヘビサイド法Iと逆ラプラス変換		
		6週	ヘビサイド法IIと逆ラプラス変換		
		7週	ラプラス変換と逆ラプラス変換のまとめ		
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	ヘビサイド法IIIと逆ラプラス変換		
		10週	微分方程式への応用 (1)		
		11週	微分方程式への応用 (2)		

後期		12週	畳込みと積分方程式	
		13週	線形システムの伝達関数とデルタ関数	
		14週	高階の微分方程式の解法	
		15週	連立常微分方程式の解法	
		16週	ラプラス変換の応用のまとめ	
	3rdQ	1週	周期 2π の関数のフーリエ級数（1）	
		2週	周期 2π の関数のフーリエ級数（2）	
		3週	一般周期関数のフーリエ級数	
		4週	余弦級数と正弦級数	
		5週	フーリエの収束定理とその応用	
		6週	複素フーリエ級数	
		7週	フーリエ級数のまとめ	
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	フーリエ変換	
		10週	積分定理	
		11週	フーリエ余弦変換と正弦変換	
		12週	フーリエ変換の性質と公式	
		13週	スペクトル	
		14週	偏微分方程式と解	
		15週	フーリエ級数と拡散方程式	
		16週	フーリエ変換と拡散方程式	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験・実力試験	その他	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		60	10	70	
適応力		20	5	25	
人間力		0	5	5	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	応用物理
科目基礎情報						
科目番号	0045		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	原康夫著「物理学基礎」(学術図書)。実験書、実験準備ノート、実験ノート等は配布する。都筑嘉弘著「チャート式新物理」(数研出版)、高橋正雄著「理工系の電磁気学」(共立出版)、D.ハリディ,J.ウォーカー,R.レスニック共著「物理学の基礎[3]電磁気学」(培風館)、志村史夫著「したしむ量子論」(朝倉書店)、物理学実験指導書編集委員 会編「新物理学実験」(学術出版)					
担当教員	若生 潤一					
到達目標						
1) 電磁気学における基礎概念を理解すること。 2) 電磁気に関する基本的な現象について定量的に説明できること。 3) 量子論とはどのようなものか、またその基本的な考え方を説明できること。 4) 実験で扱われる諸現象とその背後にある法則を説明できること。 5) 実験結果を正確に提示し、それについて考察したことを明解な文章で表現できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	多くの物理概念・物理量を含んだ問題を解くことができる。		定義から物理概念が理解でき、物理量を計算できる。計算で求めた答えは単位付きで表示することができる。		物理量の定義を一部は説明することができる。定義式を用いた特定の計算はできる。	
評価項目2	物理法則の数式を説明することができ、問題を解くことができる。		重要な物理法則を用いて、問題を解くことができる。		重要な物理法則の一部の説明はできる。	
評価項目3	表やグラフを正しく完成できる。実験装置のしくみや実験の原理を説明することができる。		測定データから表やグラフを作成し、物理法則を用いて分析することができる。定められた形式で実験ノートを期日までに完成させることができる。		実験ノートに測定データの記録までは完成させることができる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d) JABEE (f) JABEE B1						
教育方法等						
概要	電磁気学、量子論の基礎概念を身に付け、専門科目への応用の基礎をつくる。実験により物理現象の理解をさらに深めるとともに、実験ノート提出を通じて実験結果を考察し、文章により表現する力を発展させる。					
授業の進め方・方法	実験においては各テーマごとに実験ノートを提出すること。実験ノート未提出者の単位取得はできないものとする。また、実験ノート未提出で単位が取得できなかった学生の再試験は実施しない。 座学においては授業プリントや課題を綴じるためのA4ファイルを用意すること。 座学においては、事後学習として授業ごとに課される課題、および教科書中の例題や章末問題に取り組むこと。実験においては、実験準備ノートと実験書を事前に読み、しっかりと理解しておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	
		2週	1. 電磁気学 第一部 (1) 電荷		物質の構成、電荷、クーロンの法則とそれを用いた静電気力の計算法について理解する。	
		3週	(1) 電荷		物質の構成、電荷、クーロンの法則とそれを用いた静電気力の計算法について理解する。	
		4週	(2) 電場		電場、電気力線、ガウスの法則とそれを用いた電場の計算法を理解する。	
		5週	(2) 電場		電場、電気力線、ガウスの法則とそれを用いた電場の計算法を理解する。	
		6週	(3) 電位		電場のする仕事、電位、電位差の定義と計算法を理解する。	
		7週	(3) 電位		電場のする仕事、電位、電位差の定義と計算法を理解する。	
		8週	(4) 導体と電場		静電誘導、静電遮蔽について理解する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		10週	(5) コンデンサー		コンデンサーの仕組み、コンデンサーの接続、静電エネルギーについて理解する。	
		11週	(5) コンデンサー		コンデンサーの仕組み、コンデンサーの接続、静電エネルギーについて理解する。	
		12週	応用物理実験 1		電気に関する実験を行う。	
		13週	2. 量子論 (1) 物質の構造		物質の構造と、ミクロ世界とマクロ世界のつながりについて理解する。	
		14週	(2) 粒子性と波動性		光の粒子性、電子の波動性について学び、粒子と波動の二重性を理解する。	
		15週	(3) 波動関数とシュレディンガー方程式		波動関数とシュレディンガー方程式について学ぶ。	
		16週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	3. 応用物理実験 2～6		実験内容の解説を行う。	
		2週	3. 応用物理実験 2～6		1) ヤング率	

		3週	3. 応用物理実験 2～6	2) 剛体の運動
		4週	3. 応用物理実験 2～6	3) 固体の線膨張率
		5週	3. 応用物理実験 2～6	4) ニュートンリング
		6週	3. 応用物理実験 2～6	5) 光電効果
		7週	3. 応用物理実験 2～6	実験内容のおさらいを行う
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
	4thQ	9週	5. 電磁気学 第二部 (6) 直流回路	電気抵抗、抵抗率、金属中の自由電子、オームの法則、ジュール熱について理解する。
		10週	(7) 電流のつくる磁場	磁場、磁力線、電流がつくる磁場について理解する。
		11週	(7) 電流のつくる磁場	磁場、磁力線、電流がつくる磁場について理解する。
		12週	(8) 電流にはたらく力	電磁力、ローレンツ力について理解する。
		13週	(9) 電磁誘導	ファラデーの電磁誘導の法則について理解する。交流について理解する。
		14週	(9) 電磁誘導	ファラデーの電磁誘導の法則について理解する。交流について理解する。
		15週	(10) 自己誘導・相互誘導	自己誘導、相互誘導について理解する。
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	レポート	合計	
総合評価割合		80	20	100	
知識の基本的な理解		40	10	50	
思考・推論・創造への適応力		40	10	50	
汎用的技能		0	0	0	
態度・志向性（人間力）		0	0	0	
総合的な学習経験 と創造的思考力		0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	保健体育
科目基礎情報						
科目番号	0046		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	永松 幸一,松元 博子,瓜田 吉久					
到達目標						
1) 自己の能力・適性や興味・関心に合ったスポーツ種目を選択している。 2) 生涯にわたってスポーツ活動や心身の健康の維持増進を実践できる能力を身につけている。 3) 主体的にスポーツ活動の計画および実践・運営を行うことができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		スポーツ種目のルール等を理解し、積極的に身体を動かすことができる。	選択したスポーツ種目の活動に全期間を通して参加し、技能を上達することができる。	選択したスポーツ種目の活動に数回は参加することができる。		
評価項目2		スポーツ活動の技能や体力の向上について、自己評価ができる。	協力してスポーツ活動の準備ができる。	スポーツ活動の見学はできる。		
評価項目3		スポーツ種目のトレーニング方法を提案することができる。	施設や天候等にに合わせて、スポーツ活動の変更を行うことができる。	協力してスポーツ活動を行うことはできる。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	自己の健康や体力に対する意識を高め、能力・適性や興味・関心に応じてスポーツや運動を選択し、生涯にわたって継続して実践できる能力や態度を育成する。健康や安全に十分留意して、ゲームや試合の仕方等を工夫するなど、主体的に企画・運営にも取り組むことができるようにする。					
授業の進め方・方法	選択したスポーツや運動、使用施設に適したスポーツウェアやシューズを準備すること。今までのスポーツや運動の経験をもとに、授業で取り組む種目を選択できるようにしておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	自己の能力・適性や興味・関心に合ったスポーツ種目を1つ選択する（学内における施設を利用し、ソフトボール・サッカー・テニス・バスケットボール・バレーボール・バドミントン等の中から1つ選択する）。		
		2週	スポーツテスト	低学年時より実施している新体力テストを行う。		
		3週	スポーツテスト	低学年時より実施している新体力テストを行う。		
		4週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。		
		5週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。		
		6週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。		
		7週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。		
		8週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。		
	2ndQ	9週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。		
		10週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。		

[illegible]

		15週	選択種目別の活動		自己の能力・適性や興味・関心に合ったスポーツ種目を1つ選択する（学内における施設を利用し、ソフトボール・サッカー・テニス・バスケットボール・バレーボール・バドミントン等の中から1つ選択する）。			
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	活動状況および成果	合計
総合評価割合	0	0	0	20	0	20	60	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	20	40
専門的能力	0	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	20	0	0	0	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	0047		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	リーディング・コンパス（三修社） TOEIC Test: Down to Business（南雲堂）					
担当教員	笹谷 浩一郎					
到達目標						
1) スキミング、スキヤニングを駆使し、長めの英文の大意把握や、必要な情報を探し出すことができる。 2) TOEICテストの基本的なリスニング問題に対応できる。 3) TOEICテストの基本的なリーディング問題に対応できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 スキミング、スキヤニングを駆使し、長めの英文の大意把握や、必要な情報を探し出すことができる。		短時間で、テキストの英文の大意を80%以上つかむことができる。	短時間で、テキストの英文の大意を60%以上つかむことができる。		短時間で、テキストの英文の大意を50%程度つかむことができる。	
評価項目2 TOEICテストの基本的なリスニング問題に対応できる。		TOEICテストのリスニング問題で200点以上得点できる。	TOEICテストのリスニング問題で150点程度得点できる。		TOEICテストのリスニング問題で100点程度得点できる。	
評価項目3 TOEICテストの基本的なリーディング問題に対応できる。		TOEICテストのリーディング問題で200点以上得点できる。	TOEICテストのリーディング問題で150点程度得点できる。		TOEICテストのリーディング問題で100点程度得点できる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (a) JABEE (f) JABEE C1 JABEE C4						
教育方法等						
概要	さまざまなジャンルの英文に触れることで視野を広げ、使える語を増やし、長めの英文を苦にせず読めるようになる。 同時に、TOEICテストの基本的な問題に対応できるようになる。					
授業の進め方・方法	1) 単語テストは正しいスペリングで書けるよう練習しておくこと。 2) 予習用資料に基づいて予習をしておくこと。					
注意点	1) 語を増やすため、適宜単語テストを実施する。 2) 予習用資料に基づく予習を義務づける。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明			
		2週	教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		3週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		4週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		5週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		6週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		7週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		8週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
	2ndQ	9週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		10週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		11週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		12週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		13週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		14週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		15週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			
		16週	試験問題の解説及びポートフォリオの記入			
後期	3rdQ	1週	教科書解説、リスニング演習、リーディング演習			

		2週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		3週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		4週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		5週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		6週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		7週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		8週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
	4thQ	9週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		10週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		11週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		12週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		13週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		14週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		15週	単語テスト、教科書解説、リスニング演習、リーディング演習	
		16週	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	56	20	0	0	0	24	100
基礎的能力	28	10	0	0	0	12	50
専門的能力	28	10	0	0	0	12	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	0048		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Social View (三修社)、News Matters (南雲堂)					
担当教員	崎山 強					
到達目標						
1) 様々なシチュエーションで使われる英語を聴き、ストーリーの内容をつかめるようになること。 2) Listeningで学んだフレーズや会話表現を理解し、少しでも話せるようになること。 3) 文法の基礎を身に付け、正しく使いこなせるようになること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	予習・復習に加え、自分なりの目標も決めて、英語学習を着実に進める習慣が身に付いている。		予習・復習を中心に、しっかりとした英語の学習習慣が身に付いている。		予習・復習に少しは取り組むことができる。	
評価項目2	教科書のストーリーで学んだ英語の重要語句・文法事項を他の英文の理解にも応用できる。		教科書のストーリーを、パートごとに英語の重要語句・文法事項を含め、ほぼ理解できる。		教科書のストーリーの内容を少しは理解できる。	
評価項目3	教科書で学んだ文法の基礎をしっかりと理解でき、応用問題を解くことができる。		教科書で学んだ文法の基礎をある程度は理解し、基本的な問題を解くことができる。		教科書で学んだ文法について少しは理解できる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (a) JABEE C1 JABEE C4						
教育方法等						
概要	1) 日常生活で使われる英語の会話や表現方法を聞き取れるようになり、実際に自分で使えるようになること。 2) 英文法の基礎をきちんと理解し、練習問題を通して、実際に自分で基本的な英文が書けるようになること。					
授業の進め方・方法	1) ListeningもGrammarも演習が多いので、積極的に取り組むこと。 2) 定期試験以外に特別な課題はないので、試験で平均60点以上をとること。 答え合わせがスムーズにできるよう、指示された予習・課題にしっかりと取り組むこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 ・ News Matters		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 Unit 1: 現在完了と過去完了	
		2週	Readings		Unit 3: 受動態	
		3週	Readings		Unit 3: 受動態	
		4週	・ Social View		Unit 4: 独立分詞構文	
		5週	・ Social View		Unit 4: 独立分詞構文	
		6週	・ Social View		Chapter 1: More robots in service industry planned	
		7週	・ Social View		Chapter 1: More robots in service industry planned	
		8週	・ Social View		Chapter 2: Waliking tours show harsh realities of Tokyo,Osaka	
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		10週	・ News Matters		Unit 5: 現在分詞と過去分詞	
		11週	Readings		Unit 6: 形式主語	
		12週	・ Social View		Chapter 4: Herritage listing a wake-up call for taking charge of Mt. Fuji cleanup	
		13週	・ Social View		Chapter 4: Herritage listing a wake-up call for taking charge of Mt. Fuji cleanup	
		14週	・ Social View		Chapter 5: Children's encyclopedias offer realistic images, video	
		15週	・ Social View		Chapter 5: Children's encyclopedias offer realistic images, video	
		16週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	・ News Matters		Unit 7: 関係代名詞	
		2週	Readings		Unit 8: 助動詞	
		3週	Readings		Unit 8: 助動詞	
		4週	・ Social View		Unit 9: 不定詞	
		5週	・ Social View		Chapter 6:Improved fire resistance leads to wood-building resurgence	
		6週	・ Social View		Chapter 7: Worried about using chopsticks? Join a sminar	
		7週	・ Social View		Chapter 8: Blast from the past:Nostalgic dagashi appeal to young and old alike	

		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
	4thQ	9週	・ News Matters	Unit 10: 仮定法
		10週	Readings	Unit 11: 動名詞
		11週	・ Social View	Chapter 9:Railway business look abroad
		12週	・ Social View	Chapter 10: Ginza rooftop sprouts herb crop
		13週	・ Social View	Chapter 10: Ginza rooftop sprouts herb crop
		14週	・ Social View	Chapter 12: 27 ways to say ' welcome to Japan'
		15週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	合計
総合評価割合	100	100
知識の基本的な理解	50	50
思考・推論・創造への適応力	50	50
汎用的技能	0	0
態度・志向性（人間力）	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	ドイツ語
科目基礎情報						
科目番号	0049		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Abfahrt neu					
担当教員	飯尾 高明					
到達目標						
1)辞書を用いてドイツ語文を理解することができる。 2)辞書を用いずにドイツ語文を正確に音読できる。 3)ドイツ語を用いて日常的な挨拶等ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	学習した文法内容を完全に理解でき、和訳の際に使いこなすことができる。		学習した文法事項を習得してその基礎の上に次段階の文法を理解できる。		単語レベルでの和訳を辞書を用いて行える。	
評価項目2	辞書を用いずに未知の単語が用いられたドイツ語文よどみなく発音できる。		ドイツ語の短文を辞書なしで概ね正確に発音できる。		ドイツ語のアルファベートの音価を理解し単語レベルでの発音ができる。	
評価項目3	教科書記載のドイツ語文を音声で聞いて内容を理解できる。		教科書記載のドイツ語文を音声で聞いておおむね内容を理解できる。		教科書記載のドイツ語文を音声で聞いた単語レベルで聞き取ることができる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (a) JABEE (f) JABEE C4						
教育方法等						
概要	ドイツ語の入門。初修者を対象に基礎的な文法の理解と運用能力を養成する。今年度は初級文法の約 1 / 2 を扱う。					
授業の進め方・方法	授業には必ず、指定の教科書、辞書、配布されたプリントを持参すること。 教科書付属のCDを用いて教科書本文の発音をチェックしておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	発音練習			
		2週	Lektion 1 Freut mich! 挨拶			
		3週	Lektion 1 Freut mich! 人と知り合う			
		4週	Lektion 1 Freut mich! 紹介（名前・出身地・居住地・職業・趣味）			
		5週	Lektion 1 Freut mich! 人称代名詞			
		6週	Lektion 1 Freut mich! 動詞の現在人称変化(1)			
		7週	Lektion 1 Freut mich! 動詞の現在人称変化(1)			
		8週	Lektion 1 Freut mich! 疑問詞			
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説			
		10週	Lektion 2 Hast du morgen Abend Zeit? 時刻／挨拶 2			
		11週	Lektion 2 Hast du morgen Abend Zeit? 時を表す表現 1			
		12週	Lektion 2 Hast du morgen Abend Zeit? 人を誘う			
		13週	Lektion 2 Hast du morgen Abend Zeit? 電話番号を尋ねる			
		14週	Lektion 2 Hast du morgen Abend Zeit? 動詞の現在人称変化(2)			
		15週	Lektion 2 Hast du morgen Abend Zeit? ドイツ語の語順			
		16週	前期末試験 試験答案の返却及び解説			
後期	3rdQ	1週	Lektion 3 Was ist das? Was hast du? 所持品・家族・親戚			
		2週	Lektion 3 Was ist das? Was hast du? 名詞の性と定冠詞・不定冠詞・人称代名詞			
		3週	Lektion 3 Was ist das? Was hast du? 冠詞と名詞の格変化（1・4格）			
		4週	Lektion 3 Was ist das? Was hast du? 不定冠詞と同様の変化をする冠詞類			
		5週	Lektion 4 Ich möchte eine Halskette. 買い物／値段／プレゼント／メール			
		6週	Lektion 4 Ich möchte eine Halskette. 3格・人称代名詞の格変化			

		7週	Lektion 4 Ich möchte eine Halskette. 前置詞(1)	
		8週	Lektion 4 Ich möchte eine Halskette. 否定の語を含む疑問文とその答え方	
	4thQ	9週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	
		10週	Lektion 5 Hast du am Wochenende etwas vor? 週末の予定	
		11週	Lektion 5 Hast du am Wochenende etwas vor? 1日の行動	
		12週	Lektion 5 Hast du am Wochenende etwas vor? 天候	
		13週	Lektion 5 Hast du am Wochenende etwas vor? 分離動詞	
		14週	Lektion 5 Hast du am Wochenende etwas vor? 話法の助動詞	
		15週	Lektion 5 Hast du am Wochenende etwas vor? 話法の助動詞 非人称のes	
		16週	学年末試験 答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築計画
科目基礎情報						
科目番号	0050		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	浅野平八編著：わかる建築学 1「建築計画」					
担当教員	杉本 弘文					
到達目標						
1) 各種建築の建築計画と基本設計に最低限必要な基本的な事項が説明できること。 2) 建築計画に関する人間および社会のからの要求・計画条件を把握できること。 3) 各種建築の基本的な計画ができること。 4) 各種建築の事例を建築計画的に理解が出来ること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築物の計画・設計に必要な基礎的な知識を有し、各種建築物の計画・設計のポイントを説明できる。		建築物の計画・設計に必要な基礎的な知識をおおよそ理解している。		建築物の計画・設計に必要な最低限の知識を有している。	
評価項目2	建築計画の歴史的背景や社会から建築に求められていることを十分に理解し、新しい建築物を提案できる。		建築計画の歴史的背景や社会から建築に求められていることを理解している。		建築計画の成り立ちをおおよそ理解している。	
評価項目3	各種建築物に求められる空間的相互関係や社会的要求について十分に理解し、建築図面を描くことができる。		各種建築物の計画・設計の要点について理解し、建築図面を描くことができる。		各種建築物の基本的な計画・設計条件について理解し、ある程度建築図面を描くことができる。	
評価項目4	各種建築物の計画・設計の要点を十分に理解し、実在する建築物について他人に理解できるようプレゼンテーションできる。		各種建築物の計画・設計の要点を理解し、実在する建築物について説明できる。		各種建築物の計画・設計の要点をある程度理解し、実在する建築物の特徴を把握できる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (d) JABEE B2						
教育方法等						
概要	建築空間の一般的に望ましいあり方と、その設計計画手法及び必要な検討事項を理解する。					
授業の進め方・方法	1) 計画手法と検討事項を抽象的ではなく具体的に説明するために、 P P T や配布資料などによって設計例をできる限り多く紹介するので、各施設計画の総合的な理解を手掛かりに受講者自らが意識的・自発的に建築空間を体験したり、建築家がデザインした設計例を学習すること。 2) 本講義は建築・都市の設計につながる科目である。自らの作品づくり・提案に必要な創造（想像）力や思考力を養う機会とすること。 3) 授業で得る知識は設計競技や資格取得（福祉住環境コーディネーター等）につなげるためのものである。各自が積極的に課外活動に取り組むための機会とすること。					
注意点	授業は建築学科多目的演習室にて行う。 参考資料として、日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成」(丸善出版)、初めての建築計画（学芸出版社）を使用すると共に授業内で適宜プリントを配布する					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明		授業の内容を理解し、学習計画を立てる	
		2週	集会・コミュニティ施設の役割と機能		集会・コミュニティ施設の役割と機能を理解する	
		3週	集会・コミュニティ施設の基本計画		集会・コミュニティ施設の基本計画を理解する	
		4週	集会・コミュニティ施設計画のプロセス		集会・コミュニティ施設の計画プロセスを理解する	
		5週	集会・コミュニティ施設の事例分析		集会・コミュニティ施設の事例を分析し、各事例の特徴を説明できる	
		6週	図書館の定義と目的、機能、基本計画		図書館の定義と目的、機能、基本計画を理解する	
		7週	図書館の各部の計画と出納システム、事例分析		図書館の各部の計画と出納システムを理解する。図書館の事例を分析し、各事例の特徴を説明できる	
		8週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説			
	2ndQ	9週	劇場・ホールの種類と機能		劇場・ホールの種類と機能を理解する	
		10週	劇場・ホールの基本計画		劇場・ホールの基本計画を理解する	
		11週	劇場・ホールの舞台・観客席の計画と設計、事例分析		劇場・ホールの舞台・観客席の計画と設計を理解する。劇場・ホールの事例を分析し、各事例の特徴を説明できる	
		12週	宿泊施設の概要（歴史・種類）		宿泊施設の概要（歴史・種類）を理解する	
		13週	宿泊施設の全体計画①（部門・動線計画・構造設備計画・関連法規）		宿泊施設の全体計画①（部門・動線計画・構造設備計画・関連法規）を理解する	
		14週	宿泊施設の全体計画②（部門・動線計画・構造設備計画・関連法規）		宿泊施設の全体計画②（部門・動線計画・構造設備計画・関連法規）を理解する	
		15週	宿泊施設の各部門の計画と設計（客室部門・パブリック部門・管理部門）、事例分析		宿泊施設の各部門の計画と設計（客室部門・パブリック部門・管理部門）を理解する。宿泊施設の事例を分析し、各事例の特徴を説明できる	

		16週	前期末試験 試験答案の返却及び解説	
後期	3rdQ	1週	医療施設の歴史と動向	医療施設の歴史と動向を理解する
		2週	病院建築の概要	病院建築の概要を理解する
		3週	病院建築の全体計画（部門・所要室・ゾーニング・動線計画）	病院建築の全体計画（部門・所要室・ゾーニング・動線計画）を理解する
		4週	病院建築の各部門の計画 病院建築の事例分析	病院建築の各部門の計画を理解する。病院建築の事例を分析し、各事例の特徴を説明できる
		5週	福祉環境整備に関する基礎知識	福祉環境整備に関する基礎知識を理解する
		6週	高齢者・障害者に対する住環境の計画と設計①	高齢者・障害者に対する住環境の計画と設計（ノーマライゼーションに基づく生活・居住環境整備）を理解する
		7週	高齢者・障害者に対する住環境の計画と設計②	高齢者・障害者に対する住環境の計画と設計（グループホーム等の福祉施設の計画の概要）を理解する
		8週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	
	4thQ	9週	事務所建築の歴史	事務所建築の歴史を理解する
		10週	事務所建築の概要	事務所建築の概要を理解する
		11週	事務所建築の基本計画①	事務所建築の基本計画（基準階の設計方法等）を理解する
		12週	事務所建築の基本計画②	事務所建築の基本計画（コアシステムやモジュール割等）を理解する
		13週	事務所建築の各部の計画	事務所建築の各部の計画（オフィスレイアウト等）を理解する
		14週	事務所建築の事例分析	事務所建築の事例を分析し、各事例の特徴を説明できる
		15週	事務所建築の設計手法（演習）	事務所建築の設計手法を演習を通じて理解する
		16週	学年末試験 試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	10	0	50
専門的能力	40	0	0	0	10	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築設計演習
科目基礎情報						
科目番号	0051		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 6		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	6		
教科書/教材						
担当教員	中村 孝至,杉本 弘文,板越 政幸					
到達目標						
(1)各課題の設計条件を理解・調査・分析し、適切な設計目標をたてることができる。 (2)諸建築空間の様々な機能、階層を系統づけて整理し、建築としてまとめることができる。 (3)建築物について生産・構造・設備等の面からの検討を行い適切な技術的な解決ができる。 (4)技術的な内容を正確に伝達できる完成度の高い設計図書としての図面とプレゼンテーション用の図面を適切に表現できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	(B)・(C)を前提とし、調査した設計条件をもととしたコンセプトに、独創的な提案が盛り込まれている。		計画・設計に必要な情報を収集し、問題点を発見し、解決を目指したコンセプトを考察している。		目標とする建築空間を計画・設計するにあたり、どのような設計条件を調査する必要があるかを知っている。	
評価項目2	(B)・(C)を前提と研究され、求められている建築空間に適応され独創的な空間が考案されている。		基本的な計画・設計方法に工夫が見られ、求められている建築空間が合理的にまとめられる。		求められている建築空間の機能、動線など基本的な計画の知識を知っている。	
評価項目3	(B)・(C)を前提と研究され、求められている建築空間に適応され適切な提案がなされている。		生産・構造・設備等の面からの計画・設計方法に工夫が見られる。		建築物について生産・構造・設備等の面からの検討を行い基本的な知識を知っている。	
評価項目4	(B)・(C)を前提とし、プレゼンテーションの高度な技巧を研究し、完成度の高いプレゼンテーションができていること。		(C)を前提とし、各自の設計コンセプトを他者を理解させるよう工夫した構成・内容になっていること。		各種建築図面の役割を熟知し、適切で分かり易い表現ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d) JABEE (g) JABEE (h) JABEE A2 JABEE B2						
教育方法等						
概要	3学年及び課題開始までに習得した建築全般の知識を統合し、与えられた設計条件の下に必要な情報の収集や盛り込むべき空間性能の把握を自ら行い、住空間・公共建築施設の基本設計ができる能力を養うと共にプレゼンテーション技術を習得する。					
授業の進め方・方法	3課題が与えられる。それぞれの課題の設計条件に基づき、各自で設計目標を設定し、その目標達成のための資料、計画・設計方法を見出しそれに基づき設計を行い、期間内に図面及び模型を使ってプレゼンテーションを行い、図面として提出する。					
注意点	各種提出物は提出期限日までに提出すること。(求められた内容が未達成の場合でも、その時点でできている図面などを提出すること。提出期限時点での評価を行う。)					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	課題1. 集合住宅の設計(1) 事例研究		授業計画の説明/授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明。第一課題説明	
		2週	課題1. 集合住宅の設計(2)基本構想：第1回作成		規模計画を行う。配置計画、住棟の断面形式・平面形式を検討する。	
		3週	課題1. 集合住宅の設計(3)基本構想：第1回作成		住戸の平面形式を検討する。配置図・平面図・断面図を作成、複製を提出する。	
		4週	課題1. 集合住宅の設計(4)基本構想：第2回作成		再検討し、第二案を配置図・平面図・断面図を作成、複製を提出する。	
		5週	課題1. 集合住宅の設計(5)基本構想：第3回評価、訂正		指摘された問題点を解決し平面図・断面図を作成、複製を提出する。	
		6週	課題1. 集合住宅の設計(6) プレゼンテーション計画配置図・平面図の作成		プレゼンテーションを計画し、提出用図面の作成をはじめる。	
		7週	課題1. 集合住宅の設計(7) 配置図・平面図の作成		提出用図面の作成。	
		8週	課題1. 集合住宅の設計(8) 立面・断面図の作成・立体表現(透視図,模型,CGなどの作成)		提出用図面の作成。立体表現に着手する。	
	2ndQ	9週	課題1. 集合住宅の設計(9) 立体表現(透視図,模型,CGなどの作成)		立体表現を完成させ、図面に反映させ、複製を提出する。模型も現物を所定の位置に展示する。	
		10週	課題1. 集合住宅の設計(10) プレゼンテーション・作品の展示・講評		学生が相互に作品を評価し、数作品を選出し、選出された作品は発表する	
		11週	課題2. 建築の改修・刷新(1)		第二課題説明(1)。事例研究(5)	
		12週	課題2. 建築の改修・刷新(2)		事例研究(3)。対象とする既存建築物の研究(3)。	
		13週	課題2. 建築の改修・刷新(3)		対象とする既存建築物の研究(5)。改修・刷新の基本構想を作成。(1)	
		14週	課題2. 建築の改修・刷新(4)		改修・刷新の基本構想を作成。(6)	
		15週	課題2. 建築の改修・刷新(5)		改修・刷新の基本構想を作成。(3)。基本構想のプレゼンテーション。(3)各図面の作成(1)	
		16週				
後期	3rdQ	1週	課題2. 建築の改修・刷新(6)		各図面の作成(6)	
		2週	課題2. 建築の改修・刷新(7)		各図面の作成(3)。各種パースおよび模型の作成(3)。	

		3週	課題2. 建築の改修・刷新(8)	各種パースおよび模型の作成。(6)
		4週	課題2. 建築の改修・刷新(9)	各種パースおよび模型の作成.(1)プレゼンテーション図面の作成(5)
		5週	課題2. 建築の改修・刷新(10)	プレゼンテーション図面の作成(3)。プレゼンテーション・作品の展示・講評(3)
		6週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(1)	第三課題説明。事例研究 (6)
		7週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(2)	事例研究 (2) 企画書の作成、基本構想 (4)
		8週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(3)	企画書の作成、基本構想 (2) 配置計画・外構（植栽等）計画 (4)
	4thQ	9週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(4)	配置計画・外構（植栽等）計画 (2) 平面計画・立面計画・断面計画 (4)
		10週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(5)	平面計画・立面計画・断面計画 (2) ボリュームの検討（スタディモデルの作成） (4)
		11週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(6)	ボリュームの検討（スタディモデルの作成） (2) 配置図・平面図の作成 (4)
		12週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(7)	配置図・平面図の作成 (2) 立面図・断面図・透視図の作成 (4)
		13週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(8)	立面図・断面図・透視図の作成 (6)
		14週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(9)	プレゼンテーション図面・模型の作成 (6)
		15週	課題3. 複合機能をもった 地域コミュニティ施設の設計(10)	プレゼンテーション図面・模型の作成 (2) プレゼンテーション・作品の展示・講評 (4)
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	成果品	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	40	
思考・推論・創造への適応力	40	0	0	0	0	0	40	
総合的な学習経験と創造的思考力	20	0	0	0	0	0	20	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	意匠CAD演習	
科目基礎情報							
科目番号	0052			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特にない。プリントを配布する／教材プリント・ファイルを配布する						
担当教員	中村 裕文						
到達目標							
1) 3 D C Gの作成技術を習得する。 2)レンダリングの基本的な機能を理解し、修得する。 3)CADのレイアウト機能を理解し、優れたレイアウトのプレゼンテーション図面を作成する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑な形状をした 3 Dモデルを作成することが出来る。また複雑な形状をした建築 3 D C Gモデルを作成できる。			建築の平面図、立面図をもとに建築物の 3 D C Gモデルを作成することが出来る。		平面図形から柱状体、回転体、掃引体といった 3 D C Gモデルを作成することができる。	
評価項目2	平行光線、点光源、天空光の関係を理解して適切なレンダリングを実施することができる。			平行光線とシミュレーション対象の緯度経度の関係を理解してレンダリング技術を利用することができる。		O p e n G L、レイトレーシング、ワイヤフレームといったレンダリング技術を使うことができる。	
評価項目3	レイアウトレイヤを利用して適切な比例と配置で図面をレイアウトしたプレゼンテーション図面を作成できる。作成した図面をプリンターの機能を理解して自力で出力できる。			所定の用紙に適切な縮尺と文字の大きさを整った図面配置でプレゼンテーション図面を作成出来る。		指定された図面に、レイアウトレイヤ機能を利用して図面を配置することができる。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (c) JABEE (d) JABEE (e) JABEE (f)							
教育方法等							
概要	建築 3 D C Gモデルの作成とプレゼンテーション図面の作成技術を修得する						
授業の進め方・方法	自宅学習のためCADソフトを個人のPCに導入しておくことが望ましい。 また個人所有のPCで演習が困難な場合は、学内の施設を利用して放課後等、各自自習を行うこと。						
注意点	4年次前期開講の建築設計演習の課題をもとに平面図、立面図、断面図、 3 D C Gを作成するため、課題の図面を準備する。 3 年次開講の建築 C A D演習の内容を理解しておく。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス・ 3 D C Gモデルの作成について		3 DCGモデルの作成について概要を理解する		
		2週	3 D C Gモデル作成方法についての講義		3 Dモデルの作成方法について理解する		
		3週	3 D C Gモデルの作成演習		3 Dモデルを作成できるようになる		
		4週	3 D C Gモデルの作成演習		3 Dモデルを作成できるようになる		
		5週	3 D C Gモデルの作成演習		3 Dモデルを作成できるようになる		
		6週	課題設計 CADを用いて平面図立面図を作成する。		CADを用いて課題設計を行う。平面図、立面図を作成する。		
		7週	CADを用いて平面図立面図を作成する。		平面図、立面図を作成する		
		8週	CADを用いて平面図立面図を作成する。		平面図、立面図の完成		
	4thQ	9週	平面図・立面図を利用した 3 Dモデルを作成する。		平面図、立面図から3次元モデルを作成できるようになる。		
		10週	平面図・立面図を利用した 3 Dモデルを作成する。		平面図、立面図から3次元モデルを作成できるようになる。		
		11週	平面図・立面図を利用した 3 Dモデルを作成する。		平面図、立面図から3次元モデルを作成できるようになる。		
		12週	平面図・立面図を利用した 3 Dモデルを作成する。		3 Dモデルの完成		
		13週	図面のレイアウトの考え方について プレゼンテーションソフトの利用方法		図面レイアウトについて理解する		
		14週	最終図面作成 プレゼンテーション作成		プレゼンテーション図面の作成		
		15週	図面発表		設計のプレゼンテーションを行う		
		16週	課題の解説・図面ファイルの提出 ポートフォリオの記入		ポートフォリオの記入		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	0	80	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40

分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20
---------	---	---	---	---	---	----	----

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	西洋建築史
科目基礎情報						
科目番号	0053		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	藤岡通夫他著「建築史」（市ヶ谷出版社）、日本建築学会編「西洋建築図集」（彰國社）					
担当教員	林田 義伸					
到達目標						
1) 西洋における建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す専門用語を示せること。 2) 西洋及び西洋の建築的發展に影響を及ぼした地域の、建築の様式や形式、その空間性に関して理解し、説明できること。 3) 西洋の建築史で学んだ知識を元にして、現代社会における建築の価値や意義について、独自の視点から論じることができること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	西洋における建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す専門用語を、それぞれ関連づけながら正確に示せる。		西洋における建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す主要な専門用語を示せる。		西洋における建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す専門用語が、判別できる。	
評価項目2	西洋及び西洋の建築的發展に影響を及ぼした地域の、建築の様式や形式について総合的に理解し、自己の考察を含めて説明できる。		西洋及び西洋の建築的發展に影響を及ぼした地域の建築の様式や形式について、総合的に理解して、説明できる。		西洋における建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す専門用語が、判別できる。	
評価項目3	西洋の建築史で学んだ知識と明確な関連性を示しながら、現代社会における建築の価値や意義について、独自の視点から論じることができる。		西洋の建築史で学んだ知識を元にして、現代社会における建築の価値や意義について、論じることができる。		西洋建築の価値や意義について、論じることができる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (a) JABEE (d) JABEE B2 学習・教育目標・サブ目標との対応 3-1 学習・教育目標・サブ目標との対応 3-3						
教育方法等						
概要	西洋の建築は、キリスト教文化や古典主義を中心軸として存在し続けるかたわら、各時代、各地域に様々な建築文化が形成され、発展してきた。この授業では、西洋建築ばかりでなく、西洋建築の発展に影響を及ぼした西洋周辺の建築文化も含んで、西洋の建築の様々な建築様式やその他の建築的特徴について理解する。					
授業の進め方・方法	世界史、特に西洋史の理解を必要とする。授業は、各学習項目に沿った内容の画像や文書を、プロジェクターで示しながら実施する。基本的に板書は行わないが、授業中にプロジェクターで提示するスライドは、授業担当者のHPに掲載している。					
注意点	準備学習として、西洋の歴史に関する授業等の復習をしておくこと。また、授業前には、教科書を読み、纏めておくこと。授業を受けた日には、必ず、復習し、自分なりにノートを整理しておくこと。自己学習の成果として、レポートを作成すること。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	古代エジプト建築		ピラミッドやエジプト神殿を中心に、エジプトの石造建築について理解する。	
		2週	古代オリエント建築		シュメールからアッシリア帝国の建築、新バビロニア、アケメネス朝ペルシャの建築について理解する。	
		3週	古代ギリシア建築		オーダーの意味を中心に、古代ギリシアの建築について理解する。	
		4週	古代ギリシア建築		古代ギリシア都市及びヘレニズムの建築について理解する。	
		5週	古代ローマ建築		都市施設や住宅建築を中心に、古代ローマ都市について理解する。	
		6週	古代ローマ建築		古代ローマ神殿やオーダーを中心に、古代ローマ建築について理解する。	
		7週	ビザンチン建築		古代ローマの伝統を受け継ぎ、東方世界において発展したキリスト教建築についてについて理解する。	
		8週	西洋古代を中心とした建築に関する試験		西洋古代を中心とした建築や都市計画などについて再確認する。	
	2ndQ	9週	イスラム建築		古代地中海世界の伝統を受け継ぎ、装飾性豊かな建築美を創り出したイスラム建築について理解する。	
		10週	ロマネスク建築		ヨーロッパ各地に起こったキリスト教建築を中心に、ロマネスク建築について理解する。	
		11週	ゴシック建築		フランスで成立し、フランスやイギリス等で発展したゴシック建築について理解する。	
		12週	イタリア近世の建築		イタリアで発生したルネサンス建築、それに続くマナリズム建築及び、バロック建築について理解する。	
		13週	各国近世の建築		イタリア近世建築の、フランスやイギリス等の諸国における影響について理解する。	
		14週	ロココ建築		バロック建築の室内装飾として発生したロココ様式について理解する。	

		15週	ネオ・クラシズムとそれ以降の建築		新しい古典主義的建築、中世に対する興味や異国趣味から発展したピクチャレスク建築、ネオ・クラシズム建築の考え方がいっそう発展し、末期的な症状を見せる様式建築について理解する。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	10	30
専門的能力	50	0	0	0	0	10	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	10	10

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	構造力学
科目基礎情報						
科目番号	0054		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年		4	
開設期	通年		週時間数		2	
教科書/教材	「図解入門 よくわかる構造力学の基本」、松本慎也 著、(株)秀和システム、2003年11月、「建築構造力学演習 改訂版」、藤谷義信・西村光正・森村毅・高松隆夫 共著、(株)培風館、2005年4月					
担当教員	板倉 和則					
到達目標						
仮想仕事法を理解し、静定構造物及び不静定構造物の変形を求めることができる。たわみ角法を理解し、節点が移動しない場合及び節点が移動する場合における不静定構造物の各部応力を求めることができる。固定法を理解し、節点が移動しない場合における不静定構造物の各部応力を求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	様々な形状の静定及び不静定構造物に対して、仮想仕事法を用いた解法により、構造物の変形量を求めることができる。		基本的な形状の静定及び不静定構造物に対しては、仮想仕事法により、変形量を求めることができる。		一部の静定及び不静定構造物に対しては、仮想仕事法による変形量の求め方を説明することができない。	
評価項目2	色々な形状の不静定構造物に対して、たわみ角法を用いた解法により、各部材の応力を求めることができる。		基本的な形状の不静定構造物に対しては、たわみ角法により、各部材の応力を求めることができる。		一部の不静定構造物に対しては、たわみ角法による各部材の応力の求め方を説明することができない。	
評価項目3	様々な形状の不静定構造物に対して、固定法を用いた解法により、各部材の応力を求めることができる。		基本的な形状の不静定構造物に対しては、固定法により、各部材の応力を求めることができる。		一部の不静定構造物に対しては、固定法による各部材の応力の求め方を説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d) JABEE B2						
教育方法等						
概要	複数の部材で構成される構造物に外力が作用した場合において、その構造物に発生する変形量、または、各部材に発生する応力を求める解法を理解し、構造設計を行うための基本を学習する。					
授業の進め方・方法	2年時、3年時で学んだ構造力学を復習して理解しておくこと。モデル化された架構に対して、実際の建築構造物を対比させながら学習すること。事前学習により、当該授業時間で進行する部分を予習しておくこと。自己学習として、各解法において、自ら例題を解いて復習すること。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 構造力学の基礎（復習）		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 構造物の節点と支点、構造物の分類（静定、不静定、不安定）、構造物の反力を説明出来る。	
		2週	構造力学の基礎（復習） 仮想仕事の原理		はり・ラーメンの応力図、トラス構造を説明することができる。 仕事の原理、仮想仕事の原理を説明することができる。	
		3週	直線部材の変形		たわみ曲線の微分方程式、モールの定理、エネルギー保存則、カスティリアノの定理を説明することができる。	
		4週	仮想仕事法による静定構造物の解法		静定ばりの変形（たわみ、たわみ角）を説明することができる。	
		5週	仮想仕事法による静定構造物の解法		静定ラーメンの変形（たわみ、たわみ角）を説明することができる。	
		6週	仮想仕事法による静定構造物の解法		静定ラーメンの変形（たわみ、たわみ角）を説明することができる。	
		7週	仮想仕事法による静定構造物の解法		静定トラスの変形（変位）を説明することができる。	
		8週	仮想仕事法による静定構造物の解法		静定トラスの変形（変位）を説明することができる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		試験により第8週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の確認を行うことができる。	
		10週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		11週	仮想仕事法による不静定構造物の解法		不静定ばりの解法を説明することができる。	
		12週	仮想仕事法による不静定構造物の解法		不静定ラーメンの解法を説明することができる。	
		13週	仮想仕事法による不静定構造物の解法		不静定ラーメンの解法を説明することができる。	
		14週	仮想仕事法による不静定構造物の解法		不静定トラスの解法を説明することができる。	
		15週	仮想仕事法による不静定構造物の解法		不静定トラスの解法を説明することができる。	
		16週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入を説明することができる。	
後期	3rdQ	1週	たわみ角法		たわみ角法の基本式を説明することができる。	
		2週	たわみ角法による不静定構造物の解法		節点が移動しない場合の説明をすることができる。	
		3週	たわみ角法による不静定構造物の解法		節点が移動しない場合の説明をすることができる。	
		4週	たわみ角法による不静定構造物の解法		節点が移動しない場合の説明をすることができる。	

		5週	たわみ角法による不静定構造物の解法	節点が移動する場合の説明をすることができる。
		6週	たわみ角法による不静定構造物の解法	節点が移動する場合の説明をすることができる。
		7週	たわみ角法による不静定構造物の解法	節点が移動する場合の説明をすることができる。
		8週	後期中間試験	試験により第7週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の確認を行うことができる。
	4thQ	9週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		10週	固定法	固定法の原理、基本計算法を説明することができる。
		11週	固定法による不静定構造物の解法（節点が移動しない場合）	柱・梁で形成される不静定構造物の解法を説明することができる。
		12週	固定法による不静定構造物の解法（節点が移動しない場合）	柱・梁で形成される不静定構造物の解法を説明することができる。
		13週	固定法による不静定構造物の解法（節点が移動しない場合）	柱・梁で形成される不静定構造物の解法を説明することができる。
		14週	固定法による不静定構造物の解法（節点が移動しない場合）	連続梁の解法を説明することができる。
		15週	固定法による不静定構造物の解法（節点が移動しない場合）	連続梁の解法を説明することができる。
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	レポート	合計	
総合評価割合		80	20	100	
知識の基本的な理解		60	10	70	
思考・推論・創造への適応力		20	10	30	
汎用的技能		0	0	0	
態度・志向性（人間力）		0	0	0	
総合的な学習経験と創造的思考力		0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	鋼構造学	
科目基礎情報							
科目番号	0055			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	「建築学構造シリーズ 建築鉄骨構造 改定3版」、松井千秋、編著、(株)オーム社、「建築鋼構造-その理論と設計-」井上一朗、吹田啓一郎 著、鹿島出版会						
担当教員	平田 光春						
到達目標							
鋼材の性質及び鋼構造の特徴を理解し、建築構造物に対して、適切な鋼材及び適切な部材断面を選定し、架構を組み立てることができる。各種の力（軸方向力、曲げモーメント、せん断力）を受ける柱材や梁材について部材の挙動を理解し、設計することができる。接合法（ボルト接合法、溶接接合法）を理解し、力の流れを考慮して、柱や梁の接合部を設計することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	多種多様な建築構造物に対して、適切な鋼材及び適切な部材を選定・配置することができる。			標準的な架構形式に対しては、適した鋼材と適した部材を選定・配置することができる。		基本的な鋼材及び部材に対しては、性質と特徴を説明することができない。	
評価項目2	色々な建築構造架構に対して、各種の力を受ける部材の挙動を説明することができ、適切な部材の設計ができる。			標準的な架構形式に対しては、部材の挙動を説明することができ、適した部材を設計することができる。		一部の構造形式に対しては、部材の挙動を説明することができない。	
評価項目3	様々な形状の接合部に対して、力の流れを考慮しながら適切な接合法を選定し、適切な接合部の設計ができる。			標準的な接合部に対しては、適した接合部を選定した上で、適した接合部の設計をすることができる。		一部の接合部に対しては、接合部の力の流れを説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (c) JABEE (d) JABEE B2							
教育方法等							
概要	我が国では主要な構造の1つである鋼構造に関して、鋼材の性質、設計用荷重・外力の算出、ボルト接合法及び溶接接合法、各種部材に発生する応力及び部材の設計、座屈に代表される鋼構造の特徴など、鋼構造に関する一連の内容を学習し、建築鉄骨構造物の設計を行うための基本を修得することを目的とする。						
授業の進め方・方法	2年時、3年時で学んだ構造力学を復習して理解しておくこと。特に断面の性質及び断面定数の算出については、十分に理解しておくこと。RC構造学で学習する内容と対比させながら、鋼構造の特徴について理解を深めること。事前学習により、当該授業時間で進行する部分を予習しておくこと。自己学習として、実際に建っている鉄骨造建物の各種部材及び各種接合部等を興味を持って確認し、立体的な形状で部材に発生する力を理解すること。						
注意点							
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業計画・内容の説明 建築鉄骨構造概論		授業計画・達成目標・成績の評価方法を理解する 歴史と現状、各種構造システム、構造性能と特徴、新構法と展望を説明出来る。		
		2週	構造計画と設計法		構造計画、設計用荷重・外力、設計判定条件、各種設計法の要点を説明出来る。		
		3週	鋼材の性質		製法、規格と種類、機械的性質、各種性能と機能鋼を説明出来る。		
		4週	圧縮材の曲げ座屈		オイラーの座屈荷重、座屈長さ、座屈応力度・細長比、H形断面圧縮材のねじれ座屈、曲げねじれ座屈を説明出来る。		
		5週	H形断面梁の横座屈 曲げと圧縮を受けるH形断面柱		横座屈、横座屈モーメント、曲げねじれ座屈、強度相関関係を説明出来る。		
		6週	補剛 板要素の局部座屈		圧縮材の補剛、梁・柱の補剛、幅厚比、板座屈係数を説明出来る。		
		7週	塑性解析法の基本		塑性解析の基本仮定、塑性ヒンジの概念、全塑性モーメント、塑性崩壊、塑性崩壊荷重と設計を説明出来る。		
		8週	軸方向力を受ける部材		各種引張・圧縮部材の断面形と特徴、引張材の挙動と設計、圧縮材の挙動と設計、筋かい材の挙動と設計を説明出来る。		
	2ndQ	9週	前期中間試験		試験により第8週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。		
		10週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入		
		11週	曲げモーメントとせん断力を受ける梁材		各種曲げ材の断面形と特徴、断面の応力分布、梁材の挙動、梁材の設計を説明出来る。		
		12週	曲げモーメントとせん断力を受ける梁材		各種曲げ材の断面形と特徴、断面の応力分布、梁材の挙動、梁材の設計を説明出来る。		
		13週	軸方向力と曲げモーメントを受ける柱材		各種柱材の断面形と特徴、断面の応力分布、柱材の挙動、柱材の設計を説明出来る。		
		14週	軸方向力と曲げモーメントを受ける柱材		各種柱材の断面形と特徴、断面の応力分布、柱材の挙動、柱材の設計を説明出来る。		
		15週	各種骨組の概要		骨組の種類と特徴、トラスの挙動と設計、ラーメンの挙動と設計、耐震要素付ラーメンの挙動と設計を説明出来る。		

後期	3rdQ	16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		1週	骨組の必要保有水平耐力	保有水平耐力と必要保有水平耐力、構造特性係数、ラーメン及びブレース付ラーメンの変形能力確保を説明出来る。
		2週	接合部の概要	各種接合部の構成と特徴、継手の挙動と設計、柱梁接合部の挙動と設計を説明出来る。
		3週	各種接合部の挙動と設計	引張ブレース接合部の設計、柱脚の挙動と設計、保有耐力接合の設計を説明出来る。
		4週	各種接合部の挙動と設計	引張ブレース接合部の設計、柱脚の挙動と設計、保有耐力接合の設計を説明出来る。
		5週	ボルト接合の基本事項	ボルトの種類と特徴、普通ボルト、高力ボルトを説明出来る。
		6週	ボルト接合部の挙動と設計	普通ボルトの場合、高力ボルトの場合を説明出来る。
		7週	ボルト接合の施工法と品質管理	普通ボルトの施工法と品質管理、高力ボルトの施工法と品質管理を説明出来る。
	4thQ	8週	後期中間試験	試験により第7週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。
		9週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		10週	溶接接合の基本事項	溶接の種類と特徴、溶接部の性質を説明出来る。
		11週	溶接継手の種類	完全溶込み溶接とすみ肉溶接、溶接記号を説明出来る。
		12週	溶接部の設計と強度計算	有効のど厚、有効長さ、許容応力度、許容耐力、溶接施工と品質管理を説明出来る。
		13週	溶接部の設計と強度計算	有効のど厚、有効長さ、許容応力度、許容耐力、溶接施工と品質管理を説明出来る。
		14週	建築鉄骨の製作技術と品質管理 鉄骨構造の地震と強風と積雪の被害	建築鉄骨の構造安全性、建築鉄骨の品質管理、鉄骨の製作と検査、鉄骨構造の地震被害、強風による被害、積雪による被害を説明出来る。
		15週	積雪荷重及び風圧力に対する安全確認	積雪荷重の設定及び安全性の確認、風圧力の設定及び安全性の確認、屋根ふき材等の耐風計算を説明出来る。
16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	定期試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
知識の基本的な理解	60	10	70
思考・推論・創造への適応力	20	10	30
汎用的技能	0	0	0
態度・志向性（人間力）	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	建築環境工学
科目基礎情報					
科目番号	0057		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	田中俊六・武田仁他2名著, 最新建築環境工学改訂 4 版(井上書院)				
担当教員	小原 聡司,中村 裕文,杉本 弘文,大岡 優,浅野 浩平				
到達目標					
1)単位や語句の定義がある程度説明できること。 2)関連する図表類を利用してある程度の予測や見積もり値を読み取れること。 3)簡易な手計算(関数電卓使用)である程度の予測や見積もり計算ができること。 4)その分野全体に関する重要事項をある程度説明できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低到達レベルの目安(可)
評価項目1	その数値にあった単位を正確に記述したり, 組み合わせができること。語句は必要十分な説明ができること。 その数値にあった単位を正確に記述したり, 組み合わせができること。語句は必要十分な説明ができること。		その数値にあった単位をある程度正確に記述したり, 組み合わせができること。語句はある程度の説明ができること。		助言があればその数値にあった単位に記述したり, 組み合わせができること。語句は助言があれば説明ができること。
評価項目2	関連する図表類を利用してある数値や見積もり値を正確に読み取れること。		関連する図表類を利用してある数値や見積もり値をある程度正確に読み取れること。		助言があれば関連する図表類を利用してある数値や見積もり値を読み取れること。
評価項目3	簡易な手計算(関数電卓使用)で正確に予測や見積もり計算ができること。		簡易な手計算(関数電卓使用)である程度正確に予測や見積もり計算ができること。		助言があれば簡易な手計算(関数電卓使用)である程度正確に予測や見積もり計算ができること。
評価項目4	その分野全体に関する重要事項をほぼ完全に説明でき, 文章の正誤問題や修正問題がほぼ正確に解答できること。		その分野全体に関する重要事項をある程度文章で説明でき, 文章型の正誤問題や修正問題がある程度正確に解答できること。		助言があればその分野全体に関する重要事項を文章で説明でき, 文章型の正誤問題や修正問題も解答できること。
学科の到達目標項目との関係					
JABEE (c) JABEE (d) JABEE B2					
教育方法等					
概要	建物周囲の自然環境を利用あるいは制御して, 建物内部の人間が安全かつ快適な生活を送ることができるような技術に関する知識を得, 設計において環境を考慮した計画ができるようになること。同時に, 各種の図表を利用した演習に関数電卓を利用して解くことにより, 建築環境の定量的評価が正確にできるようになること。				
授業の進め方・方法	講義内容の理解度や応用性を高めるため, ほぼ毎時間, 作図や計算機を使った例題や演習を行うので, 常に目盛り付き定規及び計算機(できればプレイバック機能付き電卓かポケコンが望ましい。)を持参すること。 準備学習としてシラバスに沿った教科書該当分野の予習をすること。さらに自己学習としてほぼ毎回の課題があるので, これを提出すること。これらは事後学習として評価する。				
注意点					
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 授業計画の説明	ガイダンス 風土と建築 気候と気象, 気温と湿度の関係, 雨雪湿度の関係等について説明できる。ヒートアイランドや空気汚染, 都市環境の形成について説明できる。	
		2週	2. 採光照明 2-1 照明 照明の目的と種類, 方法を理解する。赤外線, 紫外線を学ぶ。		
		3週	2-2 光と視覚, 表色・色彩 光の定義と可視範囲を理解する。測光量単位。色の表し方を知る。	視覚と光の関係を説明できる。 明視とグレア現象を説明できる。 表色系及び色彩計画の概念を説明できる	
		4週	2-4 照度計算 直接照度, 間接照度の計算式を理解し, 点・線・面光源による直接照度を計算する。	照明計算ができる。	
		5週	同上		
		6週	2-5 採光窓の特性と関連法規 立体角投射の法則や錐面積分の法則を理解し, 垂直窓と天窓の採光特性の違いを理解する。明視, 各種グレアを学ぶ。		
		7週	2-6 採光窓の必要面積 その1 法規で定められた必要窓面積を算出する。		
		8週	2-7 採光窓の必要面積 その2 必要窓面積を算出し, 採光計画を考える。		
	2ndQ	9週	前期中間試験		

後期		10週	前期中間試験の返却と解説，訂正作業，ポートフォリオの記入	
		11週	2-8 照明計算 光束法を用いた人工照明器具の配置計画を行う。	採光および採光計画について説明できる 人工照明について説明できる 照明計画(および照度計算)ができる
		12週	3. 日照・日射 3-1 太陽と日照・日射 気候と気象における日照と日射の影響(風)，可視光紫外線との違いを理解する。また天球上における太陽の位置の概念を理解する。	日照と日射，紫外線，および可視光線について説明できる
		13週	3-2 時刻系 地点と太陽位置を表すのに不可欠な時刻系の概念について理解し，特定の時刻を真太陽時・平均太陽時・中央標準時で表す。	
		14週	3-3 任意の日時における太陽位置の計算 太陽位置図を利用した位置の特定	
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験の返却と解説，訂正作業，ポートフォリオの記入	
	3rdQ	1週	3-4 日照と日影 日影曲線・日影図・日影時間図を作図して太陽の動きを把握する。	時間別の日影図を描くことができる。
		2週	3-5 日差し曲線 日差し曲線を利用した日照時間の求め方を理解する。ブロック状の簡易な形状物体の陰影を描ける。	
		3週	3-6 日射熱量計算 任意の日・任意の方位・任意の傾斜面の日射量計算を計算する	建設地と太陽位置について説明できる。
		4週	同上	
		5週	3-7 日射量と日照調整 季節・方位毎の日射特性を理解し，それを利用制御するパッシブデザイン方法を学ぶ。ヒートアイランド，緑化手法を理解する。	日照および日射の調整方法について説明できる。
		6週	4. 換気と通風 4-1 空気の質と換気 居室空気の汚染，室内空気基準について理解する。	空気汚染の種類と室内空気環境基準について説明できる。
		7週	4-2 換気方法と空気の汚染 空気質を悪化させる原因を理解する。	自然換気と機械換気について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	前期中間試験の返却と解説，訂正作業，ポートフォリオの記入	
		10週	4-3 必要換気量の計算 人間の生存・燃焼器具の正常作動・人の快適性を考慮した必要換気量の計算を行う。	必要換気量について計算できる。
		11週	同上	
		12週	4-4 自然換気量の計算 圧力の単位について理解し，風力換気と重力換気量を計算する。	
		13週	4-5 圧力損失 機械換気時の摩擦抵抗と形状抵抗について理解し，圧力損失を計算する。	
		14週	同上	
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	定期試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他(レポート)	合計
総合評価割合	67	0	0	0	0	33	100
知識の基本的な理解	10	0	0	0	0	11	21
思考・推論・創造への適応力	20	0	0	0	0	11	31
汎用的技能	37	0	0	0	0	11	48

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築学研究	
科目基礎情報							
科目番号	0058			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	林田 義伸,原田 志津男,加藤 巨邦,小原 聡司,中村 孝至						
到達目標							
1) 4年次後半からの進路選択・進路実現の動機付けや就職試験対策をある程度整える. 2) 5年次の卒業研究(論文・設計)や研究室選択に必要な基礎的知識・情報を得る. 3) 社会人として必要な態度やコミュニケーション能力の重要性を理解する.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	4年次後半からの進路選択・進路実現の動機付けや就職試験対策を整えることができた.			4年次後半からの進路選択・進路実現の動機付けや就職試験対策をある程度整えることができた.		4年次後半からの進路選択・進路実現の動機付けや就職試験対策に着手できた	
評価項目2	5年次の卒業研究(論文・設計)や研究室選択ができた.			5年次の卒業研究(論文・設計)や研究室選択に必要な基礎的知識・情報を得ることができた.		5年次の卒業研究(論文・設計)や研究室選択に必要な基礎的知識・情報に触れることができた.	
評価項目3	社会人として必要な態度やコミュニケーション能力を獲得することができた.			社会人として必要な態度やコミュニケーション能力の重要性を理解することができた.		社会人として必要な態度やコミュニケーション能力にふれることができた.	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (a) JABEE (b) JABEE (c) JABEE (d) JABEE (e) JABEE (f) JABEE (g) JABEE (h) JABEE B2							
教育方法等							
概要	就職・進学・公務員試験対策,卒業研究の前準備,卒業研究の報告会参加を通して,4年次後半 から始まる進路の選択と5年次の卒業研究の選択のための準備を整える.						
授業の進め方・方法	1)進路対策で`取り扱う事項は一般的な内容なので`, 具体的な対策については各自で`過去の求人 実績・進学実績(学科事務室に資料あり)を調べ`て研究を行うこと. 2)最近の卒業研究のテーマについて調べ`ておくこと.						
注意点	進路対策(1)						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	研究室の説明				
		2週	研究室ゼミ(1)				
		3週	研究室ゼミ(2)				
		4週	研究室ゼミ(3)				
		5週	研究室ゼミ(4)				
		6週	研究室ゼミ(5)				
		7週	研究室ゼミ(6)				
		8週	研究室ゼミ(7)				
	4thQ	9週	研究室ゼミ(8)				
		10週	研究室ゼミ(9)				
		11週	研究室ゼミ(10)				
		12週	卒業研究報告会の聴講				
		13週	進路対策(1)				
		14週	進路対策(2)				
		15週	進路対策(3)				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	50	50
専門的能力	0	0	0	0	0	50	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	校外実習	
科目基礎情報							
科目番号	0059		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	大岡 優						
到達目標							
1.実習先で` 求められる実習内容を概ね理解し,実行する. 2.企業・研究機関の現場の知識,技術を体験し,技術者としての倫理観を育成する. 3.企業・研究機関の現場で` 専門知識・技術が` と` のように活かされているかを認識する. 4.実習の内容についてまとめた報告書を作成する.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	実習先で求められる実習内容を理解し, 実行できた.		実習先で` 求められる実習内容を概ね理解し,実行できた.		実習先で求められる実習内容を実行できた.		
評価項目2	企業・研究機関の現場の知識技術を体験し, 技術者としての倫理観を確立できた.		企業・研究機関の現場の知識,技術を体験し,技術者としての倫理観を育成できた.		企業・研究機関の現場の知識技術を体験できた.		
評価項目3	企業・研究機関の現場で専門知識・技術がどのように生かされているかを体得できた.		企業・研究機関の現場で` 専門知識・技術が` と` のように活かされているかを認識できた.		企業研究機関の現場で専門知識・技術を見学した.		
評価項目4	実習の内容について理解し, まとめた報告書を作成できた.		実習の内容についてまとめた報告書を作成できた.		実習の感想を報告書に記載できた.		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1)建築資材の生産や建築物の組立工程に用いられる現場の知識や技術を実際に体験し,職業観と技術者倫理観の育成を図る. 2)専門知識・技術が` 現場で` と` のように活かされているかを認識し,今後の学習の目標と計画策定の参考とする.						
授業の進め方・方法	実習中は実習先のルールを遵守し,安全面に注意を払うこと. 学生らしい真摯で` 積極的な態度で` 与えられたテーマに取り組むこと. 定められた実習期間を守り,無断欠席・遅刻など` しないこと. 実習後に研修内容をまとめた報告書を担当教員に提出すること.						
注意点							
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	校外実習				
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	34	34
専門的能力	0	0	0	0	0	33	33
分野横断的能力	0	0	0	0	0	33	33

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	国際文化論 I	
科目基礎情報							
科目番号	0043		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年		5		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	新版 アクティブ・ドイツ語		清水薫・中島耕太郎	同学社	新キャンパス独和辞典 (郁文堂)		
担当教員	飯尾 高明						
到達目標							
1)辞書を用いてドイツ語文を理解することができる。 2)辞書を用いずにドイツ語文を正確に音読できる。 3) ドイツ語を用いて簡単な意思の疎通を図ることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		学習した文法内容を完全に理解でき、ドイツ語文解釈の際に使いこなすことができる。		学習した文法事項を理解してその基礎の上にドイツ語文の内容を大筋で理解できる。		単語レベルの和訳を辞書を用いて行える。	
評価項目2		辞書を用いずに未知の単語が用いられたドイツ語文よどみなく発音できる。ドイツ語と英語の語彙の歴史的関連が理解できる。		ドイツ語の短文を辞書なしで概ね正確に発音できる。		ドイツ語のアルファベートの音価を理解し単語レベルでの発音ができる。	
評価項目3		教科書記載のドイツ語文を音声で聞いて内容を理解できる。		教科書記載のドイツ語文を音声で聞いておおむね内容を理解できる。		教科書記載のドイツ語文を音声で聞いて単語レベルで聞き取ることができる。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (a) JABEE (f) JABEE C4							
教育方法等							
概要	ドイツ語による基本的なコミュニケーションに必要な文法事項を習得するとともに、ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ文化の多様な側面に触れ、異文化理解の一助とする。						
授業の進め方・方法	前年度選択ドイツ語で用いた教科書を継続して使用する。授業には辞書を持参すること。4年時でドイツ語を履修済みであることが求められる。授業には必ず、指定の教科書、辞書、配布されたプリントを持参すること。後期中間試験を実施する。教科書に付随するCDであらかじめ音声聞き取り練習しておくこと。						
注意点	後期中間試験を実施する。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 Lektion 7 外出				
		2週	Lektion 7 外出 前置詞				
		3週	Lektion 7 外出 前置詞				
		4週	Lektion 8 希望・可能・許可・意志 話法の助動詞				
		5週	Lektion 8 希望・可能・許可・意志 話法の助動詞				
		6週	Lektion 8 希望・可能・許可・意志 話法の助動詞				
		7週	Lektion 8 希望・可能・許可・意志 未来形				
		8週	Lektion 8 希望・可能・許可・意志 未来形				
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説				
		10週	Lektion 9 色、日付 形容詞の格変化、序数				
		11週	Lektion 9 色、日付 形容詞の格変化、序数				
		12週	Lektion 9 色、日付 形容詞の格変化、序数				
		13週	Lektion 10 比較表現 比較変化・非人称表現・不定代名詞				
		14週	Lektion 10 比較表現 比較変化・非人称表現・不定代名詞				
		15週	Lektion 10 比較表現 比較変化・非人称表現・不定代名詞				
		16週	前期末試験 試験答案の返却及び解説				
後期	3rdQ	1週	Lektion 11 時刻の言い方 分離動詞・非分離動詞・時刻				
		2週	Lektion 11 時刻の言い方 分離動詞・非分離動詞・時刻				

		3週	Lektion 11 時刻の言い方 分離動詞・非分離動詞・時刻	
		4週	Lektion 12 過去の出来事、経験 動詞の3基本形・完了形	
		5週	Lektion 12 過去の出来事、経験 動詞の3基本形・完了形	
		6週	Lektion 12 過去の出来事、経験 動詞の3基本形・完了形	
		7週	Lektion 12 過去の出来事、経験 過去形・zu不定詞	
		8週	Lektion 12 過去の出来事、経験 過去形・zu不定詞	
	4thQ	9週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	
		10週	Lektion 14 約束 再帰動詞・従属接続詞	
		11週	Lektion 14 約束 再帰動詞・従属接続詞	
		12週	Lektion 15 図書館の話 関係代名詞	
		13週	Lektion 15 図書館の話 関係代名詞	
		14週	Lektion 16 新しい勤め先 受動態	
		15週	Lektion 16 新しい勤め先 受動態	
		16週	学年末試験 試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	国際文化論Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0044		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	第一学習社 『グローバルワイド最新世界史図表』					
担当教員	田村 理恵					
到達目標						
1) 現在世界各地で起こっている問題には歴史的背景があり、地域によって考え方が異なることを理解する。 2) 講義で取り扱う宗教の特徴を理解する。 3) 国際問題について自分の意見を述べるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地域によって事象の捉え方も異なっており、それは歴史的に長い時間をかけてつくられてきたものである事が理解できる。		地域の特性とその要因となった歴史的事項が結びついている。		基本的な歴史的出来事が分かる。	
評価項目2	世界的な宗教が人々に及ぼしている影響と宗教の相互関係を理解する。		世界的に広まっている宗教を理解し、それが影響を大きく及ぼす範囲を理解する。		基本的な宗教の考え方が分かる。	
評価項目3	国際問題を民族問題、宗教問題を絡めながら解説でき、自分なりの意見を人に分かるように説明できる。		国際的な問題を歴史的背景から理解し、それを歴史用語も使用しながら書くことができる。		基本的な用語が分かり、記述できる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (a) JABEE C1						
教育方法等						
概要	交通、通信の発達により、現在は海外との交流も活発になってきている。しかし、必ずしもそれが相互理解をともなっているわけではない。そこで、本授業では、日本人にはこれまでなじみの少なかった民族、国家、宗教に焦点をしぼり、それらの言葉がどのような背景をもっているのか、それらがなぜ現在問題となっているのかを理解し、それらについて議論できるようにする。					
授業の進め方・方法	基本的には講義形式で行うが、学生同士の討論も行う。					
注意点	1) 自分でノートをしっかり取ること。 2) 提出期限は守ること。 3) 現在の世界情勢に関心を持ち、その事実と背景を知ろうという姿勢で臨むこと。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 国民国家の起源 (1)		民族とはどういうものかがわかる。	
		2週	国民国家の起源 (2)		国民国家が形成される以前のヨーロッパにはどのような国家があったのかを理解する。	
		3週	国民国家の起源 (3)		国民国家の形成の過程をフランスを例に理解する。	
		4週	日本での国民国家の形成 (1)		近世以前の日本と外国との関係を理解する。	
		5週	日本での国民国家の形成 (2)		ヨーロッパをモデルとした日本の明治期の国家形成を理解する。	
		6週	日本での国民国家の形成 (3)		国民国家としての日本と国民や周辺国との関係を理解する。	
		7週	多民族国家		多民族国家にはいくつかのパターンがあることを知る。	
		8週	多民族国家としてのアメリカの形成 (1)		建国時のアメリカは「国民国家」であったことを理解する。	
	2ndQ	9週	多民族国家としてのアメリカの形成 (2)		多民族国家としてのアメリカの形成過程を理解する。	
		10週	多民族国家としてのアメリカの形成 (3)		アメリカの現在の「人種問題」を理解し、自分の意見を表明できる。	
		11週	バルカン半島諸国 (1)		中世までのバルカン半島の歴史を見て、様々な民族、宗教、文化があることを知る。	
		12週	バルカン半島諸国 (2)		近世以降のバルカン半島が置かれた国際情勢を理解する。	
		13週	バルカン半島諸国 (3)		近年のバルカン半島で起こった国家の分裂過程とその原因を理解する。	
		14週	国家と民族の関係のまとめ		国民国家、多民族国家を理解する。	
		15週	期末試験		これまでの確認	
		16週	期末試験の解答とレポートの解説		前期の確認	
後期	3rdQ	1週	宗教の役割		宗教の果たす役割を理解する。	
		2週	仏教		仏教の歴史と簡単な教義を理解する。	
		3週	ユダヤ教 (1)		ユダヤ教の歴史と簡単な教義を理解する。	
		4週	ユダヤ教 (2)		ユダヤ教の歴史と簡単な教義を理解する。	
		5週	キリスト教 (1)		キリスト教の歴史と簡単な教義を理解する。	
		6週	キリスト教 (2)		キリスト教の歴史と簡単な教義を理解する。	

		7週	イスラム教（１）	イスラム教の歴史と簡単な教義を理解する。
		8週	イスラム教（２）	イスラム教の歴史と簡単な教義を理解する。
	4thQ	9週	イスラム教（３）	イスラム教とキリスト教の関係を理解する。
		10週	中東問題（１）	中東での様々な問題に宗教が関係していることを理解する。
		11週	中東問題（２）	シオニズムの考え方を知る。
		12週	中東問題（３）	シオニズム運動の活発化とヨーロッパの関係を理解する。
		13週	中東問題（４）	パレスチナ問題を理解する。
		14週	中東問題（５）	パレスチナ問題が周辺国に与える影響を知る。
		15週	学年末試験	後期の確認
		16週	学年末試験の解答とレポートの評価	評価の確認と授業のまとめ

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	5	0	45	100
基礎的能力	35	0	0	5	0	30	70
専門的能力	15	0	0	0	0	15	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	産業財産権法
科目基礎情報					
科目番号	0046		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なるほど図解特許法のしくみ (第3版) , 中央経済、「平成27年度知的財産権制度説明会 (初心者向け) テキスト」 (特許庁) http://www.jpo.go.jp/oshirase/event/setumeikai/setumeikai-text/index.html 、特許庁「平成27年度知的財産権制度説明会 (実務者向け) テキスト」 (特許庁) web同上				
担当教員	新城 裕司				
到達目標					
(1) 知的財産制度を理解することができること。 (2) 特許情報を検索し、特許書類が読めるようになること。 (3) パテントコンテスト、デザインパテントコンテストに参加すること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	知的財産制度を理解し、知的財産に関連する時事の話題について自分で説明することができる。		知的財産制度を理解し、知的財産に関連する時事の話題について説明を受けて理解することができる。		知的財産制度の一部分は理解できる。その部分についての時事の話題について説明を受けて理解することができる。
評価項目2	自分で特許情報を検索し、特許書類記事項の記載目的、意味を理解しながら読むことができる。		自分で特許情報を検索し、特許書類を読み、内容を把握することができる。		自分で特許情報を検索し、特許書類を読み、補助を受けることによって内容を把握することができる。
評価項目3	パテントコンテストまたはデザインパテントコンテストへの応募を独力で行うことができる。		パテントコンテストまたはデザインパテントコンテストへの応募を補助を受けて行うことができる。		パテントコンテストまたはデザインパテントコンテストへの応募を補助的立場で行う。
学科の到達目標項目との関係					
JABEE (b) JABEE (d) JABEE C2					
教育方法等					
概要	「産業財産権」 (特許権、実用新案権、意匠権及び商標権) を中心に知的財産権法制を理解する。またこれらの権利を取得するための手段・手続きについて学び、理解を深める。				
授業の進め方・方法	一般科目の「法学」を受講し、法制度に関する基礎的な知識を有していることを履修の条件とする。これに加えて、知的財産に対する関心をもっていることが望ましい。「法学」で学習した法律の考え方、民法関連知識を復習すること。知的財産に関連した時事の話題に関心を持ち、自己学習として調べること。				
注意点					
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 1. 知的財産権の概要	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 知的財産保護制度の必要性、権利の意義と種類、知的財産の性質、知的財産の歴史	
		2週	2. 特許法 2-1. 特許法概要	特許法概要	
		3週	2-2. 発明	発明の定義、発明の対象、発明者、職務発明	
		4週	2-2. 発明	発明の定義、発明の対象、発明者、職務発明	
		5週	2-3. 特許手続	特許出願手続、出願審査、出願公開	
		6週	2-3. 特許手続	特許出願手続、出願審査、出願公開	
		7週	2-4. 特許権と権利侵害対応	権利の効力、権利の活用、権利の侵害、民事的救済、刑事罰	
		8週	2-4. 特許権と権利侵害対応 3. 実用新案法	保護対象、手続、特許との相違	
	2ndQ	9週	前期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
		10週	4. 特別講義	外部講師による特別講義	
		11週	5. 特許情報 5-1. 明細書	明細書の読み方、書き方	
		12週	5-1. 明細書	明細書の読み方、書き方	
		13週	5-1. 明細書	明細書の読み方、書き方	
		14週	5-2. 特許検索	特許検索システムの使い方	
		15週	5-2. 特許検索	特許検索システムの使い方	
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	6. 意匠法 6-1. 保護対象と手続	保護対象、権利取得のための手続	
		2週	6-1. 保護対象と手続 6-2. 意匠権	保護対象、権利取得のための手続 意匠権の効力と侵害への対応	
		3週	6-2. 意匠権	意匠権の効力と侵害への対応	
		4週	7. 商標法 7-1. 保護対象と手続	保護対象、権利取得のための手続	

		5週	7-1. 保護対象と手続 7-2. 商標権	保護対象，権利取得のための手続 商標権の効力と侵害への対応
		6週	7-2. 商標権	商標権の効力と侵害への対応
		7週	8. 不正競争防止法	保護対象，救済措置，罰則
		8週	9. 種苗法	保護対象，権利の効力
	4thQ	9週	後期中間試験 試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		10週	10. 著作権法	保護対象，権利の効力
		11週	10. 著作権法	保護対象，権利の効力
		12週	11. 関連する条約	特許，意匠，商標に関する国際条約の概要
		13週	12. 事例検討 12-1. プログラム，データベースと知的財産権	プログラムとデータベースの保護
		14週	12-2. インターネットと知的財産権	インターネット利用に関わる知的財産権
		15週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	合計
総合評価割合	100	100
知識の基本的な理解	60	60
思考・推論・創造への適応力	0	0
汎用的技能	20	20
態度・志向性（人間力）	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	20	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	保健体育
科目基礎情報						
科目番号	0047		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	永松 幸一,松元 博子,瓜田 吉久					
到達目標						
1) 自己の能力・適性や興味・関心に合ったスポーツ種目を選択している。 2) 生涯にわたってスポーツ活動や心身の健康の維持増進を実践できる能力を身につけている。 3) 主体的にスポーツ活動の計画および実践・運営を行うことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	スポーツ種目のルール等を理解し、積極的に身体を動かすことができる。		選択したスポーツ種目の活動に全期間を通して参加し、技能を上達することができる。		選択したスポーツ種目の活動に数回は参加することができる。	
評価項目2	スポーツ活動の技能や体力の向上について、自己評価ができる。		協力してスポーツ活動の準備ができる。		スポーツ活動の見学はできる。	
評価項目3	スポーツ種目のトレーニング方法を提案することができる。		施設や天候等にに合わせて、スポーツ活動の変更を行うことができる。		協力してスポーツ活動を行うことはできる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	自己の健康や体力に対する意識を高め、能力・適性や興味・関心に応じてスポーツや運動を選択し、生涯にわたって継続して実践できる能力や態度を育成する。健康や安全に十分留意して、ゲームや試合の仕方等を工夫するなど、主体的に企画・運営にも取り組むことができるようにする。					
授業の進め方・方法	選択したスポーツや運動、利用施設に適したスポーツウェアやシューズを準備すること。今までのスポーツや運動の経験をもとに、授業で取り組む種目を選択できるようにしておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		自己の能力・適性や興味・関心に合ったスポーツ種目を1つ選択する（学内における施設を利用し、ソフトボール・サッカー・テニス・バスケットボール・バレーボール・バドミントン等の中から1つ選択する）。	
		2週	スポーツテスト		低学年時より実施している新体力テストを行う。	
		3週	スポーツテスト		低学年時より実施している新体力テストを行う。	
		4週	選択種目別の活動		オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。	
		5週	選択種目別の活動		オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。	
		6週	選択種目別の活動		オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。	
		7週	選択種目別の活動		オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。	
		8週	選択種目別の活動		オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。	
	2ndQ	9週	選択種目別の活動		オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。	
		10週	選択種目別の活動		オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。	

		11週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。
		12週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。
		13週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。
		14週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。
		15週	選択種目別の活動	オリエンテーション時に選択した種目別に活動する。その種目における個人的・集団的技能の習得や向上を図る。また、試合形式あるいは簡易的なゲーム形式で実施し、体力や技能に応じて試合やゲームの仕方を工夫しながら主体的に取り組む。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	活動状況および成果	合計
総合評価割合	0	0	0	20	0	20	60	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	20	40
専門的能力	0	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	20	0	0	0	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	意匠CAD演習	
科目基礎情報							
科目番号	0049			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	中村 裕文						
到達目標							
1)CADの製図機能, 3 Dモデル作成機能を理解し活用できる. 2)CADを用いた基本的な建築設計手法を理解し活用できる 3)CADを用いた建築設計プレゼンテーション図面の作成ができる.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	C A Dで基本設計から, プレゼンテーション図面まで一貫して作成することが出来る			C A Dで建築物の基本設計から, 平面図, 立面図, 断面図, 透視図作成まで行うことができる.		CADで建築設計をおこなえない.	
評価項目2	複雑な形状をした3 Dモデルを作成することが出来る. また複雑な形状をした建築3 D C Gモデルを作成できる.			建築の平面図, 立面図をもとに建築物の3 D C Gモデルを作成することが出来る.		3 Dモデルの作成ができない.	
評価項目3	プレゼンテーションソフトで分かり易く, 整った資料を作成し, 適切に説明することができる.			プレゼンテーションソフトで設計趣旨を適切に説明することができる.		プレゼンテーションを作成・実施できない.	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (c) JABEE (d) JABEE (e) JABEE (f) JABEE B2							
教育方法等							
概要	建物の設計を通して、コンピュータを利用したプレゼンテーションのための技術を習得する。						
授業の進め方・方法	自宅学習のためCADソフトを個人のPCに導入しておくことが望ましい, また個人所有のPCで演習が困難な場合は、学内の施設を利用して放課後等、各自自習を行うこと。						
注意点	3年次のCADの基本的な作図機能, 編集機能について復習し, 理解しておくこと. 授業の進行にあたりCAD/CG用語を使用するため, それらの用語について事前に調べておくこと.						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス コンピュータを用いた建築設計について		課題を通してCADを用いた設計手法について講義・演習する.		
		2週	設計の基本となる敷地図の作成にあたり, 地図をCADに取り込んで敷地図を作成する方法について講義する.		地図を利用して敷地図を作成できるようになる.		
		3週	CADを用いた平面計画エスキース作成から平面図の作成方法について講義し課題設計を実施する.		CADで平面設計を実施できるようなる.		
		4週	CADを用いた平面計画エスキース作成から平面図の作成方法について講義し課題設計を実施する.		CADで平面設計を実施できるようなる.		
		5週	CADを用いた平面計画エスキース作成から平面図の作成方法について講義し課題設計を実施する.		CADで平面設計を実施できるようなる.		
		6週	建築の3Dモデルを作成する		建築3 Dモデルの作成		
		7週	建築の3Dモデルを作成する		建築3 Dモデルの作成		
		8週	建築の3Dモデルを作成する		建築3 Dモデルの作成		
	2ndQ	9週	図面のレイアウトの考え方について プレゼンテーションソフトの利用方法		プレゼンテーションソフトの利用方法を理解する.		
		10週	図面のレイアウトの考え方について プレゼンテーションソフトの利用方法		プレゼンテーション図面を完成する		
		11週	図面のレイアウトの考え方について プレゼンテーションソフトの利用方法		プレゼンテーション図面を完成する		
		12週	最終図面作成 プレゼンテーション作成		プレゼンテーションを完成する		
		13週	最終図面作成 プレゼンテーション作成		プレゼンテーションを完成する		
		14週	完成した図面をもとにプレゼンテーションファイルを作成し, プレゼンテーションを実施する.		プレゼンテーションを実施する		
		15週	完成した図面をもとにプレゼンテーションファイルを作成し, プレゼンテーションを実施する.		プレゼンテーションを実施する		
		16週	課題の解説・図面ファイルの提出 ポートフォリオの記入		ポートフォリオの記入		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	都市計画学	
科目基礎情報							
科目番号	0050			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	都市計画、日笠瑞・日端康雄、共立出版株式会社						
担当教員	中村 裕文						
到達目標							
1)都市計画の主要思潮の考えかたを理解する。 2)主要な都市計画思潮と現代の都市計画の関係を理解する。 3)現代都市計画の諸問題について説明できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	過去に実施された都市計画の事例と計画者を挙げてその対象となった都市と特徴を述べることができる。			過去に実施された都市計画の事例を挙げて特徴を述べるができる。		過去に実施された都市計画の事例を挙げて特徴を述べるができない。	
評価項目2	現在の都市計画手法と過去の都市計画手法を比較してその類似点と相違点、問題点をあげて検討することができる。			現在の都市計画手法と過去の都市計画手法をあげて類似点を説明することができる。		現在の都市計画手法と過去の都市計画手法をあげて類似点を説明することができない。	
評価項目3	都城市の都市計画について、その特徴と問題点について説明することができる。			現代日本の都市計画事例を挙げて特徴を問題点を説明することができる。		現代日本の都市計画事例を挙げて特徴を問題点を説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (a) JABEE (b) JABEE (d) JABEE B2							
教育方法等							
概要	近代都市計画の主要思潮を通して都市・環境の考え方を学ぶ。						
授業の進め方・方法	現代都市計画に影響を与えた主要な都市計画思潮を中心に講義を行うため、都市計画の背景となった時代背景、都市に関する考え方、時代的な思潮などをあらかじめ予習しておくこと。						
注意点	ルネサンス以降の主要な都市計画について現代の都市計画に影響の大きいものを中心に講義を行うため、現代の都市計画との対応を確認すること。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義概要の説明。都市計画とは何を対象とした講義か、都市計画の流れを解説する。		都市計画の思潮を理解する		
		2週	ルネサンス期以降の宗教・王権・主権などの権威を象徴する都市デザインの系譜を学び、形態論に基づいた都市計画について学ぶ。		形態論の都市計画について理解する。		
		3週	ルネサンス期以降の宗教・王権・主権などの権威を象徴する都市デザインの系譜を学び、形態論に基づいた都市計画について学ぶ。		形態論の都市計画について理解する。		
		4週	形態論に基づいた都市計画の特徴と問題点についてまとめ、都市計画の中心的位置から退いていった理由を学ぶ		形態論の都市計画について理解する		
		5週	19世紀初頭の社会思想家によって提案された「理想都市」(ユートピア)の概要と、その後の都市計画に与えた影響について学ぶ。		形態論から機能論への遷移と機能論の都市計画を理解する。		
		6週	ルドー、フーリエ、ガルニエなどの提案した理想都市の考え方と現代都市計画への影響を検証する。		機能論の都市計画を理解する。		
		7週	オースマンのおこなったパリの再開発のを通じて産業化時代の都市問題とその解決手法について学ぶ。		機能論の都市計画を理解する		
		8週	前期中間試験		学習の理解度を確認する		
	2ndQ	9週	試験問題の解説及びポートフォリオの記入		ポートフォリオの記入、機能論の都市計画を理解する。		
		10週	E.ハワードの提案した田園都市を中心にデザインと機能のバランスがとれた都市開発の可能性を追求した都市計画家のグループの主張について学ぶ。		田園都市論と、その影響について理解する		
		11週	コルビジエ、ライト、その他の現代都市計画影響を与えた建築家による都市計画について学ぶ。		近代建築家による都市計画の意味と影響を理解する。		
		12週	明治期の日本の都市計画と現代都市の事例を学び、都市計画の事業手法とまちづくりについて学ぶ。		明治期の日本の都市計画を理解する。		
		13週	大正から昭和初期の都市計画について学ぶ		大正から昭和期の日本の都市計画を理解する。		
		14週	現代の日本の都市計画について学ぶ		現代日本の都市計画を理解する		
		15週	前期末試験		学習の理解度を確認する。		
		16週	中間試験の解説 ポートフォリオの記入		ポートフォリオの記入		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	地域計画学	
科目基礎情報							
科目番号	0051			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	都市計画、日笠瑞・日端康雄、共立出版株式会社						
担当教員	中村 裕文,蒲牟田 健作,亀田 明彦						
到達目標							
1)都市計画の考えかたを理解する。 2)主要な都市計の手法を理解する。 3)都市計画法制度とその活用について理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	都市計画基本法の枠組みと調査方法について説明でき、立案実現の方法について説明することができる			都市基本計画の枠組みについて説明できる。		都市計画の枠組みを説明できない	
評価項目2	土地利用計画、都市交通計画、公園緑地計画、都市施設計画、都市環境計画について説明することができる。			土地利用計画、都市交通計画、公園緑地計画について説明することができる。		各種計画について説明できない	
評価項目3	都市計画制度と土地利用規制を活用した都市計画手法について説明することができる。			土地利用規制について説明することができる。		土地利用規則について説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (a) JABEE (b) JABEE (d)							
教育方法等							
概要	都市計画の手法と考え方について学ぶ。						
授業の進め方・方法	教科書を中心として講義をおこなう。						
注意点	都市計画学で取り上げられたルネサンス期から現在までの都市計画手法について理解しておくこと 5年前期開講科目である都市計画学を履修すること。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	計画の要件、立案方式、区域設定、目標設定について解説する 都市計画立案のための調査手法について方法と実例を学ぶ		都市計画についての実例から計画立案の要項を理解する。		
		2週	基本都市計画の立案の方法と、その実現のためのプログラムについて学ぶ		基本計画の立案方法を理解する。		
		3週	ロンドン、パリ、ニューヨーク、ワシントン、東京の事例で大都市圏の計画について学ぶ。		大都市圏の計画について理解する。		
		4週	歴史的背景と土地利用の決定要因について学ぶ		歴史と土地利用の決定の関係を理解する。		
		5週	交通需要の予測と交通計画手段、立案について学ぶ		交通計画手法について理解する。		
		6週	オープンスペースと公園緑地、公園計画について学ぶ。 都市施設の種類の供給・処理施設計画について学ぶ。 都市環境について学ぶ。		都市施設の種類の、必要性をりかいする。		
		7週	立案プロセスと地区計画の種類のについて学ぶ。 住宅地の計画について学ぶ。		住宅地の計画について立案プロセスを理解する。		
		8週	中心地区の計画、工業地区の計画について学ぶ		中心地区の計画、工業地区の計画について学ぶ。		
	4thQ	9週	各国の都市計画制度について学ぶ。		各国の都市計画制度について理解する。		
		10週	都市計画の執行の主体と、執行のための社会的拘束、そのための施策、財源について学ぶ		都市計画の執行主体と社会的拘束、施策、財源について理解する。		
		11週	市街化の規制と計画許可制度について学ぶ。		市街化の規制と計画許可制について理解する。		
		12週	地区計画制度、地域地区制、その他の規制手段について学ぶ。		地区計画制度、地域地区制について理解する		
		13週	都市施設の種類の施設整備の問題点について学ぶ。 土地区画整理事業について学ぶ。		都市施設の種類の、整備の問題点をりかいする。 土地区画整理事業について理解する。		
		14週	新開発手法としてニュータウン開発について学ぶ。 都市更新と再開発について学ぶ。		ニュータウン開発の利点と問題を理解する。 都市更新と再開発について理解する		
		15週	学年末試験		学習成果を確認する		
		16週	試験解説、ポートフォリオ記入		ポートフォリオ記入		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20

分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20
---------	----	---	---	---	---	---	----

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築実務概論
科目基礎情報						
科目番号	0052		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	特に使用しない					
担当教員	林田 義伸,宇都 博徳,柴 睦巳,瀬川 洋一郎,橋口 芳弘					
到達目標						
1) 各講師が主張する建築についての考え方や、実務への取り組みを理解し、概説できること。 2) 各講師の主張に対し、自分なりの意見を主張できること。 3) 講師によっては、授業中に独自の課題が与えられるが、その課題を実施すること。 なお、達成目標は、各講師ごとに達成されること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	講師が主張する建築についての考え方や実務の取り組みについて概説し、その内容に関し受講者の明確な考え方を踏まえて論評できること。		講師が主張する建築についての考え方や実務の取り組みについて概説し、その内容について論評できること。		講師が主張する建築についての考え方や実務の取り組みについて概説できる。	
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (d) JABEE (e) JABEE B2						
教育方法等						
概要	6人の非常勤講師（瀬川洋一郎・蒲牟田健作・柴睦巳・宇部博徳・橋口芳弘・亀田明彦）による講義を通じて建築デザインや施工等の実務や,実践的方法論を学ぶ。					
授業の進め方・方法	非常勤講師により、独自の授業が実施される。各時間の授業内容に関し整理し、ノートを作成すること。各講師による講義終了後に、レポートを作成する。					
注意点	特になし。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	答えのない問題に答える（瀬川洋一郎）		建築実務は本質的に「統合する技能」を求められる。問題を個別に解決する知識とは別に、「答えのない問題」に対処する能力を問われる。住宅設計から都市計画まで幅広い事例をトピックに、自己錬磨のための「問いの立て方」を講義する。	
		2週	答えのない問題に答える（瀬川洋一郎）		建築実務は本質的に「統合する技能」を求められる。問題を個別に解決する知識とは別に、「答えのない問題」に対処する能力を問われる。住宅設計から都市計画まで幅広い事例をトピックに、自己錬磨のための「問いの立て方」を講義する。	
		3週	地域に根ざした建築設計のあり（講師：・柴睦巳）		宮崎県北の村、旧南郷村（現美郷町南郷区）で行われた「百済の里づくり」の、ソフト、ハードの両面から、その始まり、過程、そして現在の姿について紹介する。また現在、講義担当者が取組んでいる諸塚村の山と関わった「産直住宅」について紹介する。	
		4週	地域に根ざした建築設計のあり（講師：・柴睦巳）		宮崎県北の村、旧南郷村（現美郷町南郷区）で行われた「百済の里づくり」の、ソフト、ハードの両面から、その始まり、過程、そして現在の姿について紹介する。また現在、講義担当者が取組んでいる諸塚村の山と関わった「産直住宅」について紹介する。	
		5週	住宅の設計はおもしろい（講師：蒲牟田健作）		人はなぜ家をつくろうとするのか、建築家に一体何を望んでいるのか。クライアントと建築家の温度差は常に一定ではない。独立後の約10年間でこれまで対峙してきた約100組のマイノリティなクライアントの多種多様に及ぶリクエストとそのプロセスを踏んで生まれた住宅たちを紹介していく。	
		6週	住宅の設計はおもしろい（講師：蒲牟田健作）		人はなぜ家をつくろうとするのか、建築家に一体何を望んでいるのか。クライアントと建築家の温度差は常に一定ではない。独立後の約10年間でこれまで対峙してきた約100組のマイノリティなクライアントの多種多様に及ぶリクエストとそのプロセスを踏んで生まれた住宅たちを紹介していく。	
		7週	建設工事の現場管理の現状と実務経験からのアドバイス（講師：亀田明彦）		講師が経験してきた施工現場を参考にしながら、建物を創る事は「大変だ！」でも「面白い！」と言う事を、具体的に紹介する。さらに、建設業の現状を踏まえて、建物を造るのに必要な事を講義する	
		8週	建設工事の現場管理の現状と実務経験からのアドバイス（講師：亀田明彦）		講師が経験してきた施工現場を参考にしながら、建物を創る事は「大変だ！」でも「面白い！」と言う事を、具体的に紹介する。さらに、建設業の現状を踏まえて、建物を造るのに必要な事を講義する	

2ndQ	9週	木造建築の設計施工（講師：橋口芳弘）	杉材の利用技術について概説する。講義は、人工林スギの材料特性、工学的な木材利用の歴史、スギを活用するための性能仕様書づくり等を紹介し、スギの特徴を活かした「木の花ドーム」などの事例を交えて木造の設計・製作・施工・維持管理の建築実務を解説する。また、C L T 建材・建築の最新情報を説く。
	10週	木造建築の設計施工（講師：橋口芳弘）	杉材の利用技術について概説する。講義は、人工林スギの材料特性、工学的な木材利用の歴史、スギを活用するための性能仕様書づくり等を紹介し、スギの特徴を活かした「木の花ドーム」などの事例を交えて木造の設計・製作・施工・維持管理の建築実務を解説する。また、C L T 建材・建築の最新情報を説く。
	11週	木造建築の設計施工（講師：橋口芳弘）	杉材の利用技術について概説する。講義は、人工林スギの材料特性、工学的な木材利用の歴史、スギを活用するための性能仕様書づくり等を紹介し、スギの特徴を活かした「木の花ドーム」などの事例を交えて木造の設計・製作・施工・維持管理の建築実務を解説する。また、C L T 建材・建築の最新情報を説く。
	12週	設計デザインの社会性と自己表（講師：・宇部博徳）	設計過程におけるコンセプト展開の実例やコンピュータグラフィックを用いた新しい設計手法などの話題を紹介するとともに、それらを通じて建築デザインの社会性と自己表現の関係やこれからの設計者のスタンスについても考える。
	13週	設計デザインの社会性と自己表（講師：・宇部博徳）	設計過程におけるコンセプト展開の実例やコンピュータグラフィックを用いた新しい設計手法などの話題を紹介するとともに、それらを通じて建築デザインの社会性と自己表現の関係やこれからの設計者のスタンスについても考える。
	14週	設計デザインの社会性と自己表（講師：・宇部博徳）	設計過程におけるコンセプト展開の実例やコンピュータグラフィックを用いた新しい設計手法などの話題を紹介するとともに、それらを通じて建築デザインの社会性と自己表現の関係やこれからの設計者のスタンスについても考える。
	15週	まとめ	各講師のレポート評価について、考察する。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	0	0	0	0	30	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	構造演習
科目基礎情報						
科目番号	0053		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	なし（資料を適宜配布する。）					
担当教員	加藤 巨邦,浅野 浩平					
到達目標						
後期分について以下に示す。 1）構造架構における、力のつりあい・反力・部材に生じる力・断面の性質・部材の応力度について理解し、架構の力学特性を説明することができる。 2）建築物に用いられている代表的な構造方法である、木造、鉄筋コンクリート造、鋼構造について、材料及び構造を理解し、各々の構造特性を説明することができる。 3）建築基準法で規定されている耐震設計法（構造計算に用いる荷重・外力の設定、構造計画）を理解し、設計時に配慮することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	多種多様な構造架構に対して、適切な解法で応力度等を算出し、適切な表現で力学特性を説明することができる。		基本的な構造架構に対しては、適切な解法で応力度等を算出し、力学特性を説明することができる。		一部の構造架構に対して、反力等の算出だけは行うことができる。	
評価項目2	上記3種類の構造方法に対して、色々な構造材料の種類や性質及び構造特性を、適切な表現で説明することができる。		基本的な構造材料の種類と構造特性については、適切な表現で説明することができる。		一部の構造方法に対しては、構造特性を説明することができる。	
評価項目3	現行法の耐震設計法を理解し、様々な架構に対する設計時においては、適切に配慮して用いることができる。		耐震設計法は理解し、基本的な架構に対しては、設計時において、適切に配慮することができる。		耐震設計法の概要は説明することができる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d)						
教育方法等						
概要	本科過程で履修した構造関係（建築構造材料、材料力学、構造力学、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、木造、壁構造、地盤・基礎、荷重・外力、構造計画等）の学修内容を、演習を通して総復習し、それぞれを融合させながら各々の理解を深めることを目的とする。（前期分は別紙参照のこと。）					
授業の進め方・方法	1）配布資料や課題レポート等を通じて理解を深めること。 2）当該授業時間で進行する部分に関連する教科書等を持参すること。 3）事前学習により、当該授業時間で進行する部分の構造内容について、自主的に予習（過去の復習）しておくこと。 4）自己学習として、1年次から4年次までに使用した教科書、及び、5年次で使用している教科書に掲載されている例題、及び、当時のレポート課題等を再度解いて、内容を整理しておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週	授業計画の説明、構造力学及び材料力学－1		力のつりあい、反力、部材に生じる力の算出方法について復習し、理解を深める。	
		2週	構造力学及び材料力学－2		力のつりあい、反力、部材に生じる力の算出方法について復習し、理解を深める。	
		3週	構造力学及び材料力学－3		断面1次モーメント・断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径・剛度と剛比等の断面の性質、及び、部材の応力度の算出方法について復習し、理解を深める。	
		4週	構造力学及び材料力学－4		断面1次モーメント・断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径・剛度と剛比等の断面の性質、及び、部材の応力度の算出方法について復習し、理解を深める。	

		5週	木造－ 1	木造に関する各種材料（木材、木質系材料）について復習し、理解を深める。
		6週	木造－ 2	木造に関する各種構造（耐力壁、各部構造、接合部）について復習し、理解を深める。
		7週	木造－ 3	木造に関する各種構造（耐力壁、各部構造、接合部）について復習し、理解を深める。
		8週	鉄筋コンクリート造－ 1	鉄筋コンクリート造に関する各種材料（鉄筋、コンクリート）について復習し、理解を深める。
	4thQ	9週	鉄筋コンクリート造－ 2	鉄筋コンクリート造に関する各種構造（梁、柱、床板、耐震壁、主筋・せん断補強筋に関する配筋及び配筋比、定着方法）について復習し、理解を深める。
		10週	鉄筋コンクリート造－ 3、壁構造	鉄筋コンクリート造に関する各種構造（梁、柱、床板、耐震壁、主筋・せん断補強筋に関する配筋及び配筋比、定着方法）について復習し、理解を深める。 壁式鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造について復習し、理解を深める。
		11週	鉄骨造－ 1	鉄骨造に関する材料の性質や特徴について復習し、理解を深める。
		12週	鉄骨造－ 2	鉄骨造に関する各種構造（ボルト接合及び高力ボルト接合、溶接接合、柱梁接合部、柱脚部、ブレース接合部、各部材の設計、座屈現象）について復習し、理解を深める。
		13週	鉄骨造－ 3	鉄骨造に関する各種構造（ボルト接合及び高力ボルト接合、溶接接合、柱梁接合部、柱脚部、ブレース接合部、各部材の設計、座屈現象）について復習し、理解を深める。
		14週	荷重・外力、構造計画	固定荷重と積載荷重の算定方法及び荷重の組合せに関する設定方法、地震力及び風圧力の算出方法、構造計画（耐震要素の配置計画、剛性分布のバランスの確認）について復習し、理解を深める。
		15週	地盤・基礎、各種構造、構造一般	液状化、地盤調査、基礎、基礎構造について復習し、理解を深める。 免震構造、制振構造、耐震診断、耐震補強、その他の構造技術について復習し、理解を深める。
		16週	学年末試験における、試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	20	60
専門的能力	20	0	0	0	0	20	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	木質構造
科目基礎情報						
科目番号	0054		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	大岡 優					
到達目標						
1) 木造建築物の構法や構造について理解できる。 2) 木材および木質系材料の特徴（樹種・製造方法・強度特性・含水率・経年劣化など）について理解できる。 3) 木造建築物の設計法や耐震診断法について理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築材料としての木材の長所や短所が説明できる。		木材の強度について、ヤング係数や強さなどの数値を用いて定量的に説明できる。		木材の樹種について、色・匂い・重さなど、それぞれの特徴が理解できる。	
評価項目2	地震や風などの外力が、木造建築物にどのように影響するのか説明できる。		床・壁・接合部など、木造建築物の構造要素について説明することができる。		木質系材料の種類・特徴について説明ができる。	
評価項目3	具体的な構造計算ができる。		それぞれの構造設計法において、どのような手順で計算が行われているのか理解できる。		木造建築物の構造設計法について、それぞれの特徴が理解できる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d)						
教育方法等						
概要	木造建築物の構法・構造および使用されている材料の特徴について把握し、設計法や耐震診断法について理解することができる。					
授業の進め方・方法	本科の構造関連科目（構造力学・建築材料など）について良く復習しておくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	木質構造物の構法・構造(1)		在来軸組構法・枠組壁工法・プレハブ構法・大規模木造について理解できる。	
		2週	木質構造物の構法・構造(2)		在来軸組構法・枠組壁工法・プレハブ構法・大規模木造について理解できる。	
		3週	木材と木質系材料(1)		木材の樹種と特徴<強度特性・含水率・密度>について理解できる。	
		4週	木材と木質系材料(2)		木材の樹種と特徴<強度特性・含水率・密度>について理解できる。	
		5週	木材と木質系材料(3)		木質系材料の特徴<製造方法・強度特性>について理解できる。	
		6週	木材と木質系材料(4)		木質系材料の特徴<製造方法・強度特性>について理解できる。	
		7週	木造建築物の耐久性		虫害・腐朽・紫外線などの劣化概要・対策について理解できる。	
		8週	木造建築物の耐火性		火災の特性と対策について理解できる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	木質構造の構造設計(1)		構造計算（壁量計算・許容応力度等計算など）の概要について理解できる。	
		11週	木質構造の構造設計(2)		設計荷重(固定荷重・風荷重・地震荷重など)の考え方について理解できる。	
		12週	木質構造の構造設計(3)		部材の設計（引張・圧縮・曲げ・せん断など）について理解できる。	
		13週	木質構造の構造設計(4)		壁の設計、壁量計算について理解できる。	
		14週	木質構造の構造設計(5)		壁の設計、壁量計算について理解できる。	
		15週	前期末試験			
		16週	試験答案の返却及び解説			
後期	3rdQ	1週	木質構造の構造設計(6)		地盤調査方法、基礎の設計について理解できる。	
		2週	木質構造の構造設計(7)		水平構面（床・小屋組）の設計について理解できる。	
		3週	木質構造の構造設計(8)		水平構面（床・小屋組）の設計について理解できる。	
		4週	木質構造の構造設計(9)		接合部の設計（釘・ボルト・金物など）について理解できる。	
		5週	木質構造の構造設計(10)		接合部の設計（釘・ボルト・金物など）について理解できる。	
		6週	木質構造の構造設計(11)		接合部の設計（釘・ボルト・金物など）について理解できる。	
		7週	木質構造の構造設計(12)		接合部の設計（釘・ボルト・金物など）について理解できる。	

		8週	木質構造の構造設計(13)	接合部の設計（釘・ボルト・金物など）について理解できる。
	4thQ	9週	後期中間試験	
		10週	伝統構法建物の構法・構造(1)	神社・仏閣、古民家、町家などの構法・構造について理解できる。
		11週	伝統構法建物の構法・構造(2)	神社・仏閣、古民家、町家などの構法・構造について理解できる。
		12週	伝統構法建物の耐震要素	傾斜復元力、接合部（仕口）のめり込み、土壁のせん断抵抗などについて理解できる。
		13週	伝統構法建物の耐震診断(1)	限界耐力計算などによる耐震診断法の説明・計算について理解できる。
		14週	伝統構法建物の耐震診断(2)	限界耐力計算などによる耐震診断法の説明・計算について理解できる。
		15週	学年末試験	
		16週	試験答案の返却及び解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	10	30
専門的能力	60	0	0	0	0	10	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	防災工学	
科目基礎情報							
科目番号	0055			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	大岡 優						
到達目標							
1)各災害の発生メカニズムを理解できる。 2)過去に起こった災害事例より、防災に対する課題を理解できる。 3)現在行われている防災対策について理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	災害の発生メカニズムについて良く理解し、工学的な説明をすることができる。			災害について、どのような現象が起点となって起こるのか説明できる。		災害の種類について説明できる。	
評価項目2	過去の災害事例より、当時の社会的背景からみた課題について説明できる。			過去の災害事例より、どのような被害ができたのか説明ができる。		過去にどのような災害が発生したのか説明できる。	
評価項目3	現在の防災対策について良く理解し、現状の課題と解決案について検討することができる。			現在行われている防災対策について、工学的な説明をすることができる。		現在、どのような防災対策が行われているのか説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (c) JABEE (d)							
教育方法等							
概要	地震・津波・風水害・地盤災害といった災害を中心に、その発生メカニズムと過去に起こった事例、防災対策について学習する。						
授業の進め方・方法	建築構造・数学（微積分）などの科目について復習すること。						
注意点							
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	地震防災（1）		地震の発生メカニズムについて理解できる。		
		2週	地震防災（2）		地震災害の実例について理解できる。		
		3週	地震防災（3）		地震災害の実例について理解できる。		
		4週	地震防災（4）		地震に対する防災対策について理解できる。		
		5週	津波防災（1）		津波の発生メカニズムについて理解できる。		
		6週	津波防災（2）		津波災害の実例について理解できる。		
		7週	津波防災（3）		津波に対する防災対策について理解できる。		
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	風水害に対する防災（1）		風水害の発生メカニズムについて理解できる。		
		10週	風水害に対する防災（2）		風水害の実例・防災対策について理解できる。		
		11週	地盤防災（1）		地盤災害の発生メカニズムについて理解できる。		
		12週	地盤防災（2）		地盤災害の実例について理解できる。		
		13週	地盤防災（3）		地盤災害に対する防災対策について理解できる。		
		14週	その他の災害		火山・干ばつなどについて理解できる。		
		15週	学年末試験				
		16週	試験答案の返却及び解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	5	25
専門的能力	60	0	0	0	0	10	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	5	5

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築生産学
科目基礎情報						
科目番号	0056		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	鯉田和夫著 「最新建築施工」（技報堂出版）/日本建築学会, 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」, 建築大辞典, その他市販の建築士学科試験問題集					
担当教員	原田 志津男					
到達目標						
1) 建築請負契約を締結する際の手続きと締結後の施工者の権利と義務を理解し, 説明できること. 2) 種々の施工管理項目の意義を理解し, 代表的な管理手法を説明できること. 3) 各工事の関連性を理解するとともに, 各種工事における代表的な工法の種類および特徴を説明できること.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	健全な建築請負契約のあり方を論じることができる.		請負契約締結後の施工者の権利と義務を解説できる.		請負契約の意義と必要性が説明でない.	
評価項目2	施工管理業務を遂行する上での技術者に求められる資質を論じることができる.		管理内容に則した現場組織のあり方について説明できる.		施工管理業務における主たる管理項目を説明できない.	
評価項目3	各工事における代表的な工法のみならず, 特殊な工法の知識も具備し, 施工条件に適した工法を提示できる.		各工事における代表的な工法およびその特徴を説明できる.		各工事に用いられる材料の種類特徴を説明できない.	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (b) JABEE (c) JABEE (d) JABEE B2						
教育方法等						
概要	建築技術者として修得しなければならない生産管理技術の基本事項を理解すること. 建設業法等の各種法令規則を学び, 建築技術者としての法令遵守精神を涵養すること. また, 建物の請負契約締結後の「工事の準備～仕上工事」までの各種工事における代表的な工法を学習し, 建築施工技术に関する基礎的知識を修得することを目標とする.					
授業の進め方・方法	・基本的にはテキストを中心に授業を進めるが, 適宜, プロジェクター, ビデオ等を用いた授業も行う. 授業中, 比較的多くの板書説明を行うので, ノートはしっかりとるように心がけること. また, 授業でプロジェクターを使用するときは, 大量の資料を配布するので試験前に見直しができるように整理しておくこと. ・後期中間試験は実施しない.					
注意点	・本校では, 建築生産学を未修得で卒業した場合, 建築生産科目の単位不足のため, 高専卒業後, 4年間の実務経験を経ても, 一級建築士試験の受験資格が認めれません. ・単位未修得により専攻科に進学した場合, 建築材料・施工・構法分野の単位不足のため, 学士取得はできません.					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画・授業内容の説明		授業計画・達成目標・成績の評価方法を理解する.	
		2週	建設業法		建設業法の目的と内容を説明できる.	
		3週	請負制度・発注・入札		・請負契約（見積り、積算を含む）について説明できる. ・発注形式及び入札方法について説明できる.	
		4週	請負契約		・工事契約書の記載事項, 建築生産における発注者および請負者の権利と義務について説明できる. ・瑕疵・保証について説明ができる.	
		5週	施工管理		5大管理項目（品質、原価、工程、安全、環境）の特徴について説明できる.	
		6週	各種届出および災害防止関連法規		・各種書類の行政への届出先と期限について説明できる	
		7週	工程管理		・ネットワーク工程表の計算ができる. ・バーチャート工程表について説明できる.	
		8週	第7週までの内容の復習（前期中間試験）		試験により第7週までの授業内容の理解度を確認し, 不十分な部分の復習を行うことができる.	
	2ndQ	9週	中間試験結果に基づき, ポートフォリオにより自己の理解度の客観的評価を行う.			
		10週	施工計画		・工事の流れ（仮設・準備・基礎・地業・躯体・仕上げ・設備（電気・空調・給排水・衛生）・解体）について説明できる. ・現場組織の編成について説明できる ・設計図書と施工図の関係について説明できる.	
		11週	地盤調査		着工前に行う地盤調査および土質試験方法等について説明できる.	
		12週	仮設工事		仮設, 仮設建物, 足場および災害防止法について説明できる.	
		13週	土工事（その1）		山留の設置基準, 水の処理方法について説明できる.	
		14週	土工事（その2）		・山留壁・山留工法の種類について説明できる. ・山留壁の崩壊現象とその対策について説明できる.	
		15週	第10週～第14週までの内容の復習（前期末試験）		試験により第10週～第14週までの授業内容の理解度を確認し, 不十分な部分の復習を行うことができる.	
		16週	前期末試験結果に基づき, ポートフォリオにより自己の理解度の客観的評価を行う.			

後期	3rdQ	1週	地業・基礎工事（その１）	地業全般および直接基礎工事について説明できる。
		2週	地業・基礎工事（その２）	既製杭の種類および工法について説明できる。
		3週	地業・基礎工事（その３）	場所打ちコンクリート杭の工法および地盤改良法について説明できる。
		4週	鉄筋工事（その１）	・鉄筋の加工について説明できる。 ・継手（重ね、圧接、機械式、etc.）の仕組みについて説明できる。 ・定着の仕様とメカニズムについて説明できる。
		5週	鉄筋工事（その２）	・鉄筋の組立ての基準・仕様について説明できる。 かぶりの必要性、かぶり厚さの基準・仕様・法令について説明できる。
		6週	型枠工事（その１）	・型枠の材料、種類をあげることができる。 ・型枠の組立て手順について説明できる。
		7週	型枠工事（その２）	・せき板の存置期間について説明できる。 ・支保工の存置期間について説明できる。
		8週	コンクリート工事（その１）	・使用材料の試験・管理値について説明できる。 ・生コンの発注について説明できる。
	4thQ	9週	コンクリート工事（その２）	・運搬・締固め（打込み）の方法・手順について説明できる。 ・養生の必要性について説明できる。
		10週	鉄骨工事（その１）	工場製作，現場組立て（建方）方法、工法について説明できる。
		11週	鉄骨工事（その２）	・各種接合法について説明できる。 ・柱脚と基礎の接合法，耐火被覆について説明できる。
		12週	木工事	木工事に主な留意点について説明できる。
		13週	その他の工事	防水工事及びタイル工事等における各種工法について説明できる。
		14週	保守・維持管理	建築物の保守・維持管理の概要・現状について説明できる。
		15週	後期の授業内容の復習（学年末試験）	試験により後期の授業内容の理解度を確認し，不十分な部分の復習を行うことができる。
		16週	学年末試験結果に基づき，ポートフォリオにより自己の理解度の客観的評価を行う。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	5	15
専門的能力	70	0	0	0	0	15	85
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築環境工学
科目基礎情報						
科目番号	0057		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	田中俊六・武田仁他2名著, 最新建築環境工学改訂 4 版(井上書院)					
担当教員	小原 聡司					
到達目標						
1)単位や語句の定義がある程度説明できること。 2)関連する図表類を利用してある程度の予測や見積もり値を読み取れること。 3)簡易な手計算(関数電卓使用)である程度の予測や見積もり計算ができること。 4)その分野全体に関する重要事項をある程度説明できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低到達レベルの目安(可)	
評価項目1	その数値にあった単位を正確に記述したり, 組み合わせができること。語句は必要十分な説明ができること。 その数値にあった単位を正確に記述したり, 組み合わせができること。語句は必要十分な説明ができること。		その数値にあった単位をある程度正確に記述したり, 組み合わせができること。語句はある程度の説明ができること。		助言があればその数値にあった単位に記述したり, 組み合わせができること。語句は助言があれば説明ができること。	
評価項目2	関連する図表類を利用してある数値や見積もり値を正確に読み取れること。		関連する図表類を利用してある数値や見積もり値をある程度正確に読み取れること。		助言があれば関連する図表類を利用してある数値や見積もり値を読み取れること。	
評価項目3	簡易な手計算(関数電卓使用)で正確に予測や見積もり計算ができること。		簡易な手計算(関数電卓使用)である程度正確に予測や見積もり計算ができること。		助言があれば簡易な手計算(関数電卓使用)である程度正確に予測や見積もり計算ができること。	
評価項目4	その分野全体に関する重要事項を(ほぼ完全に説明でき, 文章の正誤問題や修正問題がほぼ正確に解答)できること。		その分野全体に関する重要事項をある程度文章で説明でき, 文章型の正誤問題や修正問題がある程度正確に解答できること。		助言があればその分野全体に関する重要事項を文章で説明でき, 文章型の正誤問題や修正問題も解答できること。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d) JABEE B2						
教育方法等						
概要	建物周囲の自然環境を利用あるいは制御して, 建物内部の人間が安全かつ快適な生活を送ることができるような技術に関する知識を得, 設計において環境を考慮した計画ができるようになること。同時に, 各種の図表を利用した演習に関数電卓を利用して解くことにより, 建築環境の定量的評価が正確にできるようになること。					
授業の進め方・方法	講義内容の理解度や応用性を高めるため, (ほぼ毎時間, 作図や計算機を使った例題や演習を行うので, 常に目盛り付き定規及び計算機(できればプレイバック機能付き電卓かポケコンが望ましい。))を持参すること。 準備学習としてシラバスに沿った教科書該当分野の予習をすること。さらに自己学習としてほぼ毎回の課題があるので, これを提出すること。これらは事後学習として評価する。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 授業計画の説明授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明。			
		2週	2. 換気計算(4年からの続き) 2-1 並列結合及び直列結合について理解し, 換気経路全体の総合実効面積や圧力差を用いて換気量計算を行う。			
		3週	2-2 シックハウス シックハウス・ビル・スクールの原因物質, 被害, 対策(新築建物と既築建物)を学ぶ。			
		4週	2-3 換気計画 自然換気・機械換気を行う場合の原則(通風輪道・計画換気)を理解し, 建物や 3. 建築伝熱 3-1 熱移動の原理と法則 熱伝導及び熱伝達などの熱移動の種類, 一次元壁体の定常熱伝導式を学ぶ。			
		5週	3. 建築伝熱 3-1 熱移動の原理と法則 熱伝導及び熱伝達などの熱移動の種類と式を学ぶ。		伝熱の基礎について説明できる。	
		6週	3-2 熱移動の種類 対流・放射熱伝達現象を理解する。1次元熱伝導式の成り立ち学ぶ。定常と非定常の違いを学ぶ。			
		7週	3-3 熱貫流率と熱貫流抵抗 その1 熱貫流率Kと熱貫流抵抗R, 単層壁・多層壁の熱貫流計算方法を学ぶ。		熱貫流について説明できる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説, 訂正作業, ポートフォリオの記入			
		10週	3-4 熱貫流率と熱貫流抵抗 その2 壁およびその内部の温度分布計算, 特殊な場合(熱橋)の熱貫流計算を理解する。			

後期		11週	同上	
		12週	3-5 特殊な熱貫流計算 相当外気温度を用いた熱貫流計算方法を理解する。	
		13週	3-6 断熱性能の指標 熱取得・熱損失の概念、暖房時の損失熱量の理由を理解し、仮想室温を用いて自然室温を求める。	室温の形成について理解している。
		14週	同上	
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験の返却と解説、訂正作業、ポートフォリオ記入	
	3rdQ	1週	4. 湿気・結露 結露とその対策 湿り空気線図により結露の分類と原因、露点温度、結露防止対策、雨や雪による温湿度と結露の関係を知る。	湿り空気、空気線図について説明できる。
		2週	4-2 透湿及び湿気に関する物性値 透湿係数、透湿抵抗、湿気伝達率の概念を学び、湿気伝導抵抗を求める。	
		3週	4-3 結露判定 多層壁内の温度分布と水蒸気圧分布から結露発生の有無を判定する。	結露現象について説明できる。
		4週	5. 快適条件 5-1 温熱環境と快適指標 人体と熱環境、快適性の定義、温熱感(4要素)と快適感、快適感指標と快適感指数を理解する。	人体と熱について説明できる。温熱環境要素について説明できる。
		5週	5-2 各種快適感指標 MRT, ET*, PMVなどの各種快適感指標の意味、特徴、求め方、使い方を理解する。(カタ冷却力、グローブ温度)	温熱環境指標について説明できる。
		6週	同上(MRT, θ_{wm} , DI)	温熱環境指標について説明できる。
		7週	同上(ET _j からET*)	温熱環境指標について説明できる。
		8週	同上(PMV)	温熱環境指標について説明できる。
	4thQ	9週	同上(PMVの計算)	
		10週	6. 建築音響 6-1 音の定義 音の物理的特性(伝播速度、音を構成する要素とその数式表現方法)と聴覚の仕組みと特徴を理解する。	音の物理的特性について説明できる。聴覚の仕組みについて説明できる。
		11週	同上	
		12週	6-2 音の単位音の強さ、IL, SPL, PWL, 音レベルの合成と分解, LL, S, PhonとdB(A)とホンなど音の単位の意味と使い方を理解する。	音の単位について説明できる。
		13週	音の大きさの単位と騒音心理	音心理の三大特性と大きさとうるささについて説明できる。
		14週	6-3 音響障害 音の焦点, エコー, 鳴龍など避けるべき音響現象及び回折, 減衰, 遮音, 音響計画の知識を得、避けうる方法を理解する。	吸音と遮音, 残響について説明できる。音の伝播, 減衰, 回折について説明できる。吸音材料の仕組み, 音響計画について説明できる。
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験の返却と解説、訂正作業、ポートフォリオ記入	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他(レポート)	合計
総合評価割合	67	0	0	0	0	33	100
知識の基本的な理解	10	0	0	0	0	11	21
思考・推論・創造への適応力	20	0	0	0	0	11	31
汎用的技能	37	0	0	0	0	11	48

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築設備
科目基礎情報						
科目番号	0058		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「建築設備」 小笠原祥五 川瀬太郎 前島健 共著 市ヶ谷出版社、「空気調和衛生工学便覧、第12版」 空気調和衛生工学会 編					
担当教員	平川 晃					
到達目標						
建築設備の全容を理解し、用語の理解を全体的に行う。簡単な建築設備の設計が出来るよう学習する。建築設備の種類を理解し既存の設備内容が説明出来るようにする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築設備の各方式を理解し、説明できるようにする。		各方式の原理・原則を理解し説明出来るようにする。		建築設備の概要を理解し、全体の把握を行うことができない。	
評価項目2	住宅などの簡単な建築物の設計が出来るようにする。		事務所ビル等の特性を理解し、設計出来るようにする。		各種用途の建築物の特性を理解し、設計出来ない。	
評価項目3	住宅などの簡単な建築物の説明が出来るようにする。		事務所ビル等の特性を理解し、説明出来るようにする。		各種用途の建築物の特性を理解し、説明出来ない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d) JABEE (e) JABEE B2						
教育方法等						
概要	建築物内部の諸設備並びに建築物に関連のある諸施設について、その概要・構造・機能・基本設計・施工技術・関係法規・建築物との関連を理解し、建築物を計画・設計・施工する際の知識として役立る。					
授業の進め方・方法	数学、物理、化学の高等学校での学習程度を理解しておくことが望ましい。建築設備の教科書を元に建築設備の基礎知識を勉強する。特に復習に重点をおいて学習すること。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 給水設備		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		2週	給水設備		設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		3週	給水設備		設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		4週	給水設備		設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		5週	給水設備		設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		6週	給湯設備		設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		7週	給湯設備		設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		8週	衛生器具設備		材料、種類、用途、施工技術を説明することができる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		試験により第8週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。	
		10週	試験答案の返却及び解説 排水通気設備		試験問題の解説及びポートフォリオの記入 設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		11週	排水通気設備		設備方式、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		12週	浄化槽設備		汚水水質、浄化装置、構造法規を説明することができる。	
		13週	消火設備		消防法、各種消火設備、施工を説明することができる。	
		14週	ガス設備		設備種類、基本設計、施工、関係法規を説明することができる。	
		15週	その他の設備		設備種類、用途を説明することができる。	
		16週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入	
後期	3rdQ	1週	空気調和設備-空気調和設備の概要		空気調和と室内環境、設備の構成を説明することができる。	
		2週	空気調和設備-空気の性質と空気線図		状態変化、冷却、加熱、加湿、除湿を説明することができる。	
		3週	空気調和設備-熱負荷と空調装置容量		冷暖房負荷計算、装置容量計算を説明することができる。	
		4週	空気調和設備-熱負荷と空調装置容量		冷暖房負荷計算、装置容量計算を説明することができる。	

		5週	空調調和設備-空調方式と熱源方式	空調方式、種類と概要、熱源種類を説明することができる。
		6週	空調調和設備-空調方式と熱源方式	空調方式、種類と概要、熱源種類を説明することができる。
		7週	空調調和設備-空調調和設備の計画と設計	基本計画、基本設計、各種建物の計画を説明することができる。
		8週	空調調和設備-空調調和設備の計画と設計	基本計画、基本設計、各種建物の計画を説明することができる。
	4thQ	9週	空調調和設備-空調調和機器	種類と構造、施工、関係法規、自動制御を説明することができる。
		10週	空調調和設備-空調調和機器	種類と構造、施工、関係法規、自動制御を説明することができる。
		11週	空調調和設備-送風系統、空調設備配管	基本設計、ダクト設計施工、施工技術、関係法規を説明することができる。
		12週	空調調和設備-換気排煙設備	基本計画、設計、施工、建築基準法を説明することができる。
		13週	小テスト 小テスト答案の返却及び解説	小テストにより第12週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。
		14週	電気設備-電気設備の基礎知識、照明	電気設備の基礎知識、照明設備の基礎、基本設計を説明することができる。
		15週	電気設備-その他電気設備	防災・通信・信号・E V設備の基礎、基本計画を説明することができる。
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	小テスト	合計	
総合評価割合		75	25	100	
知識の基本的な理解		40	15	55	
思考・推論・創造への適応力		35	10	45	
汎用的技能		0	0	0	
態度・志向性（人間力）		0	0	0	
総合的な学習経験と創造的思考力		0	0	0	

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築法規
科目基礎情報						
科目番号	0059		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	基本建築関係法令集「法令編」 (株)霞ヶ関出版社、「図解」やさしい建築法規 (株)学芸出版社 今村仁美・田中美都著					
担当教員	中島 喜一郎					
到達目標						
建築関係法令集の読み方・使い方を習得する。用語の定義、一般構造・設備規定、防火規定、避難規定、構造強度規定のうち木造軸組計算方法の理解、集団規定、建築士法、都市計画法、消防法等の基本内容を理解し、法文検索ができる。その他建築関係法令の基本内容を理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築関係法令の内容を理解する。		建築関係法令の内容をほぼ理解する。		建築関係法令の内容を理解できない。	
評価項目2	建築関係法令集を検索できる。		建築関係法令集をほぼ検索できる。		建築関係法令集を検索できない。	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (a) JABEE (d) JABEE (h) JABEE B2						
教育方法等						
概要	建築基準法をはじめとする、基本的建築関係法令の目的・体系・構成の基礎知識と共に、法令の重要かつ必要とされる項目を解説し、建築士・建築技術者としての基本的な建築関係法令の習得を目的とする。					
授業の進め方・方法	建築関係法令は、種類が多いので法令集にインデックスをつけて、必ず整理すること。進行するテキスト部分の法令集を必ず読んでおくこと。					
注意点						
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 建築法規の基礎	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 建築法規・法令集の読み方、使い方を習得する		
		2週	建築法規の基礎	建築法規・法令集の読み方、使い方を習得する		
		3週	建築法規の基礎	建築法規用語の定義の基本を習得し、法文を検索できる		
		4週	建築法規の基礎	建築法規用語の定義の基本を習得し、法文を検索できる		
		5週	建築法規の基礎	建築法規用語の定義の基本を習得し、法文を検索できる		
		6週	建築法規の基礎	一般構造・設備規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		7週	建築法規の基礎	一般構造・設備規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		8週	建築法規の基礎	一般構造・設備規定の基本を習得し、法文を検索できる		
	2ndQ	9週	前期中間試験	試験により第8週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。		
		10週	試験答案の返却及び解説 建築法規の基礎	試験問題の解説及びポートフォリオの記入 建築物の防火規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		11週	建築法規の基礎	建築物の防火規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		12週	建築法規の基礎	建築物の防火規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		13週	建築法規の基礎	建築物の避難規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		14週	建築法規の基礎	建築物の避難規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		15週	建築法規の基礎	構造強度規定のうち木造軸組計算方法を理解する		
		16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入		
後期	3rdQ	1週	建築法規の基礎	手続関係規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		2週	建築法規の基礎	手続関係規定の基本を習得し、法文を検索できる		
		3週	建築法規の実体規定	都市計画区域内の施行令・告示を解説し、法文を検索できる		
		4週	建築法規の実体規定	都市計画区域内の施行令・告示を解説し、法文を検索できる		
		5週	建築法規の実体規定	都市計画区域内の施行令・告示を解説し、法文を検索できる		
		6週	建築法規の実体規定	都市計画区域内の施行令・告示を解説し、法文を検索できる		
		7週	建築法規の実体規定	防火地域等、その他地域、地区の施行令・告示を解説し、法文を検索できる		
		8週	建築法規の実体規定	防火地域等、その他地域、地区の施行令・告示を解説し、法文を検索できる		
	4thQ	9週	建築士法	法令の基礎事項を解説し、法文を検索できる		

	10週	建築士法	法令の基礎事項を解説し、法文を検索できる
	11週	建築士法	法令の基礎事項を解説し、法文を検索できる
	12週	都市計画法	建築に関する法令の基礎事項を解説し、法文を検索できる
	13週	消防法、建設業法	建築に関する法令の基礎事項を解説し、法文を検索できる
	14週	消防法、建設業法	建築に関する法令の基礎事項を解説し、法文を検索できる
	15週	民法、その他、総まとめ	建築に関する法令の基礎事項を解説し、法文を検索できる、復習
	16週	試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	その他	合計
総合評価割合	60	40	100
知識の基本的な理解	60	40	100
思考・推論・創造への適応力	0	0	0
汎用的技能	0	0	0
態度・志向性（人間力）	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築学実験
科目基礎情報						
科目番号	0060		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	原田 志津男,小原 聡司,大岡 優,浅野 浩平					
到達目標						
1)正しい実験方法を修得する。 2)得られたデータの処理手順や方法を修得する。 3)処理したデータの評価方法を正しく適用して結果を評価し、妥当な結論を導出する。 4)実験の目的やデータ、考察をレポートとしてまとめる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	その実験に関する正しい実験方法をよく理解し、グループ内の他の人にもわかりやすく説明できる。		その実験に関する正しい実験方法をある程度理解し、任された実験内容を正しく実験できる。		助言があればその実験に関する正しい実験方法理解でき、任された実験内容をある程度正しく実験できる。	
評価項目2	得られたデータの処理手順や方法をよく理解し、グループ内の他の人にもわかりやすく説明できる。		得られたデータの処理手順や方法をある程度理解し、データを正しく処理できる。		助言があれば得られたデータの処理手順や方法を実行し、データをある程度処理できる。	
評価項目3	処理したデータの評価方法をよく理解して正しく適用・評価し、妥当な結論を導出できる。グループ内の他の		処理したデータの評価方法をある程度理解して適用・評価し、ほぼ妥当な結論を導出できる。		助言があれば処理したデータの評価方法を理解して適用・評価でき、ある程度妥当な結論を導出できる。	
構造力学・木構造学・建築材料・建築環境工学などで扱われている現象あるいは理論を実際に確かめる。また実験機材の使い方を修得すると同時に一連のデータ処理の手順を学ぶことにより、建築学研究や卒業研究等でそのノウハウを活用できるようになる。	授業要目にあるような6テーマを6班でローテーションする。全テーマの実験に出席し、かつレポートを提出すること。公欠など追試験許可願いの2,3,4に準じる条件を満たすような理由（以下「正当な事由」と呼ぶ）なく未実験や未提出レポートがある場合は不可となる。再実験は上記のような正当な事由があり、担当教員が許可すれば行うことがある。準備学習として各テーマに関連する教科書の該当分野の予習をすること。データ処理や考察は時間内では終わらないので、自己学習(事後学習)を行うこと。これらは評価の対象となる。		実験の目的やデータ、考察を資料と論旨で展開したレポートをまとめられる。		助言があれば実験の目的やデータ、考察を資料と論旨で展開したレポートをまとめられる。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d) JABEE B2						
教育方法等						
概要	構造力学・木構造学・建築材料・建築環境工学などで扱われている現象あるいは理論を実際に確かめる。また実験機材の使い方を修得すると同時に一連のデータ処理の手順を学ぶことにより、建築学研究や卒業研究等でそのノウハウを活用できるようになる。					
授業の進め方・方法	授業要目にあるような6テーマを6班でローテーションする。全テーマの実験に出席し、かつレポートを提出すること。準備学習として各テーマに関連する教科書の該当分野の予習をすること。データ処理や考察は時間内では終わらないので、自己学習(事後学習)を行うこと。これらは評価の対象となる。					
注意点	公欠など追試験許可願いの2,3,4に準じる条件を満たすような理由（以下「正当な事由」と呼ぶ）なく未実験や未提出レポートがある場合は不可となる。再実験は上記のような正当な事由があり、担当教員が許可すれば行うことがある。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 班分け、ローテーションの説明、各実験テーマの概要説明			
		2週	1.コンクリートの静的載荷における変形性状(原田) (1)試験の準備および載荷実験			
		3週	1.コンクリートの静的載荷における変形性状(原田) (2)レポート作成			
		4週	2.金属の引張による弾性係数・ポアソン比の測定(浅野) (1)試験体の作製及び実験			
		5週	2.金属の引張による弾性係数・ポアソン比の測定(浅野) (2)レポート作成			
		6週	木質フレームの水平載荷実験(大岡) (1-1)試験準備および載荷実験			
		7週	木質フレームの水平載荷実験(大岡・井上) (1-2)試験準備および載荷実験			
		8週	木質フレームの水平載荷実験(大岡・井上) (2-1)レポート作成			
	2ndQ	9週	木質フレームの水平載荷実験(大岡・井上) (2-2)レポート作成			

		10週	室内温熱環境の測定と体感評価(小原) (1)実験説明及び教室の温熱要素計測	
		11週	室内温熱環境の測定と体感評価(小原)(2)体感指標の計算及びコンター作図	
		12週	道路騒音の測定(小原) (1)実験説明及び国道10号線の道路騒音測定	
		13週	道路騒音の測定(小原) (2)等価騒音レベルの計算及び時間率騒音レベルの作図	
		14週	実験予備日	
		15週	レポート返却と講評等	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	その他(レポート)	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他(レポート)	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	100	200
知識の基本的な理解	0	33	0	0	0	33	66
思考・推論・創造への適応力	0	34	0	0	0	34	68
汎用的技能	0	33	0	0	0	33	66

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築経済	
科目基礎情報							
科目番号	0061		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年		5		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	建築積算（日本建築積算協会）、建築数量積算基準・同解説、建築工事内訳書標準書式・同解説（大成出版社）、建築改修工事の積算、鉄骨工事ガイドブック（日本建築積算協会）						
担当教員	岩佐 貢						
到達目標							
図面や仕様書の読解力を身に付け誤記や不整合が分かるようになる。図面より建築数量の計測・算出の知識や技術を習得する。内訳明細書の作成を行い工事価格の適正な判断能力を習得する。建築生産プロセスに沿って経済的な側面からコスト管理の能力を身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1			拾い出し数量を、工種別に分類整理ができる。	基準に基づいて設計図から数量の計測・算出ができる。		設計図より数量積算に必要な寸法計測ができない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (c) JABEE (d) JABEE (e)							
教育方法等							
概要	建築積算は数量積算が基礎となる。対象となる建築物の建築コストを予測するために、設計図書に基づいて図面から数量を拾い出し、分類整理して内訳書の作成を行う。本講義では、設計図を理解し積算の知識と技術を身につけ、工事価格の算出を目標とする。						
授業の進め方・方法	設計図書（設計図と仕様書）の知識と解読能力が必要であるので、工事現場の視察には積極的に参加し施工中ならびに完成後の建物を注視する。数量積算では演習問題を数多くこなし、問題の解き方が理解できるまで必ず復習をすること。						
注意点							
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 建築積算概説-建築積算とは 建築積算概説-設計図書とは		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明 意義、歴史、業務、役割、数量公開、設計図の構成と種類、工事費の構成、内訳書の作成を説明することができる。		
		2週	建築積算概説-設計図書とは 建築数量積算基準-数量の計測・計算		仮設、土工、地業、躯体、鉄骨、木材、仕上、外構、設備を説明することができる。		
		3週	積算実務（躯体）-数量積算1		仮設・土工・地業の定義、計測・計算の方法を説明することができる。		
		4週	積算実務（躯体）-数量積算2		R C造の定義・区分、計測・計算の方法（コンクリート、型枠、鉄筋）を説明することができる。		
		5週	積算実務（躯体）-数量積算2		R C造の定義・区分、計測・計算の方法（コンクリート、型枠、鉄筋）を説明することができる。		
		6週	積算実務（躯体）-数量積算2		R C造の定義・区分、計測・計算の方法（コンクリート、型枠、鉄筋）を説明することができる。		
		7週	積算実務（躯体）-数量積算3		鉄骨造の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。		
		8週	積算実務（躯体）-数量積算4		木造の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。		
	2ndQ	9週	前期中間試験		試験により第8週までの授業内容の理解度を確認し、不十分な部分の復習を行うことができる。		
		10週	試験答案の返却及び解説 積算実務（仕上）-数量積算1		試験問題の解説及びポートフォリオの記入 外部仕上の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。		
		11週	積算実務（仕上）-数量積算1		外部仕上の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。		
		12週	積算実務（仕上）-数量積算2		内部仕上の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。		
		13週	積算実務（仕上）-数量積算2		内部仕上の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。		
		14週	積算実務（仕上）-数量積算3 積算実務（仕上）-数量積算4		開口部、間仕切りの定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。 屋外施設等の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。		
		15週	積算実務（改修）-数量積算1 積算実務（改修）-数量積算2		仕上改修の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。 耐震補強の定義・区分、計測・計算の方法を説明することができる。		
		16週	試験答案の返却及び解説		試験問題の解説及びポートフォリオの記入		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	定期試験	小テスト	その他	合計
総合評価割合	75	15	10	100
知識の基本的な理解	75	15	10	100
思考・推論・創造への適応力	0	0	0	0
汎用的技能	0	0	0	0
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	卒業研究	
科目基礎情報							
科目番号	0062		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 10			
開設学科	建築学科		対象学年	5			
開設期	通年		週時間数	10			
教科書/教材							
担当教員	林田 義伸,原田 志津男,加藤 巨邦,小原 聡司,中村 孝至						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (a) JABEE (b) JABEE (c) JABEE (d) JABEE (e) JABEE (f) JABEE (g) JABEE (h) JABEE A1 JABEE A2 JABEE B2 JABEE B3 JABEE B4 JABEE C5 JABEE D2 JABEE D3							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	建築デザイン	
科目基礎情報							
科目番号	0063			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	建築を変えた100のアイデア,BNN新社,Richard Weston著／R.I.C.Publications (ほか) 訳						
担当教員	中村 孝至						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	環境デザインの事例について分析し、その思想・手法について説明できる。			環境デザインの現在までのデザインを大まかに説明できる。		環境デザインの基礎的知識がある。	
評価項目2	現代建築のデザインについて、事例などを挙げて系統的に詳しく説明できる。			現代建築のデザインについて、系統的な知識がある。		現代建築のデザインの諸相について断片的な知識がある。	
評価項目3	学習した設計手法に基づいた建築デザインができる。			幾つかの空間デザインの手法について詳細に説明できる。		幾つかの空間デザインの手法について断片的な知識がある。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (a) JABEE (d) JABEE (e) JABEE B2							
教育方法等							
概要	1. 環境デザインの概念を知る。 2. 現代建築のデザインの諸相を知る。 3. 環境デザインの主な手法を知る。						
授業の進め方・方法	ビデオ、パワーポイントによる基礎的な知識を得る。また教科書にあるキーワードをもとに、現代建築の事例を収集し、そのデザイン思想について考察する。						
注意点	建築史で学習した近代建築について復習し、理解しておくこと。 建築計画,建築構造Ⅰ,Ⅱを十分理解しておくこと。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業計画の説明		授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明		
		2週	1.建築から環境デザインへ：環境デザインの定義、方法		環境デザインの定義、方法を知る。		
		3週	1.建築から環境デザインへ：住居・都市における事例		環境デザインの住居・都市における事例を知る。		
		4週	1.建築から環境デザインへ：事例研究		環境デザインの事例を収集し考察し知識を深める。		
		5週	2.日本の建築デザイン手法について		日本の建築デザイン手法および思想を知る。		
		6週	3.現代建築の展開：現代建築についてpptを用いての開設		現代建築史の概要を知る。		
		7週	3.現代建築の展開：James Stirling		James Stirlingの建築デザインを理解する。		
		8週	3.現代建築の展開：Robert VenturiとScott Brown		Robert VenturiとScott Brownのデザイン思想を理解する。		
	4thQ	9週	3.現代建築の展開：Carlo Scarpa		リノベーションについて考察する。		
		10週	3.現代建築の展開：Louis Isadore Kahn,		Louis Isadore Kahnのデザインについて理解する。		
		11週	3.現代建築の展開：Rem Koolhaas他		Rem Koolhaas他の現代建築家とその作品について概要を得る。		
		12週	3.現代建築の展開：日本の現代建築家		日本の現代建築家とその作品について概要を得る。		
		13週	4.発想への技法：教科書の現代建築に関するキーワードに基き、該当する現代建築を収集、考察する。		現代建築に関するキーワードを通して現代建築のデザインの手法及び思想を知る。		
		14週	4.発想への技法：教科書の現代建築に関するキーワードに基き、該当する現代建築を収集、考察する。		現代建築に関するキーワードを通して現代建築のデザインの手法及び思想を知る。		
		15週	4.発想への技法：教科書の現代建築に関するキーワードに基き、該当する現代建築を収集、考察する。		現代建築に関するキーワードを通して現代建築のデザインの手法及び思想を知る。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	10	0	0	0	0	60
専門的能力	20	5	0	0	0	0	25
分野横断的能力	10	5	0	0	0	0	15

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	10	70
専門的能力	20	0	0	0	0	10	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

都城工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	近代建築史	
科目基礎情報							
科目番号	0065			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	藤岡通夫他著「建築史」(市ヶ谷出版社)、日本建築学会編「近代建築図集」(彰國社)						
担当教員	林田 義伸						
到達目標							
1) 産業革命後の西洋の建築様式の展開と、西洋化していく中での日本建築の変化についておおよそ理解し、説明できること。 2) 西欧や日本における近代建築の歴史的に重要な作品の名称、設計者の名前、建築の特徴について示せること。 3) 近代建築史で学んだ知識を元にして、現代における建築の価値や意義について、論じられること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	近代の建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す専門用語を、それぞれ関連づけながら正確に示せる。			近代の建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す主要な専門用語を示せる。		近代の建築史的に重要な作品の名称、設計者の名前や、建築の特徴を示す専門用語が、判別できる。	
評価項目2	近代の建築的發展に影響を及ぼした地域の建築の様式や形式について総合的に理解し、自己の考察を含めて説明できる。			近代の建築的發展に影響を及ぼした地域の建築の様式や形式について、総合的に理解して、説明できる。		近代の建築的發展に影響を及ぼした地域の建築の様式や形式について、概略を説明できる。	
評価項目3	近代の建築史で学んだ知識と明確な関連性を示しながら、現代社会における建築の価値や意義について、独自の視点から論じることができる。			近代の建築史で学んだ知識を元にして、現代社会における建築の価値や意義について、論じることができる。		近代建築の価値や意義について、論じることができる。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (a) JABEE (d) JABEE B2							
教育方法等							
概要	西洋において、近世以前の建築と決別しながら近代の建築が形成される過程について概説すると同時に、アメリカを含む西欧の建築文化の影響を受けた日本近代の建築の変遷について理解する。						
授業の進め方・方法	教科書に沿った内容で、視覚補助資料を用いながら、講義を行う。授業開始前に、西欧及び日本の近代史に関する学習をしておくこと。また、授業前に、教科書を読み、纏めておき、授業を受けた日には、必ず、復習し、自分なりにノートを整理しておくこと。自己学習の成果として、レポートを作成することを課す。						
注意点	西欧及び日本の近代史の理解を必要とする。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	西洋・近世末の西洋建築			西洋の近世末期に見られる、様式建築の崩壊と、近代へと繋がる新しい建築的活動について理解する。	
		2週	西洋・産業革命と建築			産業革命以降発展した、鉄という新素材の構造物について理解する。	
		3週	西洋・近代建築運動の始まり			ウィリアム・モリスの工芸運動や、アール・ヌーボーなど、近代建築運動の始まりについて理解する。	
		4週	西洋・近代建築の造形的開拓			ワグナーの建築理論やゼツェッション、或いは、アメリカのシカゴ派など、新しい建築造形の取り組みについて、理解する。	
		5週	西洋・近代建築様式の確立			近代建築の始まりとして認識されている工場建築や、鉄筋コンクリート造の発展などについて理解する。	
		6週	西洋・第一次世界大戦後の近代建築			第1次世界大戦後に展開した表現主義建築、ディ・ステール、バウハウス等で展開された建築運動	
		7週	西洋・国際建築の発展			国際建築様式の発生や発展、建築の工業化や都市への新しい提案などについて理解する。	
		8週	西洋・1930年代の近代建築			西欧各国における近代建築の普及・発展状況、及び反国際建築・反工業主義建築の動向について理解する。	
	4thQ	9週	西洋・第二次世界大戦後の近代建築			第二次世界大戦後の各国の近代建築の動向について理解する。	
		10週	西洋の「近代建築に関する試験			西洋近代建築の動向に関して、総合的に理解する。	
		11週	日本・産業革命と洋風建築			民間主導によりもたらされた洋風建築について理解する。	
		12週	日本・産業革命と洋風建築			政府主導によりもたらされた産業革命と洋風建築について理解する。	
		13週	日本・耐震建築構造の発展			耐震構造の工夫や耐震構造理論の研究について理解する。	
		14週	日本・近代建築思潮と国際様式の展開			西欧近代建築思潮の影響、近代建築思想の普及、国際様式の展開、和風と洋風の統合などについて理解する。	
		15週	日本・第二次世界大戦後の傾向			産業の発展と近代建築の普及、戦後の代表作品の傾向、都市問題と建築家について理解する。	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	10	30
専門的能力	50	0	0	0	0	10	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	10	10